

五稜



誠実 協調 真理 探求

九海鴻馬子書

校 歌

一、ひんがしに
古城こじやういできて

たたなわる
五稜ごりやうが丘おかは

若人わこうどの
息吹いぶきに満みちぬ

水上みなみに
ふるきをたずね

新しき
光ひかりに立ちて

大いなる
力ちから伸ばさん

二 さくら花ばな
しるしと仰あおぎ

友ともがきの
堅かたく結むすびて

うち鳴ならす
自主じしゆの鐘かねの音ね

ひとすじに
まことを弱さわめ

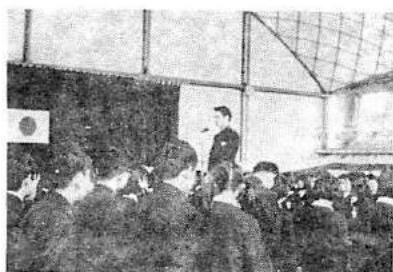
築きずきゆく
理想りきやうのすがた

ああ とわに
われら栄はえあれ



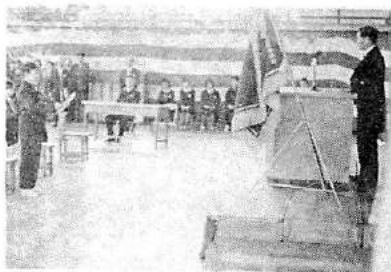
47年度の行事をふりかえる

対面式

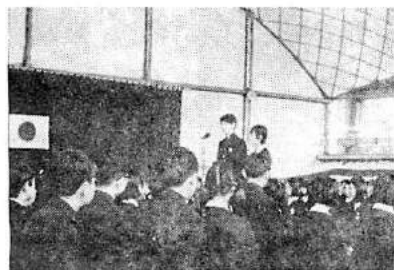


「会長として新入生諸君の努力をのぞむ…」

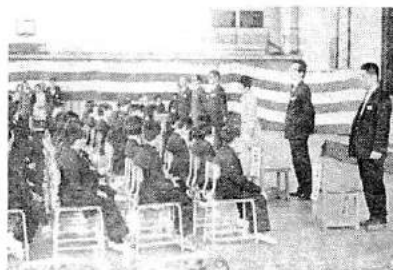
入学式



今日から五稜中生。ガンバリマス。

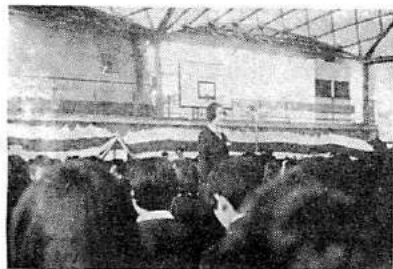


先輩としてみなさんを歓迎します。



よかった…うちの組の先生やさしそう。

新任式



ヨロシク、おねがいたします。

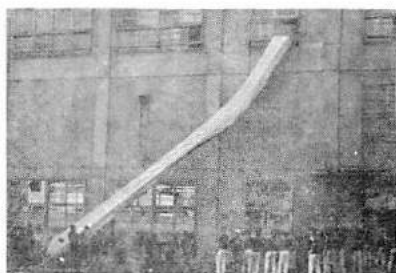


新しい先生、ようこそ。

避難袋訓練



幼い日のスベリ台、なつかしいなあ



止ったらダメ相当重いよ彼。

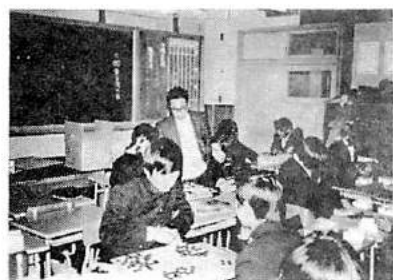
必修

クラブ

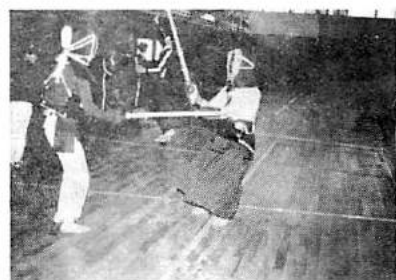


はじまる

せまいところです。がまんします。



本困坊は誰の手に？



剣豪〇〇。エーイ、こて!!

修学

旅行



地獄谷、オニはいませんでした。

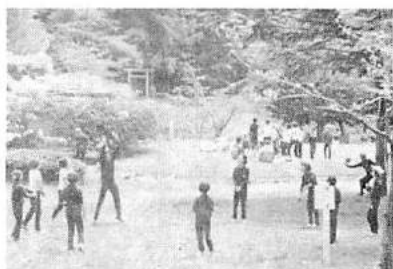


昭和新山って低いねえ。

遠 足 と 体 育 大 会



投げました。おちました。距離…m。



食べるものは食べたし……。



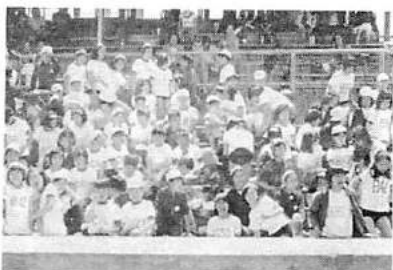
あと何回走らせるんだろ…。



歩くのはイヤだけれど遊びは大好き。



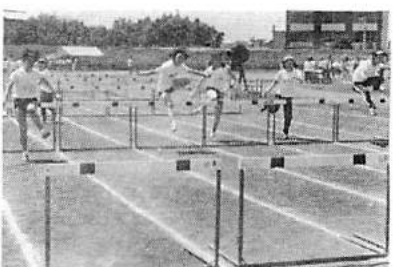
ジャンプ!! お見事!



サインはV、優勝めざしてガンバッター。

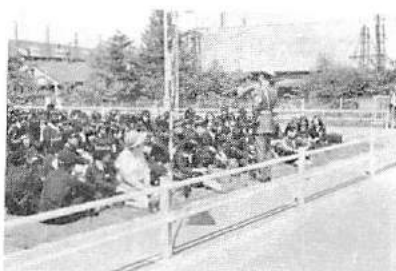
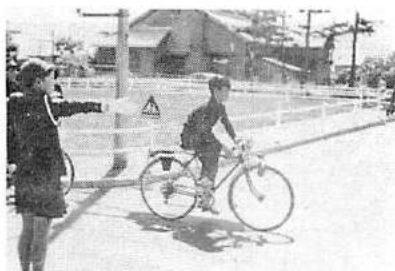


勝ちました。いい気分です。



このじゃまものどけて…。

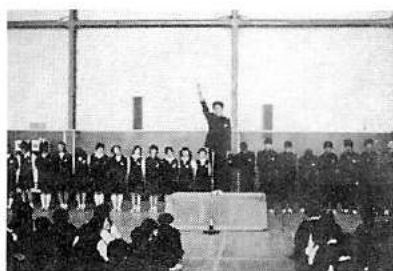
交通安全教室



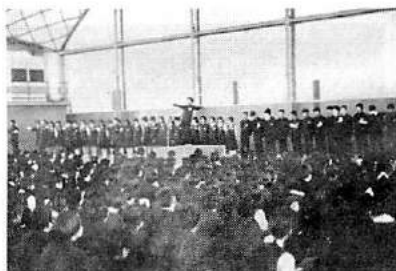
いつもこのようにしていれば……………安心です



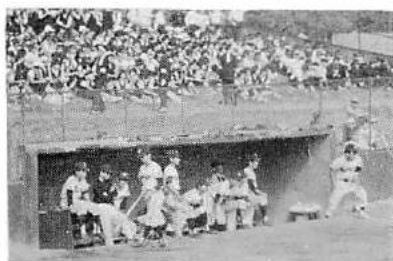
中体連はじまる



宣誓！ガンバッテキマス。



選手の為に……拍手——！！

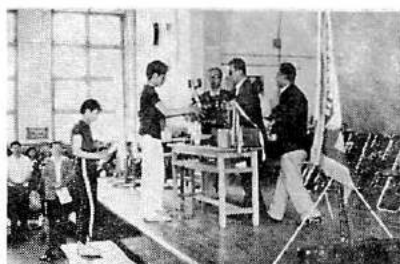


ソレ行け！張切るベンチと応援団。



陸上競技開会式

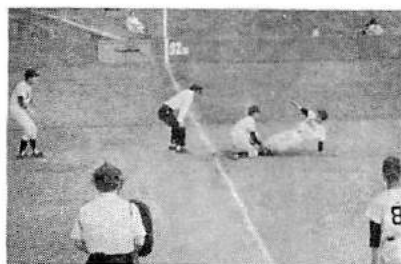
中 体 連 ス ナ ッ プ



卓球 感激の一時



陸 上



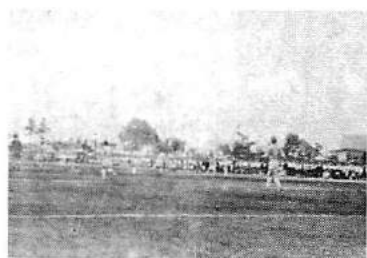
盗塁!!セーフ、セーフ。



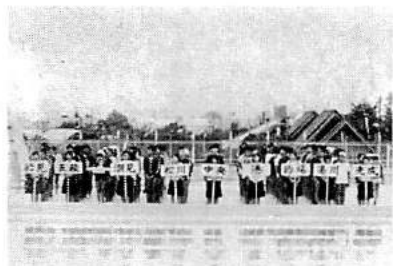
陸 上 選 手 団



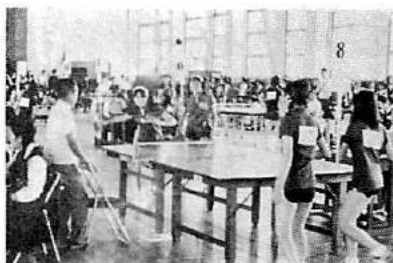
打った!ナイスバッティング



サ ッ カ ー



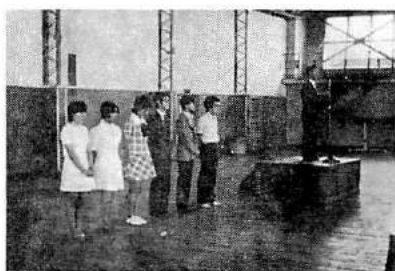
水 泳 選 手 団



卓 球



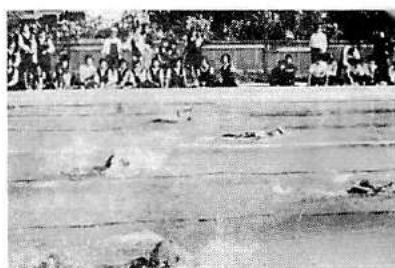
小音楽会



教生着任式



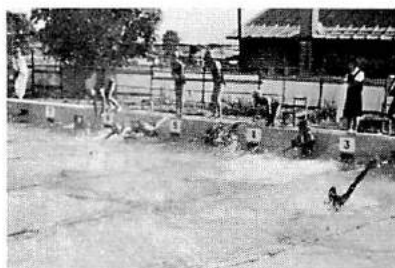
美しき楽の音。



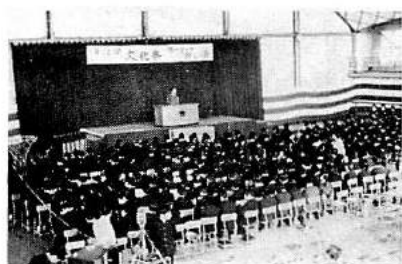
校内水泳大会



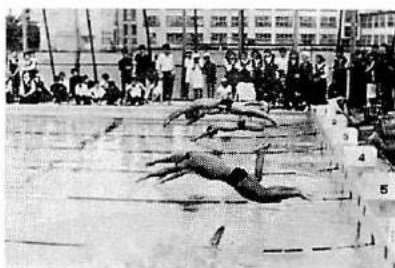
全校写生会 大作ができました。



カッパのたたかい



いよいよ文化祭 開幕。



同じカッパでもスタイルはさまざま。

文化祭スナップ



審査って楽じゃないね



演劇プロローグ



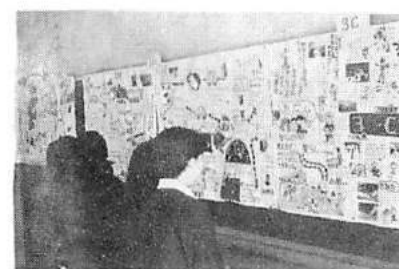
準備はじまる



展示室 1



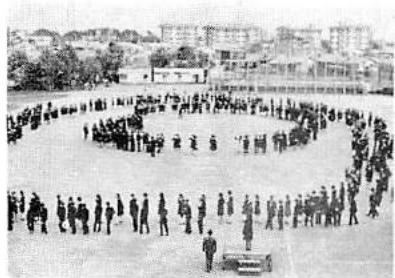
合唱コンクール



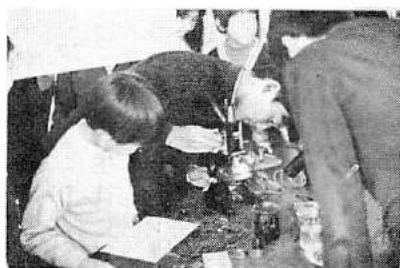
展示室 2



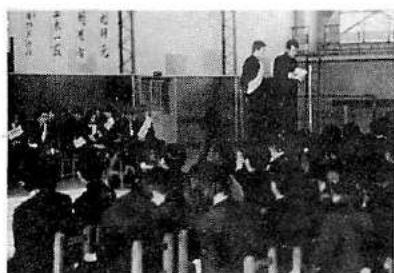
器楽合奏コンクール



文化祭の最後を飾るフォークダンス。



理科展示室



清き一票をよろしく



生徒会選挙戦はじまる



職 員 一 同

目次

校長のことば……………	1	文苑……………	57
生徒会三役のことば……………	2	俳句……………	57
専門委員会の活動をふりかえる……………	6	短歌……………	58
学級プロフィール……………	10	詩……………	59
クラブ活動……………	27	随想・主張……………	66
(体育)……………	28	読書感想文……………	68
(文化)……………	35	修学旅行……………	75
全校生徒に対するアンケート分析……………	37	スナップ集……………	76
私たちの研究……………	41	思い出の文集……………	78
教職員コーナー……………	44	昭和四十七年度受賞一覧……………	82
アンケート「先生教えて下さい」……………	44	職員住所録……………	85
学級日誌から……………	49	卒業生一人一言・住所録……………	86
卒業生におくる……………	50	編集後記……………	94



勉 強

学校長 梶原 四郎

私が師範学校に在学していた頃、時の校長先生は、よく私達生徒に「勉強は学校だけで終るものではない。今諸君は何れもその力において大きな差はないが、卒業してからの一日一日の勉強を大切にするか、しないで将来の力の差は大きなものとなってくる。」といって教えてくれました。その頃、勉強というのは教科書を読み、参考書をあさり、先生の講義をノートにとることだと思っていたのです。

しかし学校を卒業し、就職してからは、自分の仕事を立派になしとげるために、また自分の生活の上でのいろいろな問題を自分の力で解決していくために、先人の書をあさり、先輩や同僚のアドバイスを受ける、これが勉強であり、それは教えてくれるのを待つのでなく、自分から積極的に取組んでいく姿勢が根本になるのだと思うようになりました。

数日前、あるデパートで買いものをしました。似たような製品がたくさん並んでいます。それらの製品の特徴をしらべてみました。どうしてもわからない点がありました。担当の店員さん（男・女）数人にそのことをきいてみました。どの店員さんの説明でも納得しかねたので、重ねてその点をたづねてみました。ところがほとんどの店員さんは、ぶつとふくれて行ってしまう。しかし、最後にきいたお嬢さんは「ちよつとお待ちください。しらべてご返事をしますから。」といつて各社の説明書をしらべはじめました。けれども、どうしてわからなかったのでしょうか。こんどはどこかに電話をかけてたしかめはじめました。

そして「お待たせしました。それはこういうことだそうです。」といつてその理由を説明してくれました。その論理は非常に明快で、しかもわかりやすいものでした。「一生勉強を続ける」ということは、こういうことなのではないだろうか。個人的な問題でも、社会のありかたの問題でも日常私達が出会ういろいろな問題について、しかも具体的に小さな事でも一つ一つ自分で納得するまでしらべてみる。ちよつとした手数をおつくりがらずにしらべてみる。この積み重ねがその人の将来を輝かしのものにするのだと思います。長い人生を充実したものにするために、教えてくれるのを待っている今の勉強のしかたを、自分で自分の問題を解決する勉強に早く切り替えていかなければならないのではないかと考えます。

生徒会

1972～1973



これからの生徒会に

生徒会々長 南部 貴 昭

人間が、生きていくには、自分以外の人達（親、兄弟、友人など）の助けが必要なのはもちろん自分の努力がそれに伴って必要なことは皆弁えていると思う。しかし、敢えて、このことを含め、これからの一・二年生の活動に期待して述べようと思う。

「自分は、万事一人で解決し一人で生きている」という人をよく見かける。また、「だれかが助けてくれるだろう」という人もよくいる。前者は、他人がなにか言っても、聞き入れず（特に自分に都合の悪いこと）、自分が行き詰まった時に、あまり他人に相手にされず、極端な場合は自殺という方向にも進みかねない。また、後者は、常に人の助けを頼りにしている為に、いざという時にうるたえてしまう。つまり自分という者を見失なっているのだ。そこで両者に共通して言えることは自分以外の人の存在を錯覚して見ていることだと思う。前に述べたように、前者は、他人が自分のすることの妨げにしかならないと信じ、後者は他人が万事を解決してくれると信じているのだ。ほくは単にこの両者がどうするべきかを指摘しようとしているのではない。皆に考えてもらいたいのだ。それも「自分がこの両者のうち、どっちなんだろう」というようなことではない。学校生活をしていくうえで、自分はどのような立場にあるのか、また、自分は、友人や先生などと、どのように協力し合っていかなければならないかを考えてほしいのである。

一・二年の皆には、これから、いろいろな出来事が待ち構えている。それに会った時君たちがどう考え、行動するかは、君たちではなくて、君なのだ。そう、一人一人がいかに考え、他の人と協力し合うかなのだ。

とにかく前に述べた、両者のように、自分勝手にわがままな、生きがいのない人間にはなつてほしくない。そうならないことが、自分自身のためであり、五稜の成長にもつながると思う。とりとめのない話になりましたが最後に、宮本武蔵が残したというこの言葉を贈りたい。

「神を信じる。しかし頼りにはしない。」

任期をおえて



副会長
木野下雅之

中国のことわざにこんな言葉があります。「天の時は地の利にしかず、地の利は人の和にしかず。」天の時とは、天があたえたチャンス、地の利とは地形上の有利をいう。今がチャンスとばかりに小さな城を攻めても勝てない場合がある。これは地の利が天の時以上の働きをしているからだ。その逆に、地形の点でも、武器や食糧の点でも優っているのに勝てない時がある。これは地の利がいかによくても人の和がなかったからだ。だから最良の地形に、最高級の軍備をそなえ、いくら高い城壁でとり囲んでも、味方の中で内乱が起つたら何にもならない。つまり、天の時よりも地の利の方が大切であり、地の利よりは人の和の方が何十倍も大事だということだ。

人の和を忘れたそれは、金の金鎧のようなものだ。見た目には極々つばだ。しかし、本業の釘を打つという仕事にな

ると、反対に金鎧の方がへこんでしまう。ここで僕は、生徒会との共通を見つけた。それは、外にあらわれたものがいかに十分でも、一致した、人々の団結心がなければだめだという点だ。いくら役員が学校生活の向上を目指し、頑張っても、生徒一人ひとりに、生徒会をもっと良いものにしていこう、という熱意がなければ目的は達成されないのである。

僕は、君達後輩の、より多くの生徒に、この熱意が生まれる事を望んでやまない。



副会長
宮野佐智子

この一年間。
長く、そして短い任期でした。私は私なりに努力してきたと思うのですが、今考えてみると、あつたときはあつたか、たのだから、おかしうはなかつたか、たの、反省させられる事ばかりです。何度かつまづいた事もありました。でも、そのつどこのつまづきを再び起こしてはならないと、一生懸命やってきましたつもりです。そして、いま・・・。

協力の重要さを今更ながら感じているところ。生徒・先生・生徒会の三つの歯車がしっかりとくみあつて行くべき生徒会。しかし残念ながら我が五稜中は、そう感じられません。一人一人が、五稜中学校の生徒会役員なのだという自覚を忘れないでほしいのです。

これからも、自分達で長所を見つけて出して、それを一層活用し、その反面これらの短所を少しづつ直して行き、できればそれを長所に結びつけてほしいのです。生徒会活動をより活発にし、よりよい五稜中学校を築いていくために、一・二年の皆さん、より一層の協力を期待します。最後になりましたが、去年一年間の御協力に感謝します。



書記
垣坂 清

長いようで短かつた一年。今、生徒会の役員という仕事を、新しい役員にバトンタッチして、「なにもできなかつた一年だつた。」と思う。何か新しい事をやろうと思つて活動が続けてきた。しか



し、実際には、ほんのわずかしかなかった。その原因としては、総務局の不活発、生徒と生徒の協力が足りなかったこと。また総務局と生徒との協力も足りなかった事だと思ふ。ここで注意したいのは「総務局の歯車と生徒の歯車とがみ合わない。」というところ「生徒と生徒会の間には壁があるぞ。」という声が出そうだ。たしかに、はじめは僕もそう思い、自分の立候補演説の時も、「生徒と生徒会の壁をなくします。」と言った。しかし、実際に一年間活動してみても壁などはなかったように思う。この生徒と生徒会の歯車のからまわりたえば生徒総会で意見が出ず、白けてしまったことなどが、取り除かれることにより、生徒と生徒会との歯車がしつかりかみあい、五稜中学校生徒会は、より充実したものになり、又それは、五稜中学校の発展にも通じることだろう。でもこれは、僕個人の意見にすぎないのかもしれない。



書 記
舛 森 真 理 子

私は任期を終えて一つ感じたことがある。それは生徒の協力性ということだ。"協力"すなわち力をあわすことである。しかし、今の私たちの生活状態を考えると、一つとしてこれに値するものがあるだろうか。いつものことではあるが「生徒と生徒会の間には、溝がある。」と言われる。要するに生徒会が協力性に欠けているからだと思う。例えば、朝会の時の並び方もそうでない。役員が静かにして下さい。早く並んで下さい。」と言っているのにどうしてきちんと並ぶことができないのだろう。もう少し協力性というものを大切に考え、それを十分に、いかすようにしてほしい。今年の総務も、あまり模範になるような活動をしてきたとは思っていない。その点は、私たちなりに反省している。みんなの模範にならないような総務であつ



会 計
早 坂 和 典

ても、いつしよりけんめいやつてきたつもりだ。私たちは、これで卒業していく。しかし、みなさんに残していくものは、なにもない。ただ、新生徒会に期待するのみである。

とにかく会計、いや生徒会としての仕事はこれで終った。今、振り返って考えてみると、長いようで短かい一年だった。自分がした仕事に対しての満足感は湧いてこない。学校の発展ということにはあまり首を突っ込まなかったが、学校行事に力を入れたと思う。この一年間の行事が良かったか、悪かったかというところは生徒会の責任でもあり、また生徒の責任でもある。この辺をもう少し考える必要があるのではないだろうか。また生徒と生徒会との間には壁があると言われているが、なにがこの壁を意味するのだろうか。そういうことが言われることによつて、いつそう壁というイメージが強くなるのではないだろうか。自分がこの一年

間生徒会の仕事をしてみて思うことは、決意と、すばらしい実行力が必要だということ。これは、これからの生徒会に希望したい。十の仕事一度にやり遂げることは難かしい。しかし、一つ一つの問題を着実に真剣に、また生徒会役員だけでなく、多くの生徒が考えるようになってほしい。五校は発展し、よりすばらしい中学校になるだろう。

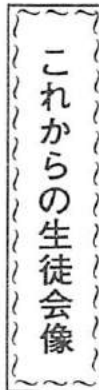


会 計
那須野あけみ

私はただひとりの2年生でしたので、3年生の後について手伝うという感じでした。それでも私は、私なりにつらいこともありましたし、また楽しいこともありました。

私は、生徒会役員になって一番感じたことは、いくら総務の方でやっ気になつてがんばつてみても、みんなの協力がなくてはなにもできないということ。もちろん総務局の方にも短所はたくさんあったと思います。しかし、何をとり上げて見ても、協力的というものが、今回

とても欠けていたように思います。協力と一言でいいまでも、この言葉の中には多種多様の意味があると思います。それをみなさんに考えてほしいと思います。それから、今回私達の欠点は、いくら一生懸命私達がやつたにしても、それが生徒のみなさんにわかつてもらえなかつたという点だつたと思いますし、またそれが一番くやしい点だと思つています。まだまだ解決のしていない問題がたくさん残つています。それに向つてみなさん突進してほしいと思います。



新生徒会々長
丸岡 元

毎年のように新生徒会役員の選挙となると生徒と生徒会の間にみぞがあるとか、カベがあるなどといわれます。この言葉が少し大げさだとしても、やはり生徒と生徒会の間にはなにか気まずい雰囲気があることはたしかだと思います。なぜ

そんな雰囲気があるのか、それは今まで生徒会活動というものがあまり生徒に知られていなかったり、みんなが今実際に望んでいることがなんであるかが、役員の人達に分からなかつたというように生徒と生徒会の歯車がうまくみ合っていなかつたところにその原因があるのでないかと思ひます。そこで私達新生徒会役員はみなさんの意見をよく聞いて、要望にも批判にもたえず耳をかたむけ足もとから、手のとどく所から一つ一つ確実にやりとげ、つみあげていきたいと思ひます。"今、みんなは何を望んでいるのか"というのをたえず考え、それを実現させるための努力はおしません。みなさんからは要望や批判を、先生方からはよきアドバイスをと、生徒・生徒会・先生の三つの歯車をしっかりとみ合せてよりよい生徒会をきずきあげたいのです。

そして生徒会活動を、私達七人が引張つていくのではなくみなさんが私達を押上げる、そんな形にしたいのです。そうなるのはないでしょうか。

どうかみなさん、私達に協力してください。"みぞ"や"かべ"をなくするのは私達生徒会役員の役目であり、生徒会であるみなさんの願いであるはずですから。

***** **専門委員会の活動をふりかえる** *****

◆ 代議員会 ◆

代議員会は、各学級の意見をまとめる機関として、たいせつなところであります。そして、この一年に各クラス代表が集まって相談した結果、更衣室に鏡が付き、水道にも石けんが、備え付けられました。これによって少しは学校が清潔で明るくなったような気がします。

それから、ベルマーク委員会が、一年生を中心に、結成されました。これも、一つの進歩だと思えます。しかし、これだけではなく、この一年に、もっといろいろな面から学校を改善しようという意見が出てきてもらったのではないかと、思えます。もつとこの機関を有効に使って、学校を、よりよいものにしていてもらいたいと思います。このことに関して、今年一年に、問題になったことを振り返ってみると、まず、一つめとして、校舎の破損ということとです。これは、最も大きな問題として残りました。あやまちは決して壊れないような物が破損する。代議員会で三回位にわたって話し合います。

たが、このようなむずかしい問題は、なかなか解決しません。

そして、最後には各自の良識に任せるということになったのです。だから私の思うには、まず自分が、学校は一週間に六回通うもう一つの生活の場であるということを、もつと真剣に考える必要があると思います。

このほかまだいくつかの問題がありました。ヘアースタイル、服装などです。しかし、これらのことは、この一年では解決できませんでした。でも、これから何年かかかるかわかりませんが、一つ一つじっくりと、取り組んでいきたいと思います。それには各学級が、学級会活動で、もつと真剣に全員が問題点をしっかりとふまえて建設的な討議を深めることがたいせつです。

代議員会で、「意見なし」「話しあっていないません」「個人の意見ですが……」などと代議員がいうような学級であつてはならないのです。

◆ 生活委員会 ◆

今年一年、事あるたびに、「委員としての自覚が足りない、責任がない」などと、言われ続けてきた生活部ですが、今までの委員活動を見てきて、そういわれるのも無理はないと思うことも、しばしばありました。

委員会での話し合いや、週番の時など発言している人、その週、週番にあつては全く関係ない、という顔をしてしまっている人がいるのには、閉口しました。それに反省の中で形式的な仕事しかしていない、というのが、よくでてくるのですが、じゃあそういう人達は、「その形式的な仕事とやらをちゃんと責任持つてやっているのか」と聞かれて、自分は、「やっている」と言い切れる人は、ごくわずかでしよう。また、「生徒の協力が足りない」という言葉もよく耳にします。まあ、協力してくれるにこしたことはないんですが、委員の仕事は、生徒の協力なしには全然できないものではないはず

です。前に言ったような、形式的な仕事、基本的な仕事をしっかりと、「やるぞ」という気構えを持って仕事に当たれば、そこに自然に、生徒に協力させる空気、といったものが生まれてくるだろうと思うのです。

委員会では、むずかしい言葉をならべたる前に先輩の経験をもとにつくられた基本的な仕事を、しっかりとやってほしいものだと思います。後輩諸君は、これらのことを頭に入れて、生活部活動の土台を、しっかりと築きあげていって下さい。

◆ 整美委員会 ◆

われわれが今やっている仕事は、放課後残り、教室を一つ一つ見て回っては記録をしています。そのほか清掃に関する整美部本来の仕事をしています。みなさんは、「たったこれだけの仕事を……」などと思う人がいるかもしれません。しかしわれわれ整美委員は、生徒全員が気持ちよく勉強できるように学校をよりきれいにするために、「えんの下」の力持ち」として一生懸命にやっています。ですからこれから委員になる人も一生懸命にやってもいいし、委員の清掃に関する仕事がないくなくなるぐらいに学校をきれいにしてい

◆ 図書委員会 ◆

一年を通じて良かったことは、貸し出しがふえたこと。昼休みの閲覧がふえたこと。

悪かったことは、返却が悪いこと。学級差が著しい。(個人差も著しい。)

この点でもっと各クラスの図書委員が活動してもらいたいと思います。

クラスの統計表を作り、読書についてのアンケートをまとめたり、新しい本の紹介などが今年一年のおもな仕事でした。しかし図書委員だけが活動するだけでなく、クラスの人々が、助け合いながら、楽しく本を読み、自分で印象に残った本を友達へ紹介してあげて下さい。それによって、読書が好きになるのでは、と思います。

来年は、昼休み、放課後も、勉強、読書に気軽にきて、利用して下さい。

読書会にも、図書委員といわず、だれでも気軽にきてほしいと思います。

最後に、図書館の本がまだあなたの机の上に、上っていたらすぐ図書館へ返しして下さい。

◆ 文化委員会 ◆

どうも文化委員会の活動は鈍いと、みなさんには感じられているようです。理由は多分文化委員が活動しているところを見たことが少ないからだだと思います。たとえば夏休み作品展などで展示物を展示する時、放課後おそくまで、二時間も一生涯懸命展示するのです。帰宅途中の生徒たちは、もの珍らしそうに見ていくばかり、時には遊んでいて、作品を踏み入さえるのです。展示作業を見て「少し手伝ってやろうか」と誰ひとり言ってくれません。これからは、委員だけでなく、他の人達も協力してほしいと思います。

文化祭では、三年生が中心になって活動しましたが、結果は三年生の人々は展示にかかりきりで、見たり楽しむ時間がなくなりました。ですから来年の文化祭ではもう少し工夫して全部の生徒がすべての分野を見学しあい楽しめるようにしたいものだと思います。また、せっかく考えたフオーダンスの会は、不参加者が多かったのは残念でした。皆さんの協力がなければ、どんな計画をたてても結局つまらないものとなりましょう。お互い協力して文化教養を深めましょう。

◆ 厚生委員会 ◆

今年は厚生部にとって、充実した年だったと思う。
パンを勝手に持つていく人がいるというところで、新しくたなが設けられ、パンの数を確認する場所も広くなった。
しかし、厚生委員の活動はこれらにもなっていないようだった。
厚生委員は男女協力し、さらにクラスの人達も協力し、今後の厚生委員の仕事をも、より充実したものにして下さい。

◆ 保健体育委員会 ◆

保健体育委員として今年一年をふり返ってみますと、体育大会、水泳大会、球技大会、遠足と、数多くの行事を通して活動する機会があったのですが、色々の都合で委員会を開く機会が少なく、全校生徒の意見を十分に生かすこともできず、活動らしきものもほとんどないでしまいました。が、週三回の体育の時間だけはい用具の準備、後始末、先生との連絡など他の委員にまけないくらい活動ができたと思います。

体育活動の他に保健活動においても委

員としての仕事はあるのですが、こちらの方は何も手をつけないでしまいました。先輩として良い委員ではなかったのに大きなことは言えないのですが、保健体育委員は全校生徒が心身ともに健康で、安全な行動ができるようにいつでも気をくばっていないかならないと思います。後輩のみなさん、どうかみなで力をあわせがんばって下さい。より良き保健体育委員会を目指して。



◆ 放送局 ◆

みなさん、私たち放送局の主な活動は朝、昼、放課後の校内放送です。この中でも一番私たちがはりきり、また頭を悩ませたのが、お昼の校内放送です。前日遅くまで残り、次の日の番組制作：「私たちアサウンサーは必死で書いた原稿を手紙に、さいしんの注意をはらいながらそれを読むのですが、そこはやはり人間です。ので、たまにはとちったり：：次の日、その放送を聞くのがいやで耳をおさえたりましたことも：：また、次の日その放送を聞くとはありませんか。これは五稜がほこる技術陣がその腕をみごとに発揮したからにほかならないのです。その他いろいろ苦労がありました。たとえば、番組で座談会を計画し、テーマも決め、いざ出演者を集めることになるというTVならいいけど顔が出ないんじゃないのか。とかなんとか：：よほど声に自信がないのかあ？ そんなことで四方八方かけずりまわったり。今、この原稿用紙を前に、そういうばあんなこともあったなどといういろいろ思ひ出され、苦笑が浮んできます。この二年間を振り返ってみると、本当にいろいろなことがありました。

今年になって新しいすばらしい機械が入りましたが、私は、自分が一生懸命しゃべっているのに、放送室のドアがパツとあいて「放送入っていますヨ。」と言われ、ガクツときた。あの機械が、とてもなつかしく思います。そして時々放送室に来てみると、あの新しい機械がずっと前からここにあるような顔をしているのが、しゃくにさわることも……

◆ 応援団 ◆

ことしの応援団は組織の改正があつて出発がぐくられ、満足に練習もできないままシーズンを迎えてしまいました。応援団を構成した委員は、残念ながら全員が積極的に活動しようという意欲をもつていたとは言えなかつたのです。結局従来応援団員であつたものが中心に、皆さんからみて下手だと思ふようなものだったかも知れませんが、何とかきり抜けて来ました。全生徒を指揮して選手に「よしやるぞ」というフアイトをおこさせるこの仕事は、たいへんなものです。はたでみるほど楽なものではありません。それに加えて、五校中の生徒は、なぜか声を出してくれません。リーダーが必死になつても、反応はサッパリ、なさけなくな

ることもしばしばです。リーダーがどんなに立派でも、全生徒が心をひとつにして積極的に協力しなければ応援はなりたちません。

来年度は、応援団組織を早くつくり、リーダーの練習をつみかさねて、中体連などで、他校を圧倒するすばらしい応援をして下さい。

そして生徒の皆さんも、力いっぱい腹から声を出して協力して下さい。

元気に たくましく

フリー／ フリー／

五校ー フアイト！！

五校ー／

◆ ベルマーク委員会 ◆

委員会と言っても、特別な働きは別にしていません。週に月曜日と土曜日の二回、生徒会室に集まり、ベルマークを数えたり、会社別にわけてみただけです。でも、この仕事をやってみて感じた事は数える時点で、とても苦労するということです。ベルマークを数えるだけなら……という考えの人も多くいるかも知れませんが、しかし、この苦労は、数える者にしか分らないものなのです。椅子に座つて、何千枚もあるベルマークを、一枚一枚数えるのです。数え間違えたら、初め

から数え直します。これをくりかえしていると、数えるのがいやになつてきます。私用で、委員会を中止することもあります。委員はよく集つてくれます。委員以外の生徒が手伝ってくれることもあります。委員は一年生しかいないけれども一年生ながらよくやってくれて、おかげで生徒会室にあったベルマークのほつとを数え終わりました。

三月に卒業して行く僕にとつて気がかりなことは、二年生がいないということです。

いつも思うことですが、今の二年生は少し消極的すぎやしないだろうか。こういうふうに言われて何もできないようじゃ五校をしょつて立つ資格はないと思います。

新三年生を中心に、ベルマーク委員会を、ますます活発な活動をする会としてください。



学級

プロフィール

雪は合唱しながら
降りてくる

木の葉を
プールを
校舎をまっ白に
染めてしまった

まだ何も印されていない
グラウンドに
一人・二人と飛び出して
輪が大きく広まった

雪は合唱しながら
降りてくる



ユーモア&の1のA



1のAの紹介？バカラシイ
何も話す事ないよ。えっ//
円くれるって？それではまじ
めに、やらせていただきます
わよ。えーと一年A組という
クラスは、とてもビューティ
フルなクラスです。紳士
淑女がストロウを求めて、は
いずり回ってもいれば、いす
にスカートをひっかけて、立
ち上がれないみじめな子もい
ます。「ちよっと、ちよっと
今日朝会だよ。早く出ようよ
。」しかし、このクラスは出
るのが遅いのです。きつと、
長いアンヨを、みんなに見

せようとでもしてるのかしらん
今までの事はさておいて、紳士淑女の諸君は、協力的パツ
グンです。外見こそ、そうは見えないけど(何をやっててもだ
めなのです。ハイ。)中身は結構いいんです。勉強のことは、
さっぱりですが、遊びだけは全員揃って、ギャー、ギャー
さわぐのです。ハイ特に男子。わがクラスの男子は、天才的
悪知恵を働かせて、おもしろい(クダラナイ)遊びを考えて
います。おやつ？ベルが//ベルが//そして、大先生様が入
ってくるど驚くべき速さで(月光飯面よりも速いのですよ)
各自の席にもどり、教科書を出し、ノートでもにらんでいる
のです。授業中には、これがあの休み時間に見たさわがし

いA組かと信じられないほどの静けさです。みんなあくび一
つしないで？懸命に勉強しています。聞こえるのは……鉛筆
のノートに書く音と時計の秒針のカチカチという音だけです。
(うそうそ。これはうそ。えっ//そんなの言わなくても、
そんなのを信用する人はいない？それはもつとでもした。
ワリイ、ワリイ。まっ、とにかくA組は、明朗ですなおで、
ほがらかで、ユーモアたっぷりです。(これは本当、信じて
い)しかしである。こんなA組の中にもワリイやつがいる
のです。少々うるさくて(少々どころではないかも……)A
組の評判を悪くする悪女、悪男も結構いるのです。(本当
よ)

今年一年を振り返ってみると、だれもが思い出に残ってい
ることばかりです。我がA組は、賞状を二枚もいただきました。
もらった時は嬉しくて涙が出るほど感激してしまいました。
ではA組の一日を皆様に公開いたします。まず、一・二時
間目は、まだ目がぼつちり、三・四時間目はお腹が叫び出す
いよいよ、まことにまった、昼食なのです。A組にとって昼
食のベルはとても美しい音を響かせて聞こえるのです。皆の瞳
が「らんらん」と輝き、いやしい者は厚生にたかり仲間ど
うしですすまじい争いを始めるのです。そして、楽しかった
昼食も終わりに、五時間目が始まりました。皆はもうねむくなり、x君
なんかあくびをし、半分ねむっているようです。「ああ、オ
ハスミナサイ」なあって言っているうちに帰りの学活が始まっ
た。それもすぐ終わります。「さようなら、グッバイ」など
と言いながら自分の当番も忘れて(知ってても知らぬ顔)い
そいそと帰って行く。どこに行くかって？デパートじゃない
よ。もち、決まっているよ。動物園だよ。二年になるとクラ
ス替えをするけれど、元のA組を見たかったら、動物園へい
らっしゃい。
ではさようなら(手間ちんちようだい。)

一年B組

笑点

司会

保坂 武道

では順に順に自己紹介を

笑顔がいい男
体重日本一、あたまは
ムツリ五え門
猿とびサスケでー
水のスーパーマン
可愛いかわいほくの顔
名はごついけど心は…
誇り高き男
ひな人形の
一・Bの紋次郎
耳なし芳一
カメンライダー
改造人間スルメー

相田 雄二
浅井 哲也
石井 博
鎌田 了
菊地 秀敏
工藤 祐一
熊本 宣彦
佐藤 晃
佐藤 修
下山 幸司
杉村 裕美
高橋 一雄
高橋 周司

クリの王子様
子づれ狼
黒いバンダー
コウコツの人
茂坊っちゃん
月から来た男
夢の島のレインボーマン
フオーリーズスって素敵
ちー坊行くぞ
エリベスデラーのかくし子
オルガ・コルプト
進ちゃんこつち向いて
誰かお嫁にもらつてよーん
私の足見えて
男の子に生まれればよかった
五月人形の金ちゃん
明治一代女
未来の有吉佐和子
第二の悠木千帆を目指す
眠れる美女
世界五代美女の一人
清酒黄桜のシエム・ガール
あたいせんべい屋の娘
恋に狂う女
私三十五で買えます(肉まん)
山口はるみ
中野 哲宏
西田 泰
福田 政信
福田 政夫
藤森 宏
村上 真章
山崎 俊幸
井上 初美
浦口 彰子
小川 洋子
小笠原貴代子
金谷 幸子
金子 孝子
金子 裕子
菊池 秀美
工藤 希乃
斎藤由美子
佐々木真可
杉野奈津美
中村 淳子
須藤 智子
中村 裕子
八日市和子
松田久美子
山口はるみ

見よ！賞状10枚．これは一でした



すずめの学級

一年C組

諸君、こんにちは。これから我々一年C組を紹介する。まあ、気軽に読んでくれたまえ。

まず、男子を紹介しよう。

いたって成績優秀、スポーツ万能、ハンサム揃いなのである。(と、これには書いておこう。まっ、いいさ!)とても純情で(純情すぎて幼稚)又、女子が忘れ物をしたときなど、親切に貸してくれる。素晴らしい美声で、教室中、いや学校中をふるわせ、いつも先生に「ウルサイ」と、どなられているのである。いやしいと言おうか、何と言おうか食欲旺盛である。女子が家庭科で料理をすると家庭科室まで、おしかけて来るのである。優しい女子が、教室に料理を持っていったと、待ちこがれていたように、あつという間にたいらげてしまう。(まあ、女子にとってはうれい事だが……)このようにいやしい男子どもだが、いくら食べても身長約一三五センチメートルの子ビから一七〇センチメートルのノッポまで大小さまざまである。又、「ハンシイン」の大ファンである。男子をまとめると、純情で食欲旺盛で親切、とまあこうなるのである。

では、180回転して美男子から美女へ。美女というのは我がクラス的女生徒と、この名を聞くと、泣く子も黙るといふ門脇先生のことなのだ。男子にまさるとても素晴らしい美声(キンキラ声)で皆を失神させているのである。又、男子の学生服のほころびを、すかさず縫ってあげるといふ優しい一面もある。男子の紹介でも書いたが、家庭科で作った料理は必ず男子の分まで残して持っていくてあげるのである。ガリリと変った一面もある。口から生まれたものではなにか、と思われは、口が達者なのである。腕力のほうには男子がまさるが、口げんかをしたならば、男子はしりぞくのである。女子をまとめてみると、家庭科を得意とする日本の女性なのである。忘れてはならない人が一人、いつも我々のために「純粹な心がけがされてしまう。」とおっしゃる門脇先生。とても小食である。そのせいか、とてもスマートで、センスが良い。とまあ、女性として代表的な人物なのである。(これは、ゴマスリ)なので、我々一年C組一同は、門脇先生を尊敬してまゐります。では、今まで一年間の活躍を左記に報告します。



体育祭

男子〃四位 女子〃二位
総合〃二位(これは女子の活躍であらう。)

水泳大会

男子〃五位 女子〃四位
総合〃五位(男女協力しすぎたため、こうなった。ククク……)

球技大会

男子〃四位 女子〃三位
総合〃四位(どういう訳か球技大会も女子がまさっている。)

音楽祭

二位(音楽祭は、一人一人が出来るように練習した。まあ、これは男女協力出来たであらう。「さすが」のこの一言につきるのである。)



我がD組はA組から教えてABC……4番目のクラスである。(アタリマエタケド)

担任の先生は金崎絃一とかいう、いまだに独身生活を送っている数学の教師である。年齢は二十五才から三十才の間であるらしい。いつも明るく、ほがらかだけ



明朗活発な1年D組

ど、たまにはおっかなくなる。(コレガナイトサ……)

ところで我がクラスは、先生方いわく『非常に授業がやりやすい』そうである。これは我がD組の担任のせい、それともクラス全員の人のせい、はつきりしてゐるのは、担任も生徒も非常に(？)単純だということである。我がクラスの構成メンバーは、一見美男子にみえるヤローども(ヤッパ)最初のうちは、ありふれたイタズラをして、よく先生に説教されたものだが、最近になつたらと、学校唯一の美女(入学当時から比べて、だいぶ色気づいた(？)と思つてゐる)たちである。

明朗活発といつてもあまり保障できない。登校から下校までギョーギョー。(昼食時だけはちがうのだ。)だが、全くよいところがないわけでもないのだ。成績は美女群が優秀で、スポーツはヤローコヒイキのためか(？)。そのかいあって賞状も陸上大会、水泳大会、球技大会等たくさんある。(苦労しました)我がD組は、スポーツや成績ばかりがさえていただけではない。なにごとに対しても積極的であり、精力的にきびしく

しく頑張ることをモットーに努力に努力を重ねる。(半面、先生も生徒も単純だからして、タマにはドジることもあるけど?)だから担任以下全部、いまだ独身なので、遊ぶときも騒ぐときも同じなのだ。だから先生も生徒も気軽に話しかけ、ともに考える。(実にサエテルウ。)

気力体力ムンムンなヤローどもの休み時間は、教室がブツコワレルほど騒々しい。(建物がいづまでもつか?)この個性豊かな楽しいD組の学級生活の中から毎日の学習を通してさまざまな話題や考えが生まれる。たとえば失敗があつてもそれが明日への糧となり、友情に育つて行く。サア、ガッチリ肩を組んで頑張つて行こう。われらが1年D組



一年E組、岡本級、生徒四十二名、
こう聞くと、どこにでもあるような平
凡なクラスだと、みなさんは思うんじ
やないでしょうか。しかし、休み時間
は、宿題をせっせとうつしうつさせ、
授業中は、先生の目をごまかし遊ぶ（
勉強時間と休み時間が逆に、とまでは
いかないが）という。岡本先生と、四
十二名の心暖まるクラスなのです。
こんなクラスの中は悲しい雰囲気で
はなく、いつも明朗で、ユーモアがい
っぱい、笑い声が絶えません。
もちろん協力性もあり、男女あわせ
て、賞状が、七枚あります。女子三枚
男子一枚、総合三枚。文化祭の時に協
力性というものがわかった。（男子が
弱いな〜）（テスト平均はまあ〜）
でも男子は、いざというとき役に立つ
のです。といっても、やさしく（？）
強い（？）のです。本間先生と別れる
時、女子は泣くの、泣かないのって。
男子は平然としておりました。でもや
っぱり男子も。こんな仲のよいクラ
スの中にも、時々冷たい争いが、おこ
ります。（ケンカをするほど仲がよい
？）こんな時、男子が強く、ながなが
と話し合いをし、たいていは、男子
が勝っています。（口の方でも男子
が強い。）
最後にひとこと。この組で欠けてい

1 年 E 組



る部分はみんなまじめにや
らないということだと思
います。一人が、ふざけてい
ると、みんな調子にのって
しまうことが、大きな欠点
だと思います。
それを目標としているの
か、いろんな決まりがで
きました。（特に席かえのこ
とは、みんな死にもぐる
い。）いつしうけんめい
みんなやっています。

二年A組のイントロダクション

わがクラス二Aは運動面、勉強面、親切面の三拍子そろっている生徒四十三人（男子二十四人、女子十九人）ごく少数例外あり。

クラスの特長（感じ） 具体的にまず男子から。

男子→運動and勉強には、他のクラスにまけず人一倍思いやりで、ふざける。

女子→男子について優秀でまた、人一倍親切でおじょうひんである。

全体的に見ると、さきほどのべたように、運動、勉強そして親切面の三拍子があり、明るく、楽しく、そしてわらいが絶えないクラスである。なかでもウンとウンはおもしろい人である。次に担任の先生であるミスター米田教授であり名の高いサイエニティスト（科学者）である。ミスター米田はサイエニティスト（科学者）とは思えないほど話がわかる人であり、生徒のいうことをよくきいてくれる。（ときたま聞いてくれないことがある）

生徒の方は？

生徒は男女ともに先生のいいつけをよく守り、授業中は、草木もねむるウシミツ時のように、ただ鐘のように先生のひとり言ええが、クラス中ひびきわたるほど、しずまるので先生はうかつにひとり言をいえない。しかし……イングリッシュの授業と授業のおわりのベルの音がひびくと、夜が明け小鳥達の美しい声ににたように生徒たちがおしゃべりをし、時には工事現場にいるようにさわぎはじめ。そして授業の始まりのベルがなるとまた、草木もねむるウシミツ……とすずまりかえるのである。であるからイングリッシュつまり

英語をのぞいては、コンピュター顔まけするほど頭の中につねに正確である。（コンピュターに顔、あつたづけかな？たしか手と足と胴だけだったのにな……）

*男子 アラン・ドロン顔まけの顔、そして、チャールズ・ブロンソン顔まけの（体まけの）体をしていて女子にはもててもて、

*女子 マリリン・モンロー顔まけの美女かつ（体まけの）グラマーでいろいろけたつぷりである。

*我らのアイドルの担任であるミスター米田教授 深くきざみこまれたみけん（ひたい）の三本のしわ（どこかで読んだような文章だなあ）そして、まだ幼い目のかわいらしさ、

頭の毛は白い毛が多く中年のシリウがたつぷりである顔、

又体は少年時代のように筋肉がモリモリついている。ところどころにサロパスのあとがある。（ミスター教授であつてもトシ

にはかてないかな……）

最後にクラス全員の今年の希望

一、今年も今までどおりのクラスであること。二、今年中学校生活最後の年であるから、勉強により力をいれること。

三、今までどおり先生のいいつけをよくきく。四、これらのことをかならず命にかえてもまもること。

先生

「これらの四つの事を今年中にやること。

例によつて君もしくは、君達生徒があやうくなつても当局（学校）では、いっさい責任をとらないからそのつもりで

では、成功をいのる。まあ……のんびりやりたまえ諸君。なお、この文章は自動的に消滅しないのでも

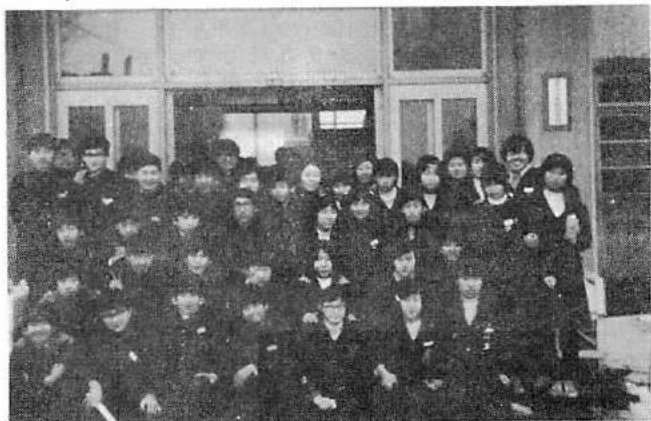
やしてくれたまえ。では

サイナラ/サイナラ/サイナラ~~~~マタアウ日

マデ~~~~エ。」



手をつなぎあうために(2・B)



みなさんは、2・Bを、どんなクラスだと思えますか。一口にいって明るくなくやかなクラスです。

時には、はめをはずすこともある。自習時間などは、みんなできが、よろしいようなのでめったなことでは、自習をしないのである。それでも中には例外がいて、先生の話は聞きのがさないという人もちゃんという。授業中は、むずかしい質問をして先生を困らせる人もいる。それにもまして多いのは、休み時間には、働き者が大変いるということである。とにかく2・Bは、いろいろな個性の持ち主が集まってできている。

2・Bの力は、想像にまかせます。その力のうち、団結力はあります。

教室にはクラス全員がベストをつくした六枚の賞状と一つのたてがあります。まだまだ足りない力があるかもしれません。その足りない力をおぎなうために、今日を精いっぱい努力しています。

手をつなぎ合うために
苦しいことだつてあるさ

悲しいことだつてあるさ

一人一人の夢がちがうように

一人一人の考えもちがう

でもがんばろう

明日を むかえるために

今日を 精いっぱいに進むために

みんながいれば 勇気がわく

そうだ

手と手をつなぎ合うために

私達のかけているものに対して、も

うれつにタッシュしようとして、ス

タートラインに、ならびました。

作った力に安心するより、これか

ら作り上げる力に、突進するため

協力してくれるすばらしい方は、そ

れは先生!!



顔で勝負さ2・Cは！

この二年の組ができてから、もう、十月月。約一年たつたわけだ。今では四月のあの始業式の時のチンモクはどこやら……。とてもにぎやかなクラスにハンションしてしまつたのだ！

「グリジローツとなるベルの音など、一あつしには、かかわりのねえことでござんす。」というように、席の方など見向きもしない。しかし、しかしなので一す。「先生が来たり」

この声で、杓をとひこえ、椅子でたおし、人のカバンにゆつゝずい、「アッ」という間に席につく。なかには、テレビ・パシールでこの一声がつかぬのか、出すのもろくに出不あいで教室にとびこんで来る猿人も、めずらしくない。その間、わずかに三秒ほど。これぞまさにスーパーマンなのだ。こんなクラスだがどういいうわけかチームワークバツグン！

体育大会、男子一位、女子三位
二位 総合二位、球技大会、男子五位
④ 二年生は五クラスまで女子優勝！ 合唱コンクールはなんと！先生もおどろくほどのハタシ、そうなのだ！ガッパなのだ。弁論一位！マッあそびがてらくこんなものである。



今は、クラス全員でモントリオールをめざしているのだ。

授業中に授業中で、クラスのおんい気は、活気であふれている。あの目の輝き。なんてのは先生のかなわぬ希望で、誰だかさんにお手紙書いている人もいれば、うつろを睡て先生のお顔を見て、よたれが出るころには、ついに机に伏せて、何やら夢を見ている者もいる。まゝ、いろいろと変人の集まりでエ・・・・。

つまり〇組には勉強だけをしに来るといふとどき者はひとりもないのだ！

それでいて、バカな奴はいないと、自分の事も忘れてきめつけてしまっている。ある面において、想像力が豊かで頭の非常

にすぐれた者ばかりな
一同、たてに首をふる。

だが、来年は三年なのだ。

いつまでも自分の顔の良さに、みとれていないで、悪さを自覚しなければならぬのである。

仮面ライダーを見るのもあきらめて、デビルマンも卒業して、イン・P・Mを見ようではないか。
／あつ、まちがった。それにもサ
イナウをして、ベンキョウするの
である。

もつと、ガンバラナク
先生方は神様でえす！



やるときや やるよ！ 2・Dは



ここは、三階のほぼ真中にある教室です。二年D組と、E組の間は勿論そうです。われらがクラス、二年D組です。ちよつと教室のようすをのぞいて見まじう勉強時間です。みんな、静かに先生の話を聞いています。「なぜこうなるんだろかな。はい、○○くん。」「はい、○○だから、○○○になると思っています。」

「ほかに？」「はい、君。」

こんな活気は見られませんか。先生の質問に、手を上げて答える人はめったにいません。先生に指名されて、いやいやながら、やつと口を開きます。「なぜ、おれ（私）に当たつたんだろ。いやだな。」と、みんな心の中で考えているようです。ホームルームのときも同じです。なに一つ意見を出しません。何を考えているのでしょうか。もつとよい学級をつくるうと、ない知恵をしぼつて考えている最中なのでしょう、きつと、こんな生徒とは、何にもつかぬのが担任滝村先生、もつと活発な明るい学級にしよう、と、ホームルームで、生徒達に発破をかけます。いくら言ってもききめはゼロ。しかし先生は、あきらめずに、幾度も、くり返します。なんと大変なことでしょう。滝村浩平。先生の中の先生といつても……？

だが、優勝候補E組が破れて、混戦状態の中、D組男子が球技大会で優勝をさらしました。「やるときややるよ！」といつて断然気をはく男子でした。（女子は最下位におわつた。参考まで。）最後の学級対抗であり、文化祭の呼びもの、合唱コンクールがあつた。合同練習のときは、はずかしくて、はずかしくて、たまりませんでした。合唱といえるものではありませんでした。D組は最下位だろうとだれもが予想し、私たちもそれを否定できませんでした。ただ先生だけが、まだまだ。これから、どうにでもなると発破をかけていました。当日、ほかのクラスが、思つたより、うまくはありませんでした。きつとみんなの思いに「いけるぞ。もしかしたら。」という考えがあつたのでしよう。結果は、優秀学級、つまり第二位。みんなの喜びは、すごいものでした。（先生がだれよりも喜こんでしようが……）



こんな活発な一面も、持っている二・D。まさに「やるときややるよ！ 2・Dは。」といったところ。二年D組の面々は、来年度にむかつて、大きくはばたこうとしています。来年度に、乞御期待。

超人集団 2E

特種学級の異名をとるわがクラス二・E。

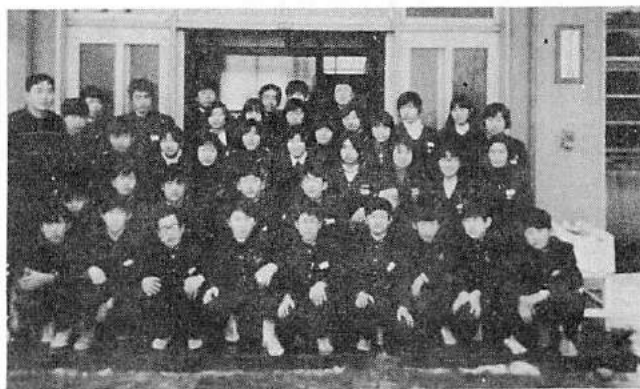
異名通りの超人の大集団である。授業中は鉛筆でコケシをつくるもの、通信お遊び講座をひらくもの様々ではあるが、まれに、勉強している超人を発見する。

赤い顔した、先生様にはトマトどこかのタシのなまえみたいな先生様にはタシなどのニックネーム、いやニックイナマエをつけて喜んでゐる。

悪知恵以外の知恵には、めぐまれない男子たちは、黒板けしにチョークをはさんだり白のチョーク赤くぬって、先生様がちまようのを、生きがいとしている。

顔については、あまり語りたくない一応女子と呼ばれている集団は、男子のようにたいたいたずらはしないが、男子をそのかすががうまく、男子がおこられるのを見て生きがいを感じているようである。

この超人の大集団の棟梁で一応議長と呼ばれる人物。これもまた超人でとくにバカマネとワルツザキには異常な才能を発揮するがそれ以外のことは、全くだめである。昼食時間は、厚生部の持つてき



たパンを死にものぐるいでとり、それをみて超人の一人が「うえた貧民よ、ほらパンをとるがよい。」

という。これは、二・Eの日課の一つであるが、まさにその姿は、百姓一きの現代版といったところであろう。

まさに、超人の大集団であるこのクラスにも担任が泣いてよろこぶというほどでもないが、よい点がある。

それは、体育祭などの行事のときにも超人的な才能を発揮し、まとものあるところをみせるところである。おかげさまで賞状も一ピキ二七キ三三ピキ・・・七七キ位たまつたのである。これを手にした生徒の声、

「新鮮な賞状苦労しました・・」きたないところですがヒマがあつたら一度見に来てください。ほんのついででけつこうです。マァとにかく超人の集団なんです。



ある晴れた日の

ある
日の3
Aは突然
美術の時
間から始ま
ります。進
士先生は、バ
ートーベンやバ
ッハの話をしてい
ます。彼の偉大さ
は、バートーベンの
ごととして、そんな人を
二年も担任にできた私ど
もは、大のしあわせ者です。
いつては、ハッと思っておこして、はじめの話
にもどります。

話は前後して、放課後になります。
我が3Aの男子は、時おり奇抜なことを、
やらかします。今も外で、バトナム戦争まが
いの雪合戦を始めています。手袋もはかずに

*生徒のようすは、まことに静
かなものです。たとえ、ひとりひ
とりがこっそり編物をしていよう
が、よだれをたらしておねんねし
ていようが、そしてこの文章を書
いていようが、かまわない(?)
のであります。ちなみに、わる
さが見つかれば、すなおにこ
まかして難をのがれます。
すなおがきかなければ、
笑ってごまかすように
す。

生徒の団結力にはす
ばらしいものがあり
そんな生徒にのせ
られて、先生の
話は、こちらか
らこちらへ、
あちらからこ
ちらへと、
全然関係
のない
話に移
って



がんばる男子を、女子は、カナアミごしー動
物園のなにかみたいーに見入り、声援を送りま
す。雪男のごとく真白になって奮闘する男子
からは、いったい何人の死傷者が出るのでし
ょうか。

観戦に熱のはいる女子たちのさわぎたるや
男子に雪玉があたると、彼女らが悲鳴をあげ
るといった具合です。このへんは一心同体
の精神が守られて最高です。女子たちの興奮
は絶頂に達し、そしてこの私も、非常に興奮
してまいりました。"ガンバレ○○くん"
ある晴れた日の我がクラスの痛快な思い出
は、文化祭の昔にさかのぼります。

2・B時代から、不可能ということばを知
らないかのごとく、前進してきた私たちがさ
え驚いたこと、それは、あの恐ろしいくらい
美しい(タミ)声をあげたためか、今年も合
唱コンクールで最優秀賞に輝いてしまったこ
とであります。驚きのあまり、しばしの間、
呆然とする人や、もはや興奮して、人をなぐ
りつけるなどという人もありました。が、前
日アメ玉を買いなさいと二百円もくれた進士
先生の優しい心づかいがあつてこそだと喜び
人一倍アメ玉をほおばる人もおりました。

このように、表現力豊かな人たちの中で3
Aは育ってきました。これからの私たちはそ
の表現力を伸ばしていくことはあつても、決
して、わすれることはないでしょう。

三年B組

五稜中生徒諸君ノマタセタチア。只今より三年B組紹介の辞をのべます。

まず最初に、得意の三日総歌から一五稜の北校舎三Aのとなり、三日、三日……。ひき続き三日の成績発表ノパンパカパンパカパンパカパン。賞状なんと一万マイナス万枚。その他いろいろあるけれどよい、あとはご想像にオマカセスッペ。(一同極北地方にいるのでカッペに近いのだ。)

レダースタッドジエントオルマン。ここで三日男子紹介。オレタチャヨ、オレタチャヨ。歌にもあるやんけ。そうそうアレー、一つ男は勝たねばならぬ。(あまりにも純情なせい、勝てなかった。)二つ男子は美男であらず(オヌ)三つ男は勉強がデキル(納得イクイク)まあまあこんなところですかね。

次に三Bの女子紹介。これも歌でイコー。いつものようにウスな女の子。男子よりも勝負に弱くて力が強いのはなぜかわからない。これは三Bの女子。ただし戸籍上だけ。実態は男子同様なのだ(これ以上書く



とどうなるかわからない。)マ、この頃女子はキレイになった。(バカマ、オセジもホドホドニセエー)最後に先生紹介。青い服着て、メガネかけたアーレリ三Bの先生さ。得意の「納豆食べてきた。」国語の時に連発さ。幼い三Bのリーダー格。その人の名は川原先生、それはアナタヨ。

それから我が三年B組全体の紹介をします。我が三年B組は、とても静かで、おしとやかな組。三年生の中で、このクラスだけという話。チームワークはとても良い時と悪い時のほげしい組。運動は、男子の方は運動神経抜群。女子の方は、運動神経どころか、うるさすぎないところかな。授業時間になると、マ、それはとても静かなクラスで、特に、数学の時間なんか、あまり静かで葬式をやっているみたいけど、それよりも、国語の時間なんかあまり静かすぎて、まるでみんなが寝ているようなとても良いクラスで、担任の川原先生もこんなクラスは他にないと言っています。わかるか、三年B組は良いクラスだというのがわかるよな、きみなら。絶対わかる。だって美男ばかりいるクラスだからなのだ。あまり書くのと他の組がやきもちをやくと困るので、このへんで止めておきます。

3Cの詩

私たちは 私たちの手で
『人生』
という映画の一コマを
撮影しているのです
その一コマが
わずかな時間であつたとして……

ハハハハハ。上の詩（あれでも詩のつもり
なのです）は、あまりにカッコいいのです。

だから、みんなで笑いましょ。ハハハハハ
ほんでもつて、オレたちの学級での生活を
忠実に、ドキュメンタリー・タッチでえがい
てみるのです。次の名文をマジメに読むのだ。

まず、登校の状態なのですが、みんな登校
するのが非常に遅いのです。夜遅くまで起き
ていて（なにかをしているのかは知らないが）
できるだけ睡眠をとろうとする努力のあらわ
れでしょうか。ハハハハハハハ。

授業時間。2時間目あたりから、だらけて
くるのです。早く、昼めしくいたいなあ。

ときたま先生との間に殺気がみなぎることが
あるのですが、正義は常に我々の方にあると
思っているのです。ベトナムと平和に、心から
パンザイを叫びましょ。パンザイ。

十円玉のおはじき。トラップ。卓球。スト
ーブのまわりでのおしゃべり。誰かを相手に
プロレスごっこ。これが三年生のすることか。
反省しろ。けれども、とっても平和です。
平和はとってもいいことなのです。

― 休み時間の風景

「C組って、とても勉強できるんですって」
「そりゃあもう。なにしろ10番以内に7人。」

20番以内に15人。50番以内に……。―
― ある中学生の会話

昼休み よくケガをしないものである。

オンナはというと、席について小さな声でお
しゃべり。なんとなく、いやなんです。こん
なムードが。ハハハハハハハ。

男子2枚。女子2枚。総合1枚。わかるね。
なんのことか。大判焼きを食べたかいが、あ
りました。みんなで大判焼きを食べよう！

「3・C 協調性が強く、まとまっている」
あいつ、すぐグレルからな。笑って楽し
くやればいいのに。ハハハハハハハ。

男は女をバカにして、女は男をケイバツす
る。プライベートなことなどないのです。と
きには探偵のまねをして、人のカバンをの
ぞいたり。それでもとっても平和です。

男女の仲はどうか。野暮なことを聞く
ではない。独身者38人!? なんかへんだな。

他のクラスと3・Cとの相違点。あまり変わ
らないのです。でも、みんなとっても楽しそ
うなのです。そこがいいのです。たいていの
人が、不満なく生活しているのです。そこが
3・Cの誇るべき特徴なのです。だから、みん
なで、パンザイをしましょ。こら！読者、
おまえもしろ！！ パンザイ パンザイ！

3D解体新書

3・D―これほど個性の強い人間が集まるのもまれであろう。勉強はどちらかというとばつとしないのだが、妙なところで勉強の熱心さがでる。それはガラスをよくわることだ。ある人にいわせれば、これはガラスの成分とわれぐあいを調べる科学の実験なのだそうだが、ほかにもいろいろな実験をやるが、あまり学校の裏側をさらけ出してしまうことは、さしつかえがあるのでやめておく。欠点をあげればきりがないが、いいところもないわけではない。それは男女の仲がよいことだ。(欠点が多すぎるのでよいめだつのかも?)どうみても三十六人+一びき(クマ、入場料は取らないのでいつでも見にどうぞ)の中には美男・美女といえるようなのがいないのだが男女一致団結して『授業中静かに』というスローガンを掲げがんばっている。だから夢の中の世界をさまようほくらにしてみれば先生の声も一種の雑音でしかないのです。

この個性強き集団3・Dが、卒業してしまうという事は、諸先生方にとって、大きな損失かもしれないし、目の上のたんこぶがとれたのかもしれない。

しかし、3・Dは先生方に説教されても、いじけない強い精神力をもっている。これさえもつていれば、これからの人生でどんな壁をもぶち破ることができるだろう。

さあ、エネルギーのかたままり3・Dよ、大空に向かつてはばたけ!



大樹のように

三年E組

ぞ。「ドドドとせまる
ヤロウども。恐怖にお
びえる厚生委員ぞして
下じきとなるかよわき
オナゴ?

ムッ。3Eの話、聞きたいつて
? まあ静かにして聞いてくんろ
△こうせいV それぞれ自分が

美男・美女で他のヤツはブス又は
マズイッラだと思つている。男が
20人、女が19人で、永谷大統領を入
れ、総勢40人の過疎地帯である。
次。ドキュメントでおくる3E
の一日。

△学活V「学活? そんなしやれた
ものおれたちの組にはネエヨ!!」
卓球トナメントにあけくれる。

「オーイ。センセ来たぞ」次の行
動のすばやいこと。そしてみごと
なチームワーク(おお、これぞ美し
き友情)そして・・・次の瞬間
生徒たちは目をふさがずにはいら
れない。先生登場! おお、この後光
にもにた光はなんぞ!! (センセウ
メンネ)

△授業V「なにに、授業つて?」
「ああ。あのぬむい時間のこと?」
「という声多数、一部例外あり(へ
博愛精神に欠けてるよ。キミイ)」
△ひるV「おお、厚生委員が来た

△今までの被害者V 歯つ欠け2人。
うでのホネおろし1人。目の玉くり
ぬかれた1人。

次。

△セーイセキV おおあつたあつた。
ワズカに二枚。水泳女子二位(空
気デブが多いため有利であつた)
合唱コンクール二位(審査員の耳
が胃腸ンであつたとしか言いよう
がない)

ムッ。しかし何だあ。男子は。
これが3Eの女子が強い原因か?
ムッ。アッタアッタ、男子の武器が
……ドタマである。男子はこれで
ヤットコ男のメンツを保っている
のである。これには女子の魔手も
かなわないのである。(タスケテ
カンチョーマンさん)。

この奇妙にチームワークのとれ
た珍妙な組。3Eはやがて形とし
てはくずれていく。だが、組の一
人一人がまがることなく大樹のよ
うに育つことを信じ、ここでベン
を置くのである。



3F 総白地(痴)図第三百五十巻より

いよいよ最後に現われいでたるは、今世紀最大のショッキングな告白。そう、それこそ、3F 総白地(痴)図である。現在のメンバーがそろつたのは二年前、1A から1Fまでの悪童悪女の四〇名と特別参加の仮面ライダーでアリンスマンネン。

さて、思いおこすは修学旅行。男子の部屋はどうであつたか。人間くさい欲望と残酷さを暴露する枕投げのこまはOK牧場の決闘にもおとらぬ豪快な迫力、必殺のメロディにのつてやってくるミラマンと月光仮面を想像したまえ。女子の部屋は・・・
(秘)

話は180回転して、時は〇月〇日の校内球技大会へ、決意を燃やした。神は我々に勝利への栄光を与えてくれるだろうか、不安はつくる。刻一刻と開始の時が迫る。女子はなぜか平然としてその顔たるやみな健康色そのものである。対照的に男子はあきらめムード、それもそのはず、2年時代の、あやうくドンジリという苦い経験が体全体においかぶさつていたのである。プレー開始。さすが、女子は何の苦勞もなく得点を重ね、勝ち進んでいった。その後でしょんぼりすわっている男子のあの目、あの口もと。いざ、出陣、息づまるほどの熱気。そして、苦しい試合の中にも、2点、4点と得点を重ねた、あのパワーは、まさに想像を絶する試合展開であつた。苦しかつた、つらかつた。しかし勝つた。勝つたという実感が試合が終わつてはじめて味わい得た喜びでいっぱいであつた。わが3Fは、勝利の栄冠を手の中におさめたのである。

話は360回転する。われわれにとつて、今世紀最後の行事は一番思い出の深い文化祭であつた。苦勞した文化祭、やりがいのある文化祭。食堂の装飾、喫茶コーナーの給仕など次から次へと頭に浮かんでくる。中でも、美声?とハーモニを調和させた?合唱コンクール。やつたぜカーチャン、3位入賞達成。

この一年を通じて、修学旅行、球技大会、文化祭、この三つのどれもが、われわれ3Fにとつて、忘れることのできない、だじな白地図の中の、彩色図であつたのである。3F担任の金田教諭。先生、ありがとう。二年間、いろいろお世話になりました。



クラブ活動

明日への希望をこめて

体育クラブ・文化クラブ

若さと熱気がみなぎる

放課後のひととき

力と技がぶつかりあい

汗と泥にまみれながら

苦しみに耐え 己れにうちかつ

たくましい若者が躍動する

美を求め思索にふける

放課後のひととき

美しい歌声が流れ

探究の目は鋭く光り

黙々と真理を追求する

純粋な若者の姿がそこにある

学び舎に静と動が交錯する

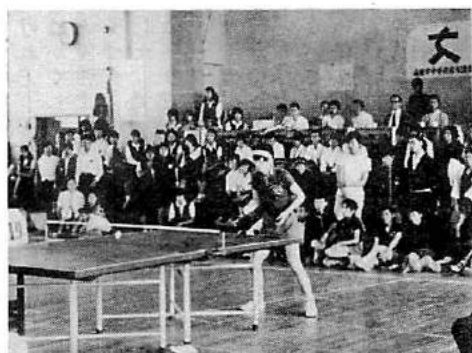
放課後のひととき

最後に、一・二年の部員へ
我々三年生は卒業していきます。でも、今の二年生を中心に、また優勝の日が再び来ることを信じて、練習に励んで下さい。

◆ 卓球部



一九七二年の暮あけとともに、新しい卓球部の活動がはじまりました。三年生は現役を退き、二年生がクワウの主体となつてきびしい練習を積んできました。やがてそれぞれ学年が進んで、私たちはダブルス選手権、中体連、新人戦と、全力をつくして戦いました。



体連中は男子は決勝を涙のみに女子は準決勝で負けました。しかし、私たちは十二分に発揮し、他校との友情交換にも大きな成果をあげることができました。私たちは卓球というスポーツを通して単に技術だけではなく、精神的にも大きな何かを得ることができたと信じています。

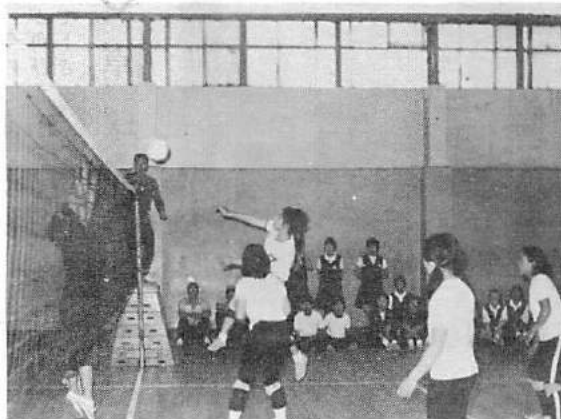
す。試合に負ければ、一人自分をしごき、どんな苦しい時にも動じない強さを育てたのです。

今、現役を退き、高校での卓球生活を夢見ながら、新しい三年生が、今までの伝統をうわまる成果をめざして、厳しい練習に汗を流すことを願っています。

最後に私たちが、今までに得た成果は斎藤・大平先生と、全校生徒の応援のたまものであることを心から感謝しております。

◆ 排球部

練習前はたらつけるだけたらついているのに、いざ練習がはじまるとなると、とたんに顔をひきつらせ、ボールを追うのが我がバレー部員達です。つらいことがあつたり、ボールが顔にぶつかっても負けん気をおこしてがんばつてしまひます。いきおいあまつて、先生をひっぱたきたくなる時たまにはありますけれど、がまん、がまん、と言いきかせます。先生はふだん恐ろしいとも思いませんが、ときには、恐ろしい、恐ろしい、アカオに变身することがあります。今考えてみれば、それもよかつたのかも知れませんが、サーブやスパイクがうまいかなくて、激しいアセリを感じたり、やれる気



をなくし、そうになるのもしばしばでした。そんな時、手あたりしだいのボールを投げたりしても、人にぶついたりなどしません。そこところはコントロールがいきとどいてるのです。みんな、水を飲みたいのをがまんしたり、協力してはげましたりはげましたりしながら、ボールを追いつづけます。

自分を甘まやかしたり、人にたよることはいけないうんだといっしょうけんめい考えます。こうして、私達は苦しみながらしだいにバレーボールのとりこになつてゆきました。

中体連での成績は、あまり良い方ではなかったけれど、部員の実力が向上していることはかくしきれません。来年あたりはきつと優勝では？とも思いましたが、私はつくづく、時のたつのが早いなあと、思いました。でも今の1・2年生なら、とちよつぱり安心していきます。

みんなとクラブの帰り道で考えたことがあります。ボールにハネがはえて、それが自分の思うように飛んでくれたらなあなどと。それは全くばかな想像にしかすぎないことなのですが、いつまでもその願いは変わることはないでしょう。ボールが、確実に自分のものになることが、私達バレー部全員の願いです。そして今後の大きな課題なのです。



◇ 野球部



まとまった内・外野
足生かした攻めが強い
昨年の渡島大会優勝チーム。主力選手

の卒業でひと回り小粒になったが、遊撃・木野下を中心に守りに徹したスキのないプレーを展開する。

エース佐野は二年生ながらブレード度胸満点。スリークォーターから決める外角低めへの速球とカーブが良く、函館地区大会四試合を2失点に押えた。

内野陣は良く鍛えられており、これといった穴はない。とくに主将遊撃・木野下の球さばきは抜群。外野も駿足・上田を中心にまとまっている。

攻撃陣は一番・上田から六番・早坂までが勝負どころ。一発長打の強打者は見当たらないが、足を生かした攻めをできるのが強味。

② ③ ② ③ ③ ③ ③ ①
 信 二 強 彰 之 典 己 穂 昭
 下 雅 和 政 昭

田橋原野下 野坂川野戸
 上高田佐木早広坂瀬
 (中) (三) (左) (投) (遊) (一) (右) (捕) (二)

結果 中体連準優勝
 渡島大会準優勝

(昭和47年8月1日道新より)



五稜 ホームイン!

◆ 柔道部

体育館のはしに積み上げられた、少しきたない畳、我々はあの畳の上で、国際的となったスポーツ、つまり柔道をやるわけで、強くたくましく努力を続けていきます。



部員は二〇名たらず、男ばかりの中にマネージャーとして女子が一名いるだけ。予算もわずか、それでも一年間活動を続けて来ました。

活動内容は、先生、主将を中心に火曜日と木曜日に柔道衣を着て学年入り乱れて練習をします。中体連では付属中を5対2でやぶり、旭中にも勝ちましたが、残念にも潮見中と銭亀沢中に負けてしまい、決勝トーナメントに出ることができませんでした。

個人戦でも3・1年は負けましたが、2年生がよいところまでいってくれたので来年が大いに期待されるのです。ただ人数があまりに少ないのが残念、せめて7人位ずつでもいてくれたらと思います。マネージャーはよく部員の面倒をみてくれ、とても親しまれました。来年もまた女子でマネージャーをやってくれる人はいませんか。どうぞ来て下さい。柔道で心とからだを鍛えようと思う人はどんどん入部して下さい。大歓迎します。日本の柔道を、ここ五稜中でも大いに盛んにしようではありませんか。

◇ 蹴球部

我がサッカー部は、伝統の浅いクラブです。そして、その浅い伝統をさぐってみてみると、ここ数年の成績はおもしろいところまでいって、三位という成績でした。そしてこの三位という、ジंकウスがなかなか破れないのです。(さんねん。)

しかし、新人戦では優勝という輝かしい成績をおさめました。しかし、優勝という輝かしい成績も、練習の成果とチームワークのよさ、うまさと個人個人の力が全部発揮されたからだだと思います。中体連前の練習は、例年どおり個人個人の技とチームワークをよりよいものにしよう



うとしたので、充実した練習ができた。しかし、部員一人一人が部員の自覚をもって練習に励んでくれたらもっと充実した練習ができたのではなかったかと思われた。その自覚という点では個人

新人戦前の練習は、中体連に出た者がほとんどであったため、チームワークもよくあとは基礎、個人技に重点を置いて練習をしたため充実した練習ができた

◇ 庭球部

思われます。それから、冬休みや冬の間のトレーニング(体力作り)がたりなかったのではなかったか。しかし、そのトレーニングに出てこない人もいたように感じられる。後輩諸君、前に書いたこと、つまりチームワーク、個人個人の力をよりよいものにし、体力作りをして、新人戦での優勝を中体連にも見せてくれ。そのためには、一に練習、二に練習、三、四がなくて五、六に練習しろ。最後に「目標に向かって突っ走れ」「練習なくして目標なし」

毎年のことではあるが、大勢の新人部員が入部し、一年もたたないうちにやめていく。これが、今の庭球部の現状である。このため今年の中体連は三年生の部員の減少が目立ち、試合経験の少ない二年生を中心とした苦しいものとなった。結果は、惨敗であった。個人戦では男女とも三位をとったものの、やはり団体戦での惨敗ということが強くみんなの胸に残った。「あの時、もっと練習しておけば。」と、だれしもそう思ったに違いない。しかし、この経験をいかし、新人戦では、男子一位と三位。女子は二位という輝かしい成果をおさめることができた。中体

夢見て努力してきたのだ。そんな中で「



連で敗けて初めて、そのくやしさを味わい、努力をした結果が、新人戦に表われたのだ。太陽が照りつけるコートで暗くなるまでボールを追いつけた日。のどがかわき、汗でシャツがジッシリぬれるまでボールを追いつけた日。誰もが勝利を

いつた誰のために、こんなにまで練習をしなくてはならないんだろう。」と考えたこともあった。今、考えてみると、結局、自分のために、自分が本当に庭球を好きだからこそ、ここまでがんばれたのだと思う。勝利というものは、空に浮ぶ雲のようなものだ。手をのばせば届きそうで、届かない。努力を忘れたものは二度雲を見ることができないのである。努力して、し過ぎるということはない。一、二年の諸君は、この努力を忘れないでほしい。

◆ 体操部

六月の中旬、中体連まであとわずか一カ月あまりにせまったある日、わが体操部は中体連の規定の練習に取り組んだのであります。今年も優勝を！という目標で、日夜練習に励んできたのであります。練習はかなりきつかったが、弱音を吐くものはだれひとりいません。弱音を吐くものなら、泉先生のこわい顔がちらついてはなれなくなってしまうからです。かくして月日は流れた。

中体連の当日、部員一同ソワソワドキドキ落ちつきません。先生はきびしい表情、かつ心配そう。いよいよ私たちの演技、名前を呼ばれたような気がして、大



きな声で「ハイッ」と返事をして、笑われた……こんな失敗も、なにしろメンバー全員初出場なのです。しかし思っていたより点数がいいよ。3位以内におさめるんではないかしらんと内心ウハホ。でもですね、運命の女神はいたずらなんです。次の演技で夢は破れたり……というわけで男女共、入賞することはできま

せんでした。でもがっかりしないで、来年があります。一・二年のみなさん、自分の演技に自信を持って中体連にぶつかってほしいと思います。(ヶ月しないてね?)まわりの人はみんな畑の中のハクサイだと思つてのびのび演技するのだよ。熱心に指導して下さった泉先生、先輩に感謝します。

◇ 籠球部

わがクラブは、昭和四十年の中体連初参加以来、まだ一度も入賞したことがない。それは皆さんもご存じのことと思う。男子は、昨年の中体連に銭亀沢中学校と戦い、おしくも負けた。新人戦では一回戦不戦勝、二回戦は七飯中学校と対戦、延長三分間で三點差で勝ち上り、三回戦で光成中学校に敗れました。

男子新人戦メンバー

氏名	学年	番号
東 哲也	2	4
武田 尚	2	5
佐藤 隆行	2	7
山内 英明	2	8
若林 正記	2	9
斯波 昭宇	1	10
石畑 弘樹	1	11
山内 公咲	2	12
横山 昭彦	1	13
若林 邦明	1	14
佐々木 利哉	1	16
柴田 忠克	2	17

女子の新人戦でも一回戦で光成中学校に惜敗、男女ともに陽の目をみることにできなかったのです。しかし、これから戦いです。この汚名に負けてはなりません。これから新しい籠球部として汗にまみれ、努力を積み上げ、強敵を蹴散らしていこう。私たちは先輩といっしょに苦勞を共にしてきて得たチームワークがある。これから練習に一段と身を入れ今までの以上にがんばろう!! たのもししい小西先生も

女子新人戦メンバー

氏名	学年	番号
金沢保美子	2	5
若松みどり	2	6
西村 弘美	2	7
佐久間まゆみ	2	8
高萩 清美	2	9
米坂 智恵	2	11
伊藤 妙子	1	12
庄内 裕子	2	13
綱森公仁子	1	14
石黒真理子	1	16
齋藤久美	2	17

◇ 家庭科部

今年、指導してくださる先生が成田先生から齋藤先生に変わりました。私たち家庭科クラブは、大半が2年生で少ない人数ながらも、みんなの協力で行ってきました。

10月に行なわれた文化祭には、わが家庭科クラブの見せどころだと言って、慣れない手つきでレース針を持ち、レースあみをやったのです。みなさん、私たちのあんだレースを見てくれましたか?

家庭科クラブの活動がいちばん多く行なわれたのは、やはり文化祭の



近くになってからでした。文化祭に展示する作品を作るため、放課後おそくまで残って活動しました。でも、人数不足とあったこともあったせいか、思うようにいきませんでした。

クララ活動でみんながいちばんはりきってくれるのは、やはり調理実習です。今年は教生先生の河合先生と、本間先生が短かい間でしたが、いろいろ指導してくださいました。

自分たちで作ったものを、机をかこんで食べるということは、たいへん楽しいものです。ちよつとくらい失敗したものもみんなは、「おいしいね。」といって味わって食べていたような?・・・とにかく今年は、調理実習を多く行ないました。来年は、今年でできなかったことを反省し、いろいろ工夫していきたいと思っています。

最後に、いろいろ指導してくださった斎藤先生、どうもありがとうございました。



◆ 音楽部



ただ、ひたすら歌をうたう。それが、音楽クラブが今年やったことでありました。

いくらか声を出しても「ダメ、ダメ。」と先生から言われ、半分やけになつてわめきちらし五稜中の校舎を、だいぶおびやかしたようでした。なかなかこない男子を、ひきずつて来、ピアノに向つて「アッ アッ アーッ。」と発声練習を毎日。「あんな声、人間の出せるものか。」などなど思つてみても、やはり、やらねばならぬ。がんばらうと、必死に練習したつもりでした。クラブが終わると、おながへつて「わたひ 死・ぬ。」となつたのですから、やはりやったのです。しかし、しかし、今年も(一も一とはなさんといやな言葉でしょう。)9月の音楽コンクールでは、賞状をもらえませんでした。正確に言うと、『参加賞』なるものは、もらいましたが、「もしかししたら」の夢は、またもはかなくちつてしま

◆ 読書部

つたのでした。来年こそは、ほんとうにがんばつてほしいものです。「我々は、4位なのだ。」などと強がり言わずにすむように1注 3位までしか発表しないのです!

もう、『来年こそは』の言葉を、使わなくともすむように、音楽を楽しみ、味わい、かつ入賞をねらう。がんばつて下さい。

本堂先生を中心に、三十名程の読書クラブ、この一年間を振り返ってみると、人の集まりなどで、これといって話し合いの場をもてなかったのが何より残念です。他校の読書クラブは何をしているのだろうかと考えたこともしばしばありました。

今年のクラブ活動は、一ヶ年(一)と二冊本を読み、読書記録を作り、それを提出することでしたが、提出された読書記録は数冊、これには少しばかり驚きました。もっとクラブ活動に協力してほしい



科学の進歩は目覚ましく止まるところを知りません。宇宙を神秘的に見た時代

◆理科部

ような気がしました。それに今年は、読書会のような一冊の本をみんなで見、感想を言い合う場を持ちたかったのですが、思うような計画がたてられず、中止になったのです。このように、これといった活動をしなかったため、来年は今の二年生を中心に、クラウの年間計画をたて、文化祭にも積極的に協力し読書会などの話し合いの場を持つてもらいたいです。最後に、本堂先生、今年一年本当にありがとうございました。

はすぎ去り、刻々とそのウエールがはがされ、人工衛星には誰も驚きを示さなくなりしました。21世紀に生きる将来性をもつ私達は科学に強くなければなりません。理科クラブへ来ませんか。

今年の部活動は残念ながら思うようにいきませんでした。かつて理科クラブは気象・天体観測・解剖などあらゆる分野で継続的な研究をすすめていました。しかしこの頃の部員はいいかげんな気持ちで入部する人が多く、積極的にテーマをきめ根気よく真理を追求しようとするものが少ない状態です。

新年度からは今の一・二年諸君が多数入部してひとりひとりが何かテーマをもち研究をおしすすめる理科クラブが発展するようお願いしています。

◆美術部

日常の中や、身のまわりから、美を見つけることは簡単です。雲、緑の木立、または、一本の線などからも美を見い出すことができます。ほんうちよつとした物にも気をつけてみると違った面での美しさというものに気がつくはず。そ

のちよつとした事を心の中だけでなく、心の外に出してみませんか。そしてそれを絵に描いてはどうでしょうか。

私の好きな画家の中に、ゴッパという人がいますが、この人は、ゴッパの派出な生活がいやになって、タヒチ島に移り、そこで一生を過した人です。

ヨーロッパの派手さの中にある人間が作り出した美を嫌い、自然の中にある、粗野ではあるがその中にあるほんとうの美を見つけた人です。黒人土人、青い空、緑の海、赤い花（ハイビスカス）、思い浮かべてみて下さい。素晴らしい風景ではないでしょうか。きっと彼には、心をいやすものがあつたんだと思います。

人は周囲のものによつて、心は乱れ、それを嫌うようになるし、周囲のものによつて心はなごむのです。だが、その人の目は周囲のものをどう見ているのでしょうか。ものを正しく見る目を持ちたいし、持つてもらいたいと思います。私は美術部でデッサンをしたり、文化祭のために装飾をする中から、私はずいぶん「ものを見る眼」と「美しさを感じる眼」を養いました。ほんとうに意義のある一年だと思ひま

全校生徒を対象にしたマスコミに関する アンケートの結果について の分析

マスコミ部



◆ マスコミの力の巨大化した現代に生きるわれわれ中学生の真の姿はどうあるべきか？ あふれる情報量をいかに正しく選択するかという能力が、今日ほど要求される時代は過去なかったのではないか。

◆ 次にのべるものは、われらマスコミクラブが総力を結集して、現在の中学生像について、分析したものである。内容は不足な点も多いとは思いますが、これをもとに諸君ひとりひとりに真の中学生はいかにあるべきかを考える手がかりの一つにしていただけは幸いです。

3	2	1	番組
マリちゃん とデート	プロレス	ニュース	
17	11	21	1年
0	19	23	2年
14	20	23	3年
0	1	1	みどり
31	51	68	計

2. 嫌いなテレビ番組

うです。これは、単にホ
らじゃなく、番組の内容が
だと思いのです。向上し
たから

3	2	1	番組
洋画	ありがとう	とび出 せ青春	
7	7	50	1年
6	17	28	2年
20	18	29	3年
1	3	5	みどり
34	45	112	計

1. 好きなテレビ番組

1位、2位と
も昨年と同じ。
なぜでしょう。
と少しばかり頭
をひねってみる
と……ニュース
にはおもしろ
味がないから
社会の動きや
国際問題に、あ
まり関心がない

好きなテレビ
番組では、昨年
と同じく青春も
のが圧倒的多
で1位をしめて
います。4位に
は歌謡番組が
2位にホムド
ラマがはいつ
は少したよ
は少したよ
は少したよ

3	2	1	番組
ヤング ヤング ヤング	ニュース	パンチ パンチ パンチ	
3	7	11	1年
6	8	4	2年
4	9	20	3年
0	2	2	みどり
13	26	37	計

4. 嫌いなラジオ番組

3	2	1	番組
オールナ イト日本	サンデー J.S	アタック ヤング	
13	11	9	1年
18	31	29	2年
10	16	41	3年
0	7	6	みどり
41	65	85	計

3. 好きなラジオ番組

でしょうか。ちよつと寂
ど残酷なものです……。
目にあまるほ

て気づくこと。
合計の人数の少
ないこととす。
これは嫌いな番
組が集中してい
ないというより
も、好きな番組
しか聞かない人
が多いからだ
考えるのです

深夜放送番組
に人気があるよ
うです。深夜放
送は放送時間が
長いので聞きご
たえがあるの
しょう。でも、
ずつと聞いてた
ら、体がもちま
せんぞ！

3位	2位	1位	順位	学年
キラ	死	バカ	言葉	
0	0	15	1年	
0	28	40	2年	
23	9	35	3年	
0	0	2	みどり	
23	37	92	計	

6. 嫌いな言葉

「バカ」「死
が多かつたこ
と。また、下
位では「さよ
なら」「うら
ぎり」などが
意外に多かつ
たこととす。こ
れらのことは
があるの、お
互いの関心が
すから、これ
の関心を高め
ていきましょ
う。

3	2	1	言葉
愛	友情	ありが とう	
0	18	5	1年
4	18	32	2年
12	4	29	3年
0	0	3	みどり
16	40	69	計

5. 好きな言葉

どうでしょう。

と2位が入れ
わっただけ
3年のところ
を見てくださ
愛という言葉
美しさにか
ているので
4位には「好
き」

7. 好きなマンガ家

3	2	1	順位	学年
赤塚不二夫	永井豪	一条ゆかり	アンガ家	
15	11	21	1	年
2	8	6	2	年
9	12	15	3	年
0	0	9	みどり	
26	31	51	計	

マンガ家について、個人差がありまして、人それぞれ好みが違うのだと思

うのです。でもあまりマンガを読まない人は、よくわからないのかしら。

8. 好きな色

3	2	1	色	学年
青	青	白		
9	8	13	1	年
13	0	31	2	年
19	34	71	3	年
1	9	12	みどり	
42	51	126	計	

3	2	1	色	学年
赤	黒	紫		
0	0	18	1	年
0	13	9	2	年
18	15	41	3	年
3	5	4	みどり	
21	33	72	計	

9. 嫌いな色

好きな色では、順位は昨年とまったく変わりません。白という色、つまり「清純さ」なのですね。また青は……空の色の海の色、そして青春、若者の色だと思いのです。嫌いな色の方は、紫、黒、そして4位の茶「おとなの色」っていう感じが強いみたいです。やっぱりみんな若いのだ。

10. 好きな音楽

3	2	1	順位	学年
歌謡曲	クラシック	フォーク		
19	13	45	1	年
23	12	52	2	年
17	40	84	3	年
3	1	10	みどり	
62	66	191	計	

11. 嫌いな音楽

*クラシックが去年にくらべ、見直されてきたのはいい傾向だと思ひます。(ことに三年生が多かった)やっぱり今の時代の主流のフォークが多かったことがわかりました。(だれにでも容易に出来る所がいいのではないか。)

3	2	1	順位	学年
民謡	ジャズ	ロック		
20	15	13	1	年
12	19	48	2	年
22	43	25	3	年
4	10	1	みどり	
58	87	87	計	

*ロックが一位であることは、意外でありました。みんなは、一方向的にしか受けとれないのでは？ ロックといつてもいろいろ種類があるものを、鑑賞するように見たいものです。

12. 好きなスポーツ
気づく点は、好きなスポーツでは、球技が上位で、嫌いなスポーツでは体操などが上位であるということです。また、

3	2	1	順位	学年
バスケット	サッカー	バレー		
4	28	43	1	年
22	0	22	2	年
27	34	54	3	年
6	1	11	みどり	
59	63	130	計	

13. 嫌いなスポーツ

3	2	1	順位	学年
水泳	陸上	体操		
7	15	35	1	年
14	23	0	2	年
11	26	44	3	年
0	2	2	みどり	
32	66	81	計	

ことから、全般的にテレビ・報道機関による影響も強いと感じました。それから、見るスポーツから自分で体を動かして行なうスポーツに積極的に参加したいものです。

3	2	1	順位	学年
わらわ	どちらでもない	よい		
31	54	48	1	年
11	5	10	2	年
12	59	85	3	年
2	12	8	みどり	
56	130	151	計	

*わるい、どちらでもないが以外に多かった。(生徒はあまりこの問題に、関心をしめさないようです。)

髪についての問題を考えてみる必要はないのだろうか。

15. 深夜放送を聞いていますか

項目	学年	年	年	みどり	計
きかない	57	55	4	1	107
ときどき	0	0	0	2	155
いつも	42	87	26	3	30
	8	13	0		

* このアンケートを集計して気づく点は、ときどき聞くという人が多かったこととです。また、意外だったのは聞かないという人が多いということです。マス

勉強のあいまに聞いているという人は、いいと思います。勉強中聞いている人は、勉強の能率に関係ないか考えてもらいたいと思います。また、ただ長々と夜遅くまで聞いている人は、深夜放送を聞くことによって、何か得るものがあるかどうか考え、自律的な生活のあり方に注目したいものです。

16. 理想的な先生のタイプ

少しむずかしい質問だったのか、それとも書きにくい質問なのか、あまり書いてくたさった方は多くありませんでした。が、「河野先生のような」が1位におど

タイプ	1年	2年	3年	みどり	計
河野先生のような	3	7	7	1	24
理解のある	2	4	12	4	36
ひいきしない	3	7	7	1	24
	2	4	12	4	36
	18	21	22	0	41
	1	4	0		

り「理想」のだと私は考えてしまいます。もしも、まわりの先生がみんな、そんな先生になつてしまつたら………どんな気がするでしょうね。

最後に、私達が感じたことを、のべてみますと、一通りアンケートを見て痛感したのは、あまり束縛されずに生活しているということ。

そこで自分勝手に行動し、妙な画一がみられ、あまり個性がない。又、すぐ他人の意見に引きこまれる面が、意外に多いことが、わかつた。それはアンケートを取つて、白紙で返されて来たのが多か

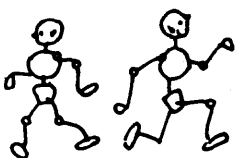
テレビの影響だったので、調査人数が、あまりにも少なすぎたことです。

もう一つ気がついたことは、このアンケートで、みどり学園全体のきらいなところ、結局、理解とばでは「友情」「親友」等が非常に多い。きしきし、かたこととです。

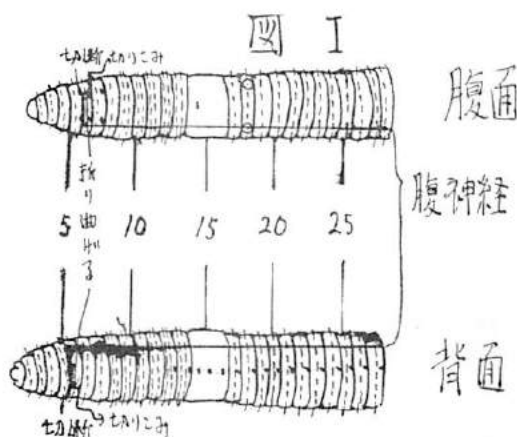
その他のアンケートでラジオ・テレビ番組は、昨年同様に、娯楽ものが好まれています。他、音楽、スポーツは、若い世代の親しみのある先ものが、多く好まれているようです。

私たち（マスコミ部）独自の統計で、五稜中学校の生徒を調べた結果、以上のことが浮彫りされたと思います。これはほんの一部のアンケートではありますが現代中学生の姿を、いく分なりとも反映できたのではないかと考えます。

マスコミ部（佐藤・竹島・高橋・金沢）



私たちの研究



◆動機—ある時、ミミズについて実験していたところ四匹のうち三匹まで再生したのに対し一匹だけが再生しなかった。別にミミズが悪かったわけでもないし、切りかたを変えたわけでもない。しかし再生しなかったのは事実なので、どこをどんなふうに切断するとどんな違いがあるのかを追究することにした。

ミミズの再生について

2年 梨本雅俊

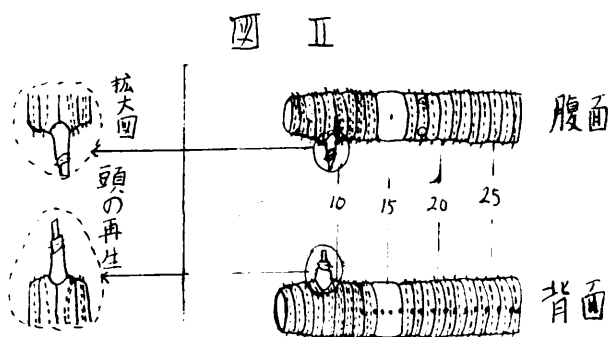
◆手順—①は頭端を切断する。②は体の中央より切る。③は頭部の上から約二・三mmの細胞を取り除く。④四頭端を切断しさらに腹神経を後方に折り曲げる。そして、神経の先端が接している所にキズをつける。(ミミズは別々に入れ、番号をつける。)

◆実験内容—①は頭端を10個体切る。②は体を中央より切る。③は口から数えて20個体、25個体までの上から約2・3mmの所を切り取る。④は頭端(口から10個体めまで切る)を切断し、腹神経を後方に曲げる。そして、神経の先端が接している所に切りこみを入れる。

◆結果—①は再生はしたが頭部ではなく尾が6個体発生した。②も、やはり①のように尾が発生した。③は切る前と同じようになった。④は切断面には再生がおこらなかった。

道・日本学生科学賞受賞作品

しかし、そのかわりに折り曲げた神経の先端が接している所からは、頭の再生がおこつて来た。図Ⅱ参照。
◆結論と予想——(一)で考えられる事は、まず異形再生には極性が無視されて前後軸が逆転したという事と、過少再生がおきた結果こうなつたのだと思う。



(二)も(一)のように極性が無視され前後軸が逆転し、過少再生がおきたから、頭の再生ではなく尾の再生がおこり、その上に切る前の数と切つた後の数があわなかつたのだと思う。(三)は皮膚の再生といつていいのかわからないが、どちらもあると思う。四で考えられることは、再生には一般に切り口に神経が存在していて傷または切りこみ

がなければならぬ。

◆まとめ——以上の実験結果を見ると、おもしろい点に気がついた人があつたと思う。それは個体発生の場合には胚葉と器官の関係は必ず厳重に保たれているが、今までの実験結果から考えれば、個体発生とちがひ胚葉と器官の関係は必ずしも厳重に保たれてはいない。それに特別な以外は常に切り口に対し直角である。

「再生のおこる場合とおこらない場合がなぜあるか。」という疑問については次のような事が今までの実験結果で考えられる。まずおこる場合というのは(四)の実験でわかるように切り口には神経の先端が接している時であり、逆におこらない時というのは、切り口に神経が存在していない場合ということになる。

電球の放射熱について

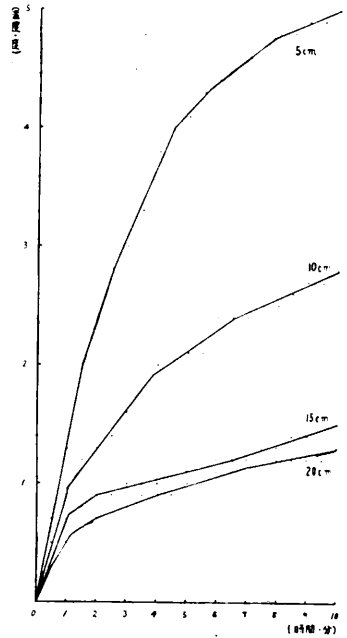
2年 田 辺 康 一

◆動機——電球を誤つてつけっぱなしにしていたら、下に置いてあつたプラスチック製の下敷きが、高温のために変形してしまつていたことから。

◆実験——他の条件を統一して、電球、温度計間の距離だけを変えて、温度変化を三〇秒毎に十分間測定する。

——結果——グラフA参照。

——追加研究——この結果を、「距離による照度の変化」を表わすグラフと対比させ、関係を調べる。



—結果—放射熱と照度は、ほぼ比例している。

—考察—照度の公式により、放射熱量は光源からの距離の二乗に反比例している。

◆実験二—距離その他の条件を統一して、電球を色の異つた数種（実験は六種）のセロファンで覆い、温度変化を三〇秒毎に十分間測定する。

—結果—グラフBでははっきりしないが、白色光（赤・黄・橙・紫）緑・青の順（つまり暖色→寒色の順）となつた。

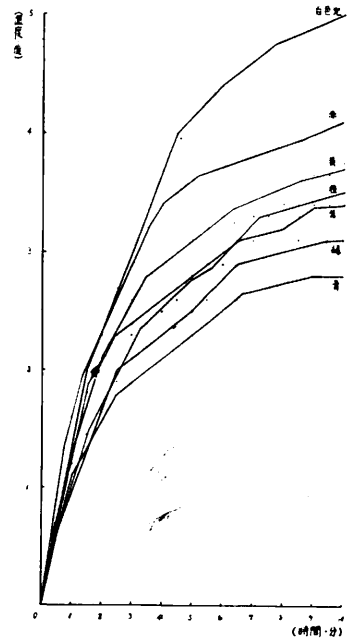
—追加研究—これらの色によるスペクトルの違いを観察する。

—結果—温度の広い色ほど、寒色が全体にしめる割合が増したり、全体がうす暗くなつたりしている。

—考察—放射熱の温度差は、その光のスペクトルと密接な関係にある。（どのような関係かは明瞭でない。）

なお、放射熱には可視光線の他に赤外線にも深い関係があるようだが、この研究では触れられていない。これは、今後の研究の課題としたい。

道・日本学生科学賞受賞作品



（後記）初めは暇にまかせて何の気なしに始めた研究だったが、いつの間にかここまで事が運んでしまった。

夏休みの作品として提出して半年、この原稿にふりまわされっぱなしだった。今まで十五・六回は、書き直したことになる。途中、OHP用紙の紛失事件などもあって、次の日のために徹夜したことも何度かあった。今になってみると、自分でもよくできたものだと思われている。

十二月中旬、書き直しの原稿を提出し、「これでやっと解放された。」と思つてから二カ月余、もう一度書いてくれと言われた時には、いいかげんうんざりした。

これこそ本当の最後だと信じつつ書き上げたが、いくら自分が精魂こめて作った物とはいえ、十五・六回も書けば飽きるに決まっている。

そればかりは、どうしようもないことだろう。

そういう訳で、文章が少々雑になっていると思うが御了承願いたい。

教職員コーナー

・アンケート・

先生 教えて下さい

一年団の先生へ

- ①先生の愛読書は？
- ②教師にならなかつたら今頃どんな職業についていたと思いますか。
- ③先生の好きなタレントは？
- ④卒業生へ一言

・八反田 稔（A担任）

1. 「セキドクシヨソはセンリのメンボク」とかや、読まねばと思う事のみぞ、かなしき。
 2. 吾、この世に生をうけ、広き事望む心や切、茫洋たる天地、ブラジリヤにて飄々と生くることこそあらまほしけれと。
 3. 今は昔のモノガタリ。「紅毛碧眼の美女」その名はスーザン・ハイワード
 4. 己に克つて人に受くべし、饒舌の分疏は醜態たるべし。
- ・保坂 武道（B担任）
- 「城の崎にて」（文体の粹）
精神科の医師
エバさんと金田正一

風邪ひくなよ。

・門脇 初代（C担任）

藤村詩集
どこかの会社の秘書かな
平尾昌晃・森光子
常に己れを反省して前進せよ

・金崎 敏一（D担任）

もつか「ドクトルナントカ」つてやつ
船に乗っていると思うよ
オードリー・ヘップバーン
人間は人間なのだ。動物じゃないのだ

・岡本 守（E担任）

スポーツ誌
国鉄職員
森 昌子
有言実行

・館洞 光宏

「嘆異抄」
市役所の企画室あたりか
男ならば宇野重吉、女ならば新珠三千代
「十分前主義」——余裕をもって何事も

・斎藤美都子

「吉井川」読みたいと思いますが、
本が手に入りません。

2. 温床作りの花やさん。
3. 吉井川のおりんさんになる女優さん、
4. 名前はわかりません。
最後まで力をぬかないで。

二年団の先生へ

- ①長髪についてどう思いますか
②先生の弱点は？
③先生が中学時代一番好きだった流
行歌は？ またその理由は
④卒業生へ一言

・米田 忠夫（A 担任）

1. 「容姿は自分をあらわす」と言われ
るように内面的な現われでもあると
思う。もちろんすべてそうだとは思
わないが、好ましくないと思ってい
る。
寒さに弱い夏猫である。
特になかった
4. 3. 2. 精一杯のことをしてみて下さい。

・村田 倅子（B 担任）

1. 男性の袴足が魅力ポイントの一つで
す。長髪については何となく不潔感
をおぼえます。
3. 2. 1. なつかしのブルース。ロマンチスト

4. だったからでしょう。
他人を受け入れられる寛大な心を持
って下さい。

・林 俊夫（C 担任）

1. 「眼は心の窓」といいますが、人間
の外面も心のあらわれと思います。
中学生は中学生らしい髪型がのぞま
しいと思う。
2. 厳しさに欠ける
3. 空の神兵
4. 「やろう」と思えば、何でもできる。
5. おおいに頑張ってください。

・滝村 浩平（D 担任）

1. 長髪というものには好感がもてない
し学生・スポーツマンにとつて清潔
を保つことは大へんなことだと思
う。
2. 機械に強いが女性に弱い。
3. 流行歌を歌うようなゆとりはなかつ
たような気がする。
4. 3. 2. 1. いつも自分の目標を見失わないよう
に努力してほしいと思います。

・小西 孝男（E 担任）

1. 髪が気になる時は今ではない
2. 3. 2. 1. それは……です。
態度のでかさとかコトバ使いの粗雑さ
貧しく性能の悪いラジオしかなく、
特になし

4. 筋を通すこと、自分をいじめられるだけ
けいじめること。

・亀松 光美

1. 中学生らしく、ふつりの長さに
気がよわい
2. 3. 2. 1. とくになし
4. 自分にきびしく。人に好かれる人間
に。

・本堂 潤悦

1. 昔は好きだったし、長くもしていた。
2. 3. 2. 1. ただし流行ではなかった。
人づきあいへた。近づいてくれる
のはうれしいが、自分から近づけな
い。
3. 2. 1. 選べるほどたくさんなかった。
自分自身でなく仕事（なんでも）
に意識を集中するとき、自分がよく
伸びる。

・斎藤 正宏

1. 2. 3. 2. 1. よく似合い、気品があつたなら
思ひらず
赤い夕陽のふるさと
曲名から何を想い浮かべますか、そ
れと同じです。
4. 3. 2. 1. 科学者の冷静さ、詩人の鋭敏さ、兄
弟の優しさ。

三年団の先生へ

- ①先生の一番好きなのところは
- ②先生の高校受験の時のようすは?
- ③自殺を考えたことがありますか?
- ④五稜の生徒へ一言

・進士 継昭 (A 担任)

1. ときは春、ひばりやうぐいすの鳴声を聞きながら、紺碧の空をながめ、夢想できる芝生のはえた丘の上。私の中学時代の担任の先生は国語の先生でした。担任の先生は授業時間にただ一回だけ。
2. 担任「おまえ、どこうけるんだっけ!」「まあ、いい。おまえが落ちたら、他のやつも困るだろう。」
3. 天が与えた貴重な命を大切にすることこそ親と己れに感謝することである。命を大切にすることの重大な意味あいは自殺を考えることすらおそろしいからである。
4. 世の中が騒々しくなつて、心静かに自分と自分のまわりをみわたり、自分の考える時間がつくれなくなつてきています。

ほんとうはその時間をつくること

1.

2.

川原エイ子 (B 担任)

出来るのだけど、あまりにも自分のまわりが騒々しいので、つい無意識的に自分も騒々しく動きまわらなければならぬような気になつてしまひ、自分や自分のまわりの騒々しさの根本は何かを考える時間がつかれないでいるのです。自分と自分のまわりを黙つてみつめる観察眼とそこから得たことを自分を考えるときに生かせる力を養つて自分について考える時間をつくつてほしいものです。

春、白い雲がぼつかり浮かんでいる。やわらかい陽の光が若芽をつゝんでいる。遠くの方からシューベルトの曲が午後のひとときをかなでている。レモンの香りがひろがってくる。いいなあ!

学制が今と異なり受験内容もさまざまでした。北海道第一師範受験のころは、甘い思い出、苦しい思い出がいつぱい。筆記試験は、数学がつかつた。消すこと数回で紙がすくなくなりあつた。びつくりで答案を上げた。実技は歌唱や体力テストがあり、重い砂袋を両手にさげて走るの辛かつた。受験日前日から熱が下がらず、札幌までの夜汽車は大混雑だったので、最悪のコンディションでした。合格発

4. 3.

表をきいたときは、だめだと思つていたから信じられない気持ちでした。甘い思い出は、そつと胸にしまつておくつもり

かけがえのない生命、ひとりひとりのいのちを大切にしたい。

いろいろあるけれど、その中の一つ後始末をきちんとしてほしい。ふだんの生活のなかで習慣化されていまいような気がする。又学習の面でも残しが多いように思われる。その日の未解決のことはその日の中に解決していくことをたてまえにしていつたらと思う。(むずかしいけど、がんばらなくちゃ)

・佐々木雄幸 (C 担任)

1. 鏡の前ーわが体躯が多少なりともスマートになつていくのを見ると、ス・ト・テモ

2. 古い人間ですので旧制中学校に入りました。競争率は今より高かつたのは、本当か?

3. その質問に答えるようせん細な神経と身体の主ではないので

4. これに似た質問を何年も連続受けています。如様な質問をしない生徒に

・泉 良子（D 担任）

1. 落葉の舞い散る停車場は：（唄あつたけ）
2. のんびりムード。中三学力テストといつて全員が自校で受験するのですから気楽なものでした。
3. なし。但し何十年後、恍惚の人になることが確実であれば、まともなうちに、ちよつと考えてみましょう。たくましさはほしいですね。

・永谷 嘉一（E 担任）

1. 人生いたるところ青山あり。現在いるところが一番すきです。（すきになるべきです。）
2. 昔々のことです。まわりのやつらが皆大へん大きく見えた記憶があります。
3. 私は生来大へん楽天家なので。スポーツが落ち目なのが大へん残念です。

・金田 豊秀（F 担任）

1. よく晴れた日の郊外
2. 旧制の中学校から新制へ変わったので、残念ながら高校受験はありませんでした。
3. 中学への入試は筆記じゃなく口頭試問が主、当日だけはやはり緊張しま

した。
生とか死とかについて中学時代友と語った思い出はありますが、さて自殺までは。

集団としてのものたりなさは何にやるのかな。

・玉木 忠

1. 日曜日（休日）のわが家の中、平凡デス
2. 旧制中学。小六でもう受験地獄、今より競争率大。しかし今よりノンビリしていたし、すんなり入った。
3. フシギです。
4. 地球より重いって言うでしょう。どこに捨てるの？ そんな場所、あるの？ 少々自分勝手というか、我儘だね。

・大平 元昭

1. よく晴れた日のスキー場の頂上、下にくるとガツクリ。
2. 卒業生28人の田舎中学で「井の中の」のたとえのようにのんびりすごしていた。今思うところは小学区制で、中部が西かなどと考えなくてもよい時代でした。
3. あまり物事にこだわらない性格なので、ない。
4. 五稜の生徒は外から見ていた方がよく見えた。集団のためにも努力する

生徒でありたい。

・笠島 寿泰

他に影響されず自らの思うがまま、考えるまゝ、気ままに行動できるところ。

（現実にあるかな？）

現在の中学生のように一生懸命勉強した記憶はない。気楽でしたよ。ますます生存競争はげしくなり、君たちは本当に気の毒だね。自分の悩みごとを解決するのに追われる余裕すらなかった。今後の人生において是不明、しかし「死」はいやだね。健全な精神と肉体を養い、己れに厳しい人間となれ。



学年に属しない先生へ

- ① 尊敬する人は
- ② 好きな言葉は
- ③ 中学生という言葉から何を連想しますか
- ④ 卒業する生徒に一言

・梶原 四郎（校長）

- 4. 3. 2. 1.
- 人間味の豊かな人は誰でも
- フアイト
- 清潔
- 常に目標をもつて

・村上 健介（教頭）

- 2. 1.
- 大隈重信
- There is a tide in the affairs
of man — Shakespeare
- 4. 3.
- 萌芽
- 自分を大切に

・山田 孝子（養護）

- 4. 3. 2. 1.
- 努力？
- 清潔・清純
- 体と共に心の健康
- 幸福と感謝の心を持って障害をのり切っていくことを祈っております。

・高橋 市雄（事務）

- 4. 3. 2. 1.
- 邂逅？
- 無垢
- 地の塩、世の光になれ

・柳沢 美代（事務）

- 4. 3. 2. 1.
- 和？
- 青春
- 心身共に健康で

・杉浦ミヤ子（事務）

- 4. 3. 2. 1.
- 勤勉？
- 若芽
- 健康第一に

・高田 広栄（用務）

- 4. 3. 2. 1.
- ？
- 人生即努力即努力即幸福
- 新芽
- 人生には希望、行動には勇氣

・沢村佐次郎（用務）

- 4. 3. 2. 1.
- ？
- 人生はこれから
- 努力
- 卒業おめでとう

・木村 照江（用務）

- 4. 3. 2. 1.
- 信頼できる人
- 花より実
- 希望
- 努力と忍耐の精神



四十七年度 学校日誌から

四・五	始業式（普通学級一六・みどり学園三）	八・二二	二年S・T検査	一・二九	生徒会立会演説会
四・六	新入式（亀松・玉木・林・八反田・斎藤美先生）	八・二八	PTA臨時総会	一・二四	生徒会役員選挙
四・七	入学式・PTA入会式	九・二〇	校外生活委員会	一・二八	三年進路父母懇談会
四・八	対面式	九・二一	中体連八種目大会	一・二九	一年父母会
四・一〇	検診はじまる	八・三〇	第一期終業式	一・二〇	校外生活委員会
四・一八	避難袋使用訓練	九・二二	全道中学校陸上競技大会	一・二一	三年父母会
四・二四	相談週間はじまる	九・二五	第二期始業式	一・二二	一年AAIテスト
四・二六	PTA総会	九・二六	教育大教育実習生着任式（六名）	一・二三	全校父母会
五・一	前期生徒会委員・学級委員長命式		校内水泳大会	一・二四	第二期終業式
五・二〇	生徒総会		中体連水泳大会	一・二五	新生徒会役員任命式
五・二五	一・三年知能テスト		校内競技大会（三年）	一・二六	
五・三〇	修学旅行出発（六・二帰函）		PTA常任委員会	一・二七	
六・一	一・二年春の遠足		観劇（地平線の五人兄弟）	一・二八	
六・九	二年 函館山		於市民会館	一・二九	
六・一四	第一二回体育大会		校内球技大会（二・一年）	一・三〇	
六・一七	交通安全教室		後期学級委員選出	一・三一	
六・二四	開校記念日		秋の遠足	一・三二	
六・二八	中体連陸上競技大会		一年 当別	一・三三	
	映画教室（札幌オリンピック）		二年 大沼	一・三四	
			三年 駒ヶ岳	一・三五	
			教育大教育実習生退任式	一・三六	
			PTA体力測定	一・三七	
			文化祭（一五）	一・三八	
			生徒相談日（二八）	一・三九	
			小音楽会	一・四〇	
			生徒総会	一・四一	
			一・二年映画教室	一・四二	
			（はるかなる青い海）	一・四三	
			PTA懇談会（中学生の心理）	一・四四	
				一・四五	
				一・四六	
				一・四七	
				一・四八	
				一・四九	
				一・五〇	
				一・五一	
				一・五二	
				一・五三	
				一・五四	
				一・五五	
				一・五六	
				一・五七	
				一・五八	
				一・五九	
				一・六〇	
				一・六一	
				一・六二	
				一・六三	
				一・六四	
				一・六五	
				一・六六	
				一・六七	
				一・六八	
				一・六九	
				一・七〇	
				一・七一	
				一・七二	
				一・七三	
				一・七四	
				一・七五	
				一・七六	
				一・七七	
				一・七八	
				一・七九	
				一・八〇	
				一・八一	
				一・八二	
				一・八三	
				一・八四	
				一・八五	
				一・八六	
				一・八七	
				一・八八	
				一・八九	
				一・九〇	
				一・九一	
				一・九二	
				一・九三	
				一・九四	
				一・九五	
				一・九六	
				一・九七	
				一・九八	
				一・九九	
				一・一〇〇	



卒業生におくる

3年担任の先生と
生徒とのある日

A組担任 進士先生



B組担当 川原先生



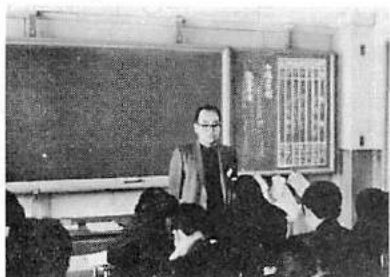
C組担任 佐々木先生



D組担任 泉先生



E組担任 永谷先生



F組担任 金田先生



	我	
若	が	愛
者	す	る
へ	の	
	断	
	想	

進士継昭

妖しげな理想をいだいて、何事にも真剣に考える私と怪しげな笑いをもち、先生を刺激することにこの上ない魔力を発揮する三十八人の若者とのばかしあい毎日のように続けられ、飽きることを知らなかった。一日として「何かが起らない日」はない。私と彼らとは互いに刺激を与え、その快よさを味わっていた。私の与えた刺激は「彼らの一人一人にこの二年間のうちに、ひとつは思い出になり、いつの日にか思い出して語りあえるものと願い、それを若者との絆としようとしたり、いま、若者達はふりかえって、どんな思い出を胸に秘め暖めているだろうか。また、彼らは私にもずいぶん刺激を与えてくれた。その一つとして

二年生の九月のこと、女生徒の代表が「先生、ちょっと教室までいらして下さい。」という、私は何事かと思ってその女生徒にたずねたが、「黙って下さい。」と強い調子だがじょうだんめいた口調でいう。私は少しばかり、心がざわめいたが、また、私を驚かすことをやったのかと日ごろならされているので、「またか」という調子で教室へ入った。女生徒全員の視線が私に強く向ってきた。「今日は、今迄私達が話しあってきたことで、どうも、解らないことが六つありました。このことは先生に聞かなければ解

決しない問題ですから、みんなの前で答えていただきます。私は即座に気持がひきしまる思いがし、かつてこのようなことがあったことを思い起こしていた、私が教員生活をして三年目に最初の卒業生を担任した時に、このような状態に置かれたことがあった。私はとまどい、汗を流して答弁する二度目の苦しい経験であった。その時は二つの問題しか理解してもらえずに、陽が暮れてしまったが、このことは男生徒が球技大会を契機としてまとまることに刺激を与え、私の生徒に対するかまえにも刺激を与えてくれた。

いまでも、このことが心に残っているのは私が愛する若者達がかってなかったくらい、自由に伸び伸びと自分を表わし、各自がみんなのなかで生かされ、まとまるための起爆材になったからである。まさに、女生徒全員に我々男性は感謝しなければならぬ。彼らは現在でも、なお私に刺激を与える「こんなことをしたら、先生はどう反応するか」その時の顔を思い浮かべながら、楽しげに計画をねっている彼らは間断なく考え続けその判断力と実行力は他に類がない程独創的である。私は毎朝、何が起るか、期待と不安の入りに混じった複雑な気持をこらえて、彼らの前にたっていた。彼らの卒業によって、このような忍耐も強いられることはなくなり、人間性をむき出しにしたつきあいが出来ること楽しみにしている。

＊＊友情

響きのよい言葉だ

人間と人間を近づけるものだ

よく語りあった言葉だ

びんぼう人の財産

大切に、ふところに、暖めつつける

いつまでも＊＊

手紙

川 原 エイ子

私の手もとには、何通かの手紙が大切に保存されている。それは、何度も読みかえされた。その度に、私を励まし力づけてくれた手紙なのである。

その中の一通に、なめらかな達筆で、三枚の便箋にびっしり書きこまれたかつての教え子のものである。彼女は、スール・マウダレナの洗礼名をもつシヤトル聖パウロ修道女会の修練女である。

中学二年生の時教えた優秀な生徒だった。目はいつも大きく見開かれ、私の話す一語一語を吸いとってしまいかと思われた。なにより私を驚かせたのは、非常にデリケートな感受性だった。だから、話すことばを選び、すっかり緊張してしまふことが何度もあった。

彼女が「生きる」道を真剣に考え始めたのは中学三年のころと思われる。深刻な悩みに、毎日が辛い日々だったことは、手紙を手にして初めてわかったのである。中部高校へ進学して間もなく、通学することが辛いと相談うけたときは、やれるだけやってみることを約束して別れた。あの時の彼女の涙も、どんな思いをこめたものだったろう。それを往復しているのではない。手紙だけが、私と彼女の間に

今、再び読みかえして見る時、私はただ、手紙からあふれてくるものをしっかりと胸にたたみこみたい気持ち強いことを知った。神そして囲りの人々への感謝と、生きる道

をみいだした喜び。それが私を包む。

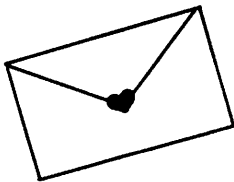
——先生はじめ御家族の皆様はお元気で過ごしてございましょう。御家族の皆様にはまだ一度もお目にかかっておりませんのに、そして先生にもわからなくなってしまうほどお会いしておりませんのに、いつも身近に感じております。先生には小さな事に対しての忠実さ責任感というところを、いろいろなチャンスにお教えたいただきました感謝いたしております。又、読書の楽しさ、小説の中にひそむ深い意味を、味わいながら読む楽しさ、重大さということもお教えたいただきました。

——修道生活をめざしていることを、母につづけることは苦痛でしたが、母はあのような人ですから喜んで送ってくれました。それだけに、今のこの生活をより大事に、ひたむきにキリストを知り・愛し、人々によく任えることができるように励むことが、母を喜ばせることだと思っております。

——神が私に与えて下さったこの道をひたむきに歩んでまいります。神をより深く愛することができるようになることが出来ますように——

彼女に無断でここにのせたことはわびなければならぬ。

彼女がようやく生き方をみつけた喜びを、私も心から祝福することによって許してもらわなければならない。



列車の中で

佐々木雄幸

昨年十一月、札幌へ研究会の關係で出張の途中の出来事だが、予定していた列車が季節急行で運休していたため、やむなく全車座席指定の特急列車に指定券が無いまま乗った。

偶然にも車輛は札幌の或る私立女子高校の修学旅行生徒の乗っている車であった。立ったまま本を読んでいると引率の先生が、「この座席を使って下さい」と声をかけてくれた、勿論私が教師である事をその先生は知らない、旅行の途中で身体具合の悪くなった生徒を何人か奈良の旅館に置いて来たとの事でその生徒の座席が空いたものらしい。礼を云いつつ腰を下すと隣席の人が「親切な、気のつく先生ですね」と話しかけてきた、聞いて見るとその人も苦小牧へ行くのだが、私と同様に指定券がなく座席をゆづって貰ったとの事である。互いに「助かりましたね」「静かな生徒ですね」と話しをしていたが未知同士なので話談も途切れ、やがて二人とも本を読みだした。列車が何処を走っているのかも知らずに時間が過ぎていった。ふと気がつくとな隣の人は読んでいた本をカバンに入れ「では失礼しますお元気で」と云って立ち上り、斜めうしろの先生の所で立止った。「大変助かりました。ありがとうございます。」「と礼を云いつつ「入口の所に立っている人に座ってもらってよいですか」とたずねている。そして先生の承諾を得たのであろう、列車が停車しその人が降りて行くと立っている

た人が小さな男の子を連れて近ずいてきて「よろしくお願ひします」と云って子供と共に座った。三人一緒に座っても、とくに窮屈ではない、子供は持っていた怪獣のオモチャの事を説明したり、テレビ番組のコマーシャル・ソングを小さな声で父親に聞かせている。このような出来事があったとも知らず、多くの生徒は食欲と会話を満足させていたようだ。私は札幌駅でのこの修学旅行団と別れたが、この列車の中で会った若い男の先生と、何処に住みどんな職業の人であったかもわからない二人の隣の座席に座った男の人の事を、列車の中を汚さず、静かであった生徒達の学校名と共に忘れないだろう。

一枚の賀状から

泉 良子

「二児のババになりました」美しく版面で色どられた賀状の隅に、そんな一言がそえられていました。茶色くなりかかった手元の写真の中の、あの赤いはっぺの少年と、多分、あぶなっかしい手つきで幼な子をだいているであろう現在の彼とは、どうしても一つの像に重ならず、やっぱりあの時にはいかんだ顔が、くっきりと浮んでくるのです。富山県永見市で開かれた国体のハンドボール大会に出場するため、長いシートに横たえながら窓の外をながめていたからだを、固いシートに横たえながら窓の外をながめていた。目的の駅が近づくにつれ、線路沿いに植えられた名も知らぬ赤い花に、ほっと、やすらぎを感じたのは、今か

ら十五年前のことです。婦人会を中心とした多勢の人達が打ちふる日の丸の旗の歓迎ぶりに圧倒されて、小さなホームに降り立った私達に、中学生らしい一団が、花東や千羽鶴をかがえて近づいてきました。他の誰よりもひととき背の高い――がまだ童顔のぬけきらない赤いホッペの少年が歩み出し、はにかみながら何やらボソボソといったかと思うと、大事そうにかがえていた花束を私の前に差し出しました。どこかで拍手がおこりました。

この土地で、このように大きな行事がもたれたのは勿論はじめてのこと。全市をあげて、おまつりさわぎ。中学生はいくつかの班に分かれて、各チーム毎の慰問団を編成していたようです。彼は、班のリーダーでした。

彼らは試合中の応援はもとより、度々、宿舍をおとずれてはまだ見ぬ北海道の話に目をかがやかせ、又、おらが国の自慢をするのでした。メンバーは十人位だったでしょう。おしゃべりでよく笑う大口さん。チヨッピリおすましの須藤さん。ひょうきん者の大介くん。早口のケン。メッコというあだ名の子。どんな振やかな中にも控えて目で、テレ屋のリーダー東海くん。等々……。

二回戦目、一点差で敗れ、いつもならくやし涙で明けたであろう翌日、彼らと、宿舍そばのお寺の境内で五人が輪になってもまだつなぎ切れない太い大きな銀杏の下で、おにごっこに興じ、無心にかえたあの日。

あの時の空の青と、落葉のこがね色とのコントラスト。又、いちよりの実独特のかおりとが、底ぬけに明るい彼らの笑顔と共に、今もなお、鮮やかによみがえってくるのです。

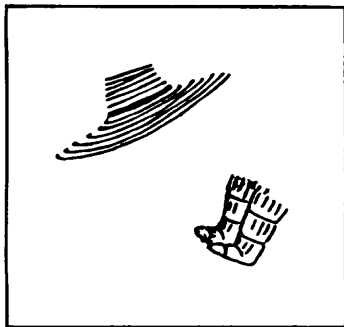
その後、彼らから長い便りや、秋には柿、冬にはわら細工の民芸品が送られてきたりもしましたが、今でも相変わらず届く年に一度の簡単な賀状から、楽しみと、なつかし

さをくみとるのです。

富山大学合格。無事卒業。社会への第一歩。ヨメさん貰った。簡単にかきそえられた、東海君の便りから月日の速い流れに、おどろかさされ、彼らとの出会いから十五年も経った過ぎた日の青春の一コマ一コマを顧みるのです。

過去何回かの遠征で、知りあった人達。どんな人であつたかとうてい思い出せないが、毎年、達筆な毛筆の賀状を送ってくれる水俣市の婦人。そろそろ名前と顔が一致しなくなつた秋田市の、当時、小学生のチビッ子達。

遠く去ってしまった思い出。だが、短かい出会いの中でふれあつた人々のぬくもりを、これからも、年に一度のたった一枚の賀状に拓して、大切にしていきたいと思う。



冬の日に想う

永谷嘉一

例年になく、雪のない日が続いた今年の天候だった。立春の声をきいても、まだまだストーブの恋しい日が続く。最近石油ストーブの普及で、煙突から黒煙の立ちのぼる景色も少なくなってきた。私にとっては、昔ながらのまきストーブのほんのりとした暖かみも忘れることができない。冬になると、どこか家にも、まきが山と積まれ、雪道をソリにつんだ、まき切り機が通り、ジーンとノコギリの音をひびかせ、生木の香りが鼻をうつ光景も昔がたりになりつつある。

私が子供時代を過した満洲へ今は東北地方というのか、では、北部ではマイナス三〇度以下になる極寒の地だが、日本ではあまり目にできない暖房があった。まずベチカ、私の知っているのには、原理は同じだが、次の二つある。室の壁がレンガで築いてあって、たき口から火をたくと、煙が壁の中を通ってその熱で壁が温まるといふ方式で、寒い外の遊びから帰ると、壁に背中を押しつつよく暖をとったものである。もう一つは、色々な社宅などによくあったが、いくつかのとなり合せた室の間に大きな円筒型のベチカを作り、表面は鉄板で覆ってあり、廊下にあるたき口から火をたくと、それが温まるという方式である。乾燥を防ぐために蒸発皿がとりつけてあった。中国人の家に遊びに行くと、オンドル（これは朝鮮語で中国語ではカンという）のがあった。これは大変すばらしいもので、床がベチカになっていえると思えばいい。一段高く床をつくり、コウリヤン（トウキビのように背が高くなる）葦を燃料にし、ゴザのようなアンペラを敷いて、ぽかぽかと暖かくなってくる。本当に身体のしんからあたたまるといふ感じである。ただ簡単に火力の調節ができないから日本では、不便な点もある。しかし、どのようにして寒さを防ぐかという知恵は、日本人はどれも遅れていようだ。特に北海道のように冬の長い地域では、もっと室内を快適に過ごせるような工夫を、こらさなければならぬ。きつと中国ではオンドルの上で一家団らんの日々を過しているだろう。

日中の国交も再開されたことだから、そのうち多くの日本人も、むこうに出かけることができるだろう。そしてベチカやオンドルのある家で、たがいに親善を深める日も遠くないと思う。ストーブにあたりながら、こんなことを考えている昨今である。

芙蓉の人

金田豊秀

一月三十一日。あと一月もすると高校入試、それが終われば、三年生は、待っていたように学校を離れていく。そんなことを思いながら、夜八時、テレビドラマ「芙蓉の人」を見た。

原作は新田次郎。「芙蓉」とは富士山のことであり、富

士山頂で氣象觀測に取り組んだ野中到、千代子夫妻の物語が「芙蓉の人」である。すでに筋は知っていたが、あらためて心打たれるものがあった。

時が明治で、冬の富士山頂ということであれば、その仕事のきびしさは、だれしもすぐに思いあたるところである。觀測の仕事に打ち込む到。夫を氣遣うあまり、娘の園子を実家の父母のもとに託して、富士山に登ってきた千代子。二人はいたわり合い、仕事を続けていくが、疲労の末、病いに倒れ、官命で下山することになる。その夫妻に知らされたものは、娘園子の死であった。

富士山頂の氣象觀測は、二人に何を与えたというのである。非情である。「もしも——」と口ずさむ千代子に到は言う。「もしもなんて、ないんだよ。ぼくらにとって、あるものは、あの山に取り組んだというだけなのだ。」と。生きることのきびしさ、むなしさ。私事のすべてを捨てて仕事に打ち込む姿の美しさ——それらが交錯して、「生きる」とはきびしいもののだよ。」——生徒の前で、時折その口にしてゐる自分を省みて冷や汗をかく思いだったが、それとともに、間もなく学校を離れていく三年生のこれらのことを思った。

「芙蓉の人」はあくまでも一つの生きかたに過ぎない。人の生きかたはみな違ふであらうけれど、それにしても、自分なりに悔いのない生きかたを、時どきは考えてみる必要があるであらう。



文苑

俳句

秋の山木もれ日あびてくり拾い

一A

吉川 久美子

柿の実を一口かじり本を読む

一A

重村 朱実

さよならの一言も言えず別れ道

一B

松田 久美子

赤トンボ手のばせども背が足らず

一B

佐々木 真司

さんぽ道朝もやの中びんの音

一C

若松 玲子

七夕のろうそくもらい声高し

一C

林 信平

日かげにぼつんと光る秋の雨

一C

杉山 治美

夏の夜花火と共に友は去る

一C

板倉 満

桜花心もはねる新学期

一D

国立 尊子

湯どうふをはしゃいで囲む子らの声

一D

富山 美枝子

こもれ日のトンネルくぐって帰る道

一D

嶋田 慎美

祖父の死にひときは泣くは母の顔

一E

福士 美子

大漁だ真紅な空に鳥の声

一E

桶田 幸嗣

朝もやのいも洗う人今はなき

一E

松井 伸一

夜ふけまでマフラー編むは誰が為に

一E

網森 公仁子

朝早くびんの音して牛乳来る

二A

対馬 大平

花火上がる耳をふさいで子どもたち

二A

小野田 光

夕焼けやよごれし川も美しく

二B

石山 伸朗

浴衣着て外に出てみる胸はずむ

二B

北川 真樹子

夏の夜あまりの暑さに字がかすむ

二C

井川 進

かき氷ひやと舌にさわるかな

二C

三宅 晶子

月光に光り輝くトタン屋根

二D

多田 貴文

先生の声のうすれし六時限

二D

岩山 美緒

雨上がリインコもようやく活気づく

二E

岡本 康二

シエルターも輝いている銀色に

二E

此島 真奈美



短歌

春来り庭に椿の花開き

遠くに山がかすんで見える

二 A 仁科 博志

藤棚のうす紫の花の下

幼稚園の子らちようちよの遊戯

二 A 奥村 幸恵

岩壁に一隻の船赤黒し

その船体静かに揺れる

二 B 大久保 哲之

冬の日に外から帰り家の中

薪のにおいに心なごむよ

二 B 山本 葉子

早朝の散歩に出たし春の朝

忍び足にて雨戸をあける

二 C 藤本 純子

昨晚の天気予報の当たらずに

待ちわびていた遠足ながる

二 C 沢川 抄子

クラウ終えるといっしょに顔洗う

五月の風のほおに触れるよ

二 D 長内 しのぶ

妹の修学旅行近づいて

母の注意もきかずにはしゃぐ

二 D 斎藤 郁

訪問日先生の来てかしこまり

いつもの自分かくして坐る

二 E 木村 ちはる

街灯のあかりをたどり歩きゆく

遠くに汽車の汽笛聞こえり

二 E 花摘 享



詩

一年

長距離

—A 斯波 昭宇

長距離を
力尽きるまで 走る

とちゅうで 足が重くあがらなくなる
口のつばがベトベトする
呼吸もみだれてくる
その場でぶったおれたくなる

でも 最後まで走ると
自分は

「最後まで走った」
という気持ちになった

大好きな人

—B 金谷 幸子

私の一番好きなのは森進一
二番目に好きな三度の飯より大好き

つまり私は森進一の大大大……ファン
サッチャんの好きなスター誰ー

森進一ー
そうすると
サッチャンでもの好きねエー

自分の悪口を言われるより頭にくる
森進一の悪口を言うやつは

みんな みんな
死んでしまえー

親友

—B 佐々木真可

私 本当にきらいなんです

あの人

自分から言い出したんです

顔あわすたびに言っていたんです

お見舞の手紙にだって

チャーンと書いてあったんです

だから

私もそう思っていました

それなのに

私がこのあいだ

「わっ」つておどかしたら

「バイバイ」つて言ったら

ポンとかたに手をかけたら

たったそれだけのことだったんです

あの人

いやな目をして見たんです

いやな顔して

ソッポを向いたんです

早足でにげていったんです

私

だからきらいなんです

「親友」つていう

言葉が……

猫

—C 吉岡 努

おまえは いいなあ

朝 ねむたければ ねててもいい

いきたくもない学校に

重い足をひきずつていなくてもいい

遊びたい時に遊んでもいい

要するに自由なんだ

おまえの世界には

規則などという

ばかげたものがないんだ

ほくらとは

まるでちがった世界に

おまえは生きているんだ

ほくも

そういうところに飛びこんで

自由な世界を

きままに遊んでみたい

学生運動

—D 青山田鶴子

価値観の対立

学生はお互いにのしりあっている

彼らは彼らの

力のなさに気づき

そして

仲間の一人を殺してしまった

学生葬が

行なわれ

学校には

いような空気がただよっているという

子をなくした母は

うろたえ叫んでいる

「私の息子を返してー」

ひれつな学生に

つめたい学校に

だれがよいのではない

だれが悪いのでもない

ただ

どうにかしないかぎり

どうにもならないのだ

ほったの傷

—D 国立 尊子

小学一年十一月二十四日のことだった

「ガラッ」戸をあけた

「ガッシャ」私に向ってたおれてきた

右のはつべに手をあてている

病院へかつぎこまれた

傷口に注射をされた

「キヤーッ」

台の上には 血でそまつたガーゼ

「ブツッ ブツッ」糸のきれる音

手術室からでた

頭から右ほつべにかけてほうたい

ねむくなり頭がぼやけてきた

かすかに見える両親 兄 姉 親せき

ばかりにされたこともあつた

「電車せんろ 電車せんろ」

「フランクンシュタイ……」

今だにぬつたあととはきえない

みんなは このことを聞きにくる

私の心をさつして聞いているのか

それとも きょうみで聞いているのか

この顔の傷あと

うちの時計

—E 島津 房世

うちの時計は

祖父が生れた時 買ったものだという

今は ぜんぜん役に立たない

「あんなのをあればいいのに」

と いつも言う

すると 祖父は一日中 おこっている

まるで嵐がきたようだ

またかねがなつた

私は 腹がたつてきた

祖父は きつとかねがなるたびに

おさないころを思い出すんだろう
わかっていても

「あんなものなげちゃえ」と
つい口から出てしまう

あ の こ ろ

一 B 浅市 悦朗

おーい みんな
どうして遊ばないの

小学校のころみたいにな
あんなに天気がいいのに

みんな

話をしようよ

おもしろ おかしく

おい みんな聞こえないのか

おれを忘れたのか

なんでもいい

みんな待ってくれ

あのころのことを忘れたのかい

ほら みんなあのころみたいに遊ぼう

みんなであのころみたいに

勉 強

一 C 吉野 雄一

勉強

おそろしいものを思い出す
なにか自分にのしかかってくる

悪魔のように

自分の体からはなれない

勉強は自分の人生を決めてしまう

勉強は自分の考えを変えてしまう

一つのがわからないと

続いて だんだんとわからなくなる

最後に 自分で夢にしていた高校も

入れなくなってしまう

今の時代は

勉強ができる方が勝

てきない方が負ける

そのために

この勉強という強敵に

ぼくたちは

勝たなければならないのだ

詩 二 年

昼 寝

二 A 小田野 光

春の日って

なんて眠りやすいんだろう

ガラスに反射した光

網戸からはいってくる風

なんともいえない

いい感じ

その中で

ウトウトと

眠りにはいつてしまう

カチ カチ

カチ カチ

時計が動いている

あれから何時間たった

のだろう

家の中がにぎやかに

なってきた

コンロの上で



やかんの中の湯が
あふれている

雨の中の蒸気機関車

二 B 鶴 唫 優

雨の中 蒸気機関車が立っている
目の前にはいくつもの電気機関車が
あざ笑うようにいる

煙突からはけむりも出ず

動輪と動輪はなわで結ばれ

ナンパーブレードからは

雨まじりに涙が出ていた

あのからだのさびから出る

思い出は

遠く昔 野山を走りぬけた

勇姿だるうか

今 蒸気機関車は

つかれを

雨に流してもらっているのだろうか



勇 気

二 C 丸 岡 元

今の世の中には

あまりにもうそが多すぎる

真実よりも多いうそ

そのため うそを正しいことと思ひ

まちがった行動をするもの

まちがっているとかかりつつ

どうしようもなくまちがいを

おかすもの

正しいことを行えない

いくじなしがいる

しかし

正しいことを行なおうとするものも

数少ないがいる

勇気あるもの

正しいことを正しいと言い

まちがいを正す勇気のあるもの

ぼくもそういう人たちの

仲間入りをしたい

山よりも高く 海よりも深い

ほんとうの勇気をもちたい

すばらしい

二 D 鈴 木 隆 彦

見た 空を

見た 真赤な色を

見た 白雲を

見た ほんとうの青

空は 空はほんとうにすばらしい！

空は 空はほんとうに不思議だ！

どこを見ても切れぬがない

どこを見ても やっぱり空だ

海よりも青い

陸よりも広い

やっぱりすばらしい

手をのびし 背のびしても

おもいつきり声を出しても

空には届かない

やっぱりすばらしい

どこにいても

なにをやっても

昔から空は

みんなを見ている
やつぱりすばらしい
やつぱり不思議だ

自分の心

二五 重村 弘子

私をだれもわからうとしない
ただ私の表面しか
みてくれない
それに

自分も自分をわからうとしない
自分のからにと同じこもり
自分を出すのを
惜しんでいる
いいや 惜しんでいない
ただ出しかたを
知らないだけだ



詩三年

あくびのオト

守 克教

科学者に言わせると
血液中の二酸化炭素がふえるために起
きる一種の深呼吸 —
あくび

眠いからといっていつも出るわけでは
ないのに
そのあくびが きょうはよく出る
遊んでも勉強しても 何をしてもつま
らない
自分の心が満たされない空虚感からか
あくびはおさまらない

あくびが出る
あくびの嘆息 —

今はひとまず寝ることにしてしう
おやすみなさい —

無題

宮本 隆平

耳をすましたって美しい歌なんて聞こ
えない

人間は不平等なものです
ぼくらがいくら叫ぼうと
平等になんてなりません
もし平等だと言う人がいたら
みんなに分けて下さい
君の命を —
もし神様がいるなら
みんなに分けて下さい
あなたの力を —

ぼくら平民がいくら叫んでも
ぼくはぼく 君は君なのです

朝

南部 貴昭

部屋の重苦しい雰囲気は咽を詰まらせ
て目覚める
白鳥の湖の時計が後から奏でる

今朝のガラスの外は

なんとなく昨日までとはちがう

庭の小さな草々は

人の住みつかない館の白いじゅうたんでかくされている。

なにげなく出した手が

冷気にかからかわれ 毛ばだつてくる

足は体温でわずかながらほてっている

昨日と今日との間で何が起こったのだ

ろう ぼくが眠っている間に

季節の変かり目は

白いくっきりとしたラインで分けられていた

白鳥の湖は止まり

ぼくは床から脱け出る

いちようさん

田中 成実

いちようさん

あなたは寒がりね

暑い夏のさ中をマフラーなんかまいて
あなたは私たちが泳いでいるのをそつ

と見おろしていました

「寒そうね わたしのマフラーを貸しまししょうか」

あなたは時どき 私たちにその声をかけていました

あなたがせっかく編んだマフラーをほ

どいてしまったのは

秋の終りの いやな北風

あなたは裸木となつて

私たちにもう声をかけることはなくなりました

つまらない冬

目に涙さえおぼえてあなたを見るととき

も

あなたの姿に見うけるはずのだいじな

マフラーの切れはしは

どこにもさがしあてることができません

寒い 寒い 冬

オーバーを着 マフラーをまきつける

私たちの目に

あなたはどんなに寒く映ることでしょう

あなたがあたたまるように

毛糸で長い長いマフラーを編んであげ

まししょうか

でも

いちようさん

あなたはもう自力で始めているのですね
大きな門のついているお家の隅で

新しいマフラーづくりの身仕度を

思い出しました

阿部 弘子

エブロンをつけ スカーフをかぶったら

だれかが言いました

「お母さんに似ているね」

思い出しました

今よりずっと若かった母を

わたしの幼なかつたあのころを

いつも縫い物か編み物をしていた母

ちらしずしのしいたけは

「たぬきの毛なの」と言つて 食べな

かつたわたし

足の悪いひいおばあさんを

いっしょうけん命に世話していた母
「よそのおうちでご飯食べたらだめなの」
と言って お弁当を開けなかったわたし

思い出しました

ちらしずしは

今日の調理実習の逸品なのです

小さなシンデレラと雪

土橋早知子

灰色のじゅうたんを敷きつめた その
中から小さな雪がこぼれ落ちるとき
地上が白くそまるのを待ちきれなくな
って

外にとび出す少女はいないでしょう
軽く波うつ黒髪の
赤いほおをした元気な顔の

その娘の髪に
その娘のほおに 白い小さな粉雪がそ
とふれるとき
思わず少女は考えるのです
わたしはお姫さまかしら? ……

そして すぐに答えます
そうよ わたしはお姫さまだわ きのう
遊園地に赤い長ぐつの片一方を忘れた
わたしはシンデレラなの

白い紙ふぶきの舞り中を
少女は軽やかに歩きます
片一方には赤い長ぐつ
片一方には大きなげたをはいた 少女の
楽しげなうしろ姿は
シンデレラの幼いころにそっくりです

白くそまつていく緑や赤の屋根々々や
自分の前に敷かれる純白のじゅうたん
に目を見はりながら
シンデレラは考えます

^{まつお}真青な海に落ちる雪たちは
かぎりなく広い海の青さにそまつてし
まうかしら それとも海は
雪のしとやかさに負けて白くそまつて
しまうかしら
魚たちは 雪のしとやかさに やさし
さに わたしもあなたになりたいと
波の間でささやくかしら

そして それから考えます

わたしの残した長ぐつも
はじめて見る雪の虹色に輝く光を見て
自分のコロサの輝きも忘れ
白くそまつてしまいたいと願うのかしら
それとも あたにかい長ぐつの炎は
淡い雪を寄せつけず
いつまでもその赤さを保っているのか
しら

やがて 小さなシンデレラの影は
白いペンキの中に消えていきます

だれかの朝露にも似た笑い声とともに
灰色に敷きつめられたじゅうたんはと
りはらわれ

わたあめの間からは まばゆい光の太
陽が顔を出します

その太陽の下で
楽しそうに笑いながら駆けていく少女
が見えます
片手に大きなげたを持って
右足には赤い長ぐつ 左足には白くそ
まつた長ぐつをはいた —

随想

三年 今井直人

秋になると、どうも寂しくてしょうがないことがよくあるものだ。ことしはその傾向がとくに強い。時が過ぎれば当然のごとくやってくる例の実験ということのせいであろう。今さらああだ、こうだと言っても許されないし、別段やることはあるのだからいいではないかと思うが——精神的負担が、寂しくなる原因であろう。

人の気持は満足されることはないし、またあつたとしても一時的なものに過ぎない。試験が終わった直後は、終わったという安心感が先に来るが、すぐ次に浮かぶのは、また来る試験のことである。一時的満足に長い月日と頭を使うことは、やはり、人間の宿命なのであろう。そうすると、人は自分のことしか考えられなくなるし、やりたいことも自ら手放すことになる。やりたいことはやるとしてもそれは自分なりに処理する方法のみが残される。

寂しさにはまだ原因がある。

季節の変わりめ、とくに秋から冬にかけては、今まで活発に咲き乱れていた花々も散り、草はしなび、風も草をかきわけて吹きまくる。芸術家に言わせれば素晴らしいかも知れないその感じも、ぼくにっては、まさに寂寥の感である。——それが過ぎれば、冬である。寒さは厳しいが、冬の持つ白さが、その寂しさをおおってくれるような気がしないでもない。自然のなりゆきにまかせて心持ちを変えるようなことでは意

気地がないように思われるが、そう思わぬ人は、かなりの余裕と感覚の持ち主のように思われる。そして春。季節的な春と気持の春の訪れである。

いまぼくたちは、この春に向かって、青春の一日を生きている。青春の日を犠牲にというのではない、未来の一日のために——そう思いたったとき、泣き事は言っていられないと、一種の悟りみたいものをおぼえることになる。

つまるところ、目標がはっきりしていればいいのだ。目標がはっきりしていれば、そこにぼくたちの気持と行動は必然的に決まってくるのだから——寂しくても、ぼくは誠実に生きたいと思う。

——弁論・主張——

生きるささえになるもの

三年 山本 孝志

人間、生きる上でなくてはならないものは何だろう。そう考えた時、ぼくの頭の中には、いろいろなものが無数に浮かんできます。まず、肉体、金銭、友だち、学問、そして世にいう精神力。これらはすべて、ぼくたちにとって必要なものばかりですが、さらに、生きる支えになるものとなったら何でしょう。

ぼくはここで、わが家の父のことについて話してみたいと思います。

わが家の柱は、いうまでもなく父です。父はごく平凡です

が、自分の仕事に大きな誇りを持っています。

十九歳という若さで、全身リ्यूマチという病氣にかかり医者に見はなされた父は、病床であらゆる宗教の本を読みあさったといえます。そして、キリスト教と仏教の二つの本が父の心の大きなよりどころになったといえます。それらの本を読んだだけでは、もちろんリ्यूマチがなおるはずはありませんが、これらの本が、病氣の父にとって生きるための一つの支えになったことは、確かでありましょう。

登別で静養中の父は、ある時、ひとりのハリ灸師に出会いました。やがてそのハリ灸師の弟子になった父は、ハリ灸を学び、一回でテストに合格しました。そして、ハリ灸で自分の体を固め、自分自身の手で、足で、自活の道をたどることができるようになったのです。

病氣にうちかつた父は、ハリ灸の仕事を一生涯の生活の支えとして、今は楽しく過ごしています。しかし、父がこれまでになれたかげには、父自身の涙ぐましい忍耐力、努力があったのだと思います。病氣にうちかつた果てでもない大きな力、それこそ父の生きるための力であつたのだと思います。

父はまた、「弱きを助け、強きをくじく」といった正義感と、他人をあたたく包容するやさしさとを持つた人でもあります。何かがあると、父の所へ相談にやってくる人々がいいますが、父には生まれつき、まとめ役としての才能があるのかもしれないがそれと同時に、ぼくは、日頃、父がぼくに言つて聞かせることばのことを考えさせられます。

「人間は、死ぬ前に天国に行った夢を見るといふ。その夢

が生涯の中でいちばん美しい夢である。」「人間は、いつどんな時にも生きがいを持たなければいけない。生きがいを持たない人間は、ただの動物である。」

この二つのことばの中にこそ父の人生観があり、その人生観のもとでこそ、かよい肉体の父が、強く生きてこられたのだと思います。自力で生きることを体得した父にとっては自分と同じ苦しい思いをする人々にやさしい愛情をそそぎ、ともに生きることが生きがいとなつたのだと思います。そして、父の人生観に基づく生活ゆえに、貧しくとも、わが家は親と子と、明るく、固く結ばれているのです。

ぼくたち人間の生きる支えになるものは何だろう。ぼくは父の生き方の中にその答を見いだせるような気がするのです。一言にして言えば、生命への絶対の信頼であります。どんな苦しみや悩みにあおうとも絶望しない強い信念であります。恵まれた生命を大切にし、夢を持ち、生きがいを感じて生きる心がまえたと思います。父が他人に対してあたたかいのはなぜか。それは病氣の克服と生活の建設の闘いの中で、自分も他人も含めた生命の尊さを実感し、それをいとおしむことを知つたからだだと思います。

人生というもののによりやく目を開きかけたぼくたちですが、生きるということ、生きる支えとすべきものは何かを、じっくり自分の胸に問うてみようではありませんか。



讀書感想文

『牀』について

三年 土 橋 早知子

元来漢字はきらいであり、まして漢文など考えるだけで身震いのする私なのだが、父があまり面白そうに読んでいたので、つい興味を注がれ、そばにあった岩波書店発行の唐詩選(下)という本をめくってみたとき、一瞬目にはいつたのがこの文章である。

牀前看月光

疑是地上霜

举頭望山月

低頭思故郷

これは李白の有名な、静夜思という詩である。通釈まで読んでみて、その情景を想像したとき、なぜ寝台の前の床を照らす月光を地上にありた霜だと思ったのかは少し疑問に思ったが気にもしなかった。

それから二、三日後、ある本をさがしていた私は、『間違いだらけの漢文』(張明澄著)という本をみつけ、なにげなしにのぞいてみたら、その中に、やはり李白の長干行という詩があった。

妾髮初覆額

折花門前劇

郎騎竹馬來

妾の髪の初めて額を覆い
花を折りて門前に劇れしとき
郎は竹馬に騎りてきたり

邊牀弄青梅

床を遊りて青梅を弄いたまいぬ

……(中略)……

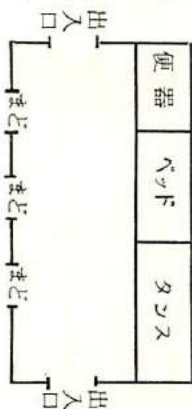
……(中略)……

直至長風沙

直ちに長風沙に至らん

というような詩である。これは、夫を行商に出した幼な妻の夫を思う詩である。一応通釈を読んでみたが、別におかしいと思うところもない。そのまま読み続けたら、この詩のまじがいは、岩波新書「新唐詩選」に出ている長干行の四行目、「邊牀弄青梅」の通釈にあると書いてある。半信半疑で私はその本をさがし、長干行の訳を調べた。それは、こうである……牀のぐるりをぐるぐるとまわりながら、手にぶら下げた青梅の実をひらひらさせながら、わたしにお見せになる……まず、「牀」というのは前の静夜思のときも寝台とあり、「ぐるぐるとまわりながら」にしても「遊りて」に對しているので問題はなし、そのあとについても別に誤りらしきものはみつけれなかった。しかし「間違いだらけ……」の方を讀んでいくと、「牀」をベッドとするのは誤りであると書いてある。

その本によると、中国では寝室で遊ぶことはきつく禁じられ、また狭く、遊んでいられないというのである。それに、図によるとたいいていの家の寝台は壁につけられてあり、頭の方にはタンス、足の方には便器があり、むやみに寝台のまわりをはしろう



ものなら、タンスに頭をぶつけるか、さもなくば、便器を倒してその辺を黄金にそめるしかないのである。念のため、それに紹介してあるとおり、角川書店「完訳・聊齋志異」第六巻八十七ページを見た。すると、そこには中国の寝台の口絵があり、それから、この本に書いてあることは正しいと思つた。

それでは、牀とはどういう意味なのだろうか。「間違いだらけ」では、中華民国でいちばん権威のあるといわれる、辞海という辞書を、調べている。すると、牀については、

- (1) 寝台、床、ベッド
- (2) たな

- (3) 井戸をかこむための手すり

と書かれてある。まず(1)はさきほど述べたとおり誤りであり、(2)にしても、たなのまわりをぐるぐるまわるなどという訳は変だし、これを使った学者はいないため、これもあてはまらないと思える。だが(3)についてはどうだろう。中国のこどもたちは、井戸のまわりで遊ぶことを好み、そのまわりでならぐるぐるはしりまわっても、へんではない。だから私は、この本にも書いてある通り、この場合の「牀」は、井戸の手すりとするのがいちばん適当だと思ふ。

ところで、この「牀」で思い出したのが静夜思である。この原稿の一枚目に書いてあるが、そのいちばんはじめに「牀前」とある。その本(唐詩選)には人牀前とは、寝台の前であるVと書かれてある。再び通釈も読んでみて、いちばん始めと同じ疑問をもった。やはり、どう考えてもピンとこな

いのである。別な通釈を捜してみた。学燈社発行「漢詩」という本である。これにはもつと私の疑問があかるみに出た。その通釈とはこうである。

寝室の臥床のあたりに月の光が明かるくさしこんでくる。あまりあかるくみえたので地上に霜がおりたと思つた。……まどからさしこんでくる月の光を見たとしたのなら、なぜ「地上に」がつくのかということである。また、なぜまどわく内という限られた場所に、ぽっかりとさしこむ月光を見ただけで、霜と錯覚したのか、少なくとも光のとどかないところでは暗やみである。

再び「唐詩選」にもどつて、通釈の先をすすんでみる。

頭をあげて山月を望み
頭を低れて故郷を思ふ

そこでまた疑問に思つたことは、「頭を挙げて山月を望み」である。寝室から月光を見ているとして、頭を挙げたのなら、天井か、天井に近い壁くらいしか見えないはずである。いや、暗くてみえなかつたかもしれない。だが、いずれにせよ、とうてい山月はみることとはできないことになる。はたして、まどから山月を望むことが「頭を挙げて」にがい当するかどうかである。少なくとも、作者が外にいて、自分自身が月光をあびていなければ頭を挙げて山月を望むことにはならないのではないだろうか。

そこで私が考えたのは、「牀」ということばである。さきほど、長干行では、井戸の手すりと訳すのが適当だと書いたが、今度はそれを静夜思にあてはめてみようと思つたのであ

る。すると、こういうふうになる。

井戸ばたの手すりの前で、あたりをてらす月光を見ると、あまりに白いその輝きに、地上に霜がおりたと思った。

こうすると、頭を挙げて：「以下もスムーズに続くのである。いずれにせよ、これは、静かな夜に故郷を思いうかべた詩である。静かで月の光の美しいおだやかな夜に、遠くの山の上に出てゐる月を見るたびに、故郷のことがしみじみと思ひ出され、かんがいにつける李白の気持ちはよくわかるのである。しかし、その時、「牀」を、井戸ばたの手すりと考えるところと情景ははつきりとし、そして、もっと美しい詩になるのではないだろうか。

私は、この「牀」ということばについて考え、いろいろな本を調べるうちに、ここには記してないけれど、現在の漢文の通釈には、ずいぶんまちがいが多いことを知った。そして同時に、中国文学は、実にむずかしいものだということも知った。正しい通釈をするには、その国の風俗、習慣をもわきまえないならぬのである。

私は、自分なりに考えた静夜思の意味が、正しいか否かはわからない。しかし、こういうふうと考えていくことによつてより外国文学に接触していくことができるのだと思う。

*使った本

「間違いだらけの漢文」

張明澄著

久保書店発行

「完訳・聊齋志異」

「漢詩」

阿部吉雄著

学燈社発行

「唐詩選」

前野直彬注解

岩波書店発行

「新唐詩選」

吉川幸次郎・三好達治著

岩波書店発行

母を読んで

一年 国立尊子

今の世の中は、このゴークイの「母」にも描かれているように支配するものと支配されるもの二つに分かれている。自分の利益のためならば何人の人を犠牲にしても誰かの上に立とうとする。それが何回もくり返えされしまいいは自分もその犠牲となる、ほんとうにバカガタ人生だと私はつくづく感じた。

主人公の母や、社会主義者の息子パーヴェルそして、同志達とは万人の幸福と利益のために労働者にとつて人生とは愚痴をこぼすことばかりでつらいのか、その理由を説明し、新しい道を開いた。同志達の、意見の討論、行動、実行は、影ながら母の大活躍があつたからだと思う。その中には、パーヴェルや同志達の不安や悩み事を、暖かい志しや、察し方で心がやわらぎそれが勝利の道をひらいたのではないかと思う。工場にパンフレットを持ちこむ危険な仕事を自らやりとげた。した。これには勇気と行動力がなければできなかったろう。こつそり勉強にはげむ母、そのきつかけを作つたアンドレイは特に彼女を母のように慕つていた。メーデーの日にはパーヴェルが先頭に立つて指揮をしたが、デモを襲う軍隊のため息子と同志達数人がつかまつてしまった。母は全身の力をふりしきつて叫び労働者の権利を強調し真実と正義にかつた別の生活をめざし、みんなの望んでいると彼女はやさしく力をこめて同志やパーヴェル達が正義を生み出し、正義のために生命を投げだしているときいた。彼女は力つきてよろめいたが、その結果は群衆の上に高いふるえ声が舞い上

がつた。母のくじけない心がみんなを説得したのであらう。メーデー事件の裁判にはパーヴェルは、思いきつて誰れにもまどわされずに信念を述べ社会主義者は偉大な統一を造り出そうとしそれは必ず実現すると力強く語った。判決は流刑であつた。これで母と息子は別々に暮らさなければならなくなつてしまつた。とても、つらく悲しい気持ちがかみあげてきたことと思う。失望も母におそつてきたが、てきばきとした行動が私はとても感心し、見ならつていきたいと思う。息子の演説を印刷しそれをモスクワまで運ぶ、又も危険なことをやろうとした。フラットホームに近いベンチでこしをおろしていたら数人の男達が母をとり囲んでいた。不安に落ち入り「逃げようか」という言葉が心にこびりついてしまつたが息子の名誉をきずつてはいけなくと悟りすっかり強氣になつた。私はこの母に声援を送りたいとなつてしまつた。今度は泥棒だというぬれぎぬを着せられ母は胸一ぱいの声をはりあげ息子の真実を言つた。人々は白髪の婦人にひきつけられ今や結集してまゝまつていつた。母の目をふさぎ血の味が口の中にあふれたが人々の叫び声が元気づけていつた。苦痛に耐え目は光を消さず「正義は消えない。」と彼等にいつた。私は母の肉体がほろびてもその正義に対する血はほろびないと思う。

『落窪物語』を読んで

二年 富田起 著

この物語のあらすじは、まゝ母にいじめられてゐる落窪姫を、左近の少將と、二人に使へるものとで助け出し、まゝ母に復讐し、最後にはみんなを幸福にするという物語です。私はこの本を読んで、シンデレラ姫に似ているなと思ひ

ました。

落窪物語の特色は、現実的なところだと思ひます。まゝ子いじめの奥方などは、実に人間のどつちかと思ひます。自分、自分のことよりも他の人のこと、自分がどんなにいじめられても、すこしもうらんだりしないといふような姫ですが私は自分の子どものほうをかわいがり、ついつい落窪姫のやることがしゃやくにさわつてしまふ奥方のほうを、人間のだと思ひます。けれども奥方のほうは、なにかからなまていいと言つてゐるのではありません。姫に床の低く落ちくぼんだ所を寝所として与え、住まわせ、「落窪の君」などとあだなをつけたら、姫はすばらしく縫いものがじょうずで、姫よりじょうずに縫える人がいないくらいなのに、そんなことは口にも出さずに、「おまえのやつてゐることは、ほんとにいいことだよ。とくべつ器量のいいといえない女は、じみなことをせいぜいまじめに習つておくれがいいよ。」などと姫をけなしやすむもまもなく縫わせたりするところは本当に悪魔のやうです。それに姫の父君は、まさか奥方が、かげでそんなことをしてゐるとは夢にも思ひません。だから奥方は自分の思ひまゝに姫をいじめてゐるわけです。

私は本当に姫の父が、歯がゆくてなりませんでした。そして姫のたつた一つのなぐさめといつたら、姫に仕へてゐる「後見」(うしろみ)という、召し使の存在だけでした。けれども、奥方の子ども三の君が結婚して、後見を召し使いたいと言つて、むりにつれていきまして。そして後見の名前を阿漕とかえて姫に近づけないようにしました。けれども阿漕は、なかなか姫思いで、ひまをみつめては、姫のことをなぐさめにくたりしてゐました。奥方にみつければ、ひどい罰をうけることはわかつてゐるのに……。自分を犠牲にしてまでつくす阿漕がいて、姫は、その点では本当に幸せだと思ひました。

「イワン・デニーソビッチの一日」を読む

漕は二百歳まで生きたのは、きつとやさしい心の持ち主で、人のためにつくす心を忘れていなかったからでしょう。私はこの物語を読んで、それぞれの人に、いろいろなことをおそわりました。

それらの教えを今後の生活に役立て、もつとこのような昔の人の生活や生きかたを書いた物語を読みたいと思います。

いいぞ、読めよと言われて、じゃ貸せと言つて読んだ本。今では、その友達に感謝したい気持ちになつてゐる。読んでみると言われて読む本は、たいいていおもしろいとは思わなけれど、今回のこの本は、例外中の例外だろう。なにしろ、このままずっと貸りていたいと思つてゐるのだから。

ソルジェニーツィン 木村浩訳。これだけでいいのだが、ノーベル文学賞受賞作品という付録がつく。しかし、並べられた活字を読むのに、ノーベル賞なんて必要だろうか。そういえば、彼も、ノーベル賞とつた作品だぞとは言わなかつた。一息に読むにはもつたない中編。リラックヌして読まなければ、絶対泣きだしてしまふ小説。

ヒューマニズムの立場で書かれてゐる文体だが、それが本當に読者にヒューマニズムの精神からの感動を与えてゐるだろう。ちがう。これをもし、ヘミングウェイが書いていたら、涙のはけ口をへたな想像に見つけることができたろうに。つまり、冷酷な表現法じゃなく、人間的すぎるそれだから、読む者は泣いてしまふ。ついに自分は読んでしまつたといううしろめたさに。それで、人間尊重というテーマだから

そのうちに、阿漕の夫のおかあさんの、つとめてゐる所の少将が姫の身の上に同情し、姫をなんとかして奥方の手からくい出そうとします。毎日のように姫の所にかよひました。姫は、そのことが奥方に知れたらどうしよう。とか自分はなにも持ち物もないし、着ている物もボロボロだから、少将様がいらつしやると、とてもはずかしい、などといつて泣いてばかりいます。そんなことを言つてゐるより少将が来たら、いっしょに、これから自分はどうすればいいのか、どうすれば幸福になれるのか、などということを考える方が、合理的だし、自分のためにもずつといいと思うのです。けれども平安時代の女性にそれを望むのは、無理なことだと、私は本を読んで思ひました。この時代の女性の生活は、宮中に仕えたりどこかの貴族に仕えたりして、一生を終る、というふうな今ではとても考えのつかないことがあたりまゝだつた時代です。それに、いつたん仕えたからには、主人の言いつけはよく守らなければならぬし、自分よりも主人の方が大事で、自分を犠牲にしてつくすのがあたりまゝで、今主人の言うことは絶対に、自分のことより主人のことを考えろと言つても無理な話で、こんなことを今言つたら、使われてゐる人々はみんなにげていつてしまひ、主人はきかぬあつかひされてしまふかもしれない。まして奥方にいつもいじめられてゐる、姫に奥方と戦え自分のことだけを考へて強く生きるんだ、と言つても無理なことです。

でも私は、やはりただ泣いてばかりゐる姫よりも、どんないろいろなことを、実行して行く少将の方がずっと好きです。物語は最後に、姫は、奥方の所から脱出し、少将といっしょにくらし、幸せになり、奥方も最後に改心するのですが、私は奥方をもつとこらしめてやつた方が、奥方のためにも、もつとよかつたのではないか、と思ひます。

少将は、とても気持ちよく出世し、姫に最後までつくした阿

よけい悲しくなる。ある人が生物の生育が不可能な洞窟に迷いこみ、さまよっているのを偶然誰かに助けられる。その時やせこけた姿で彼は、こんな今までががんばったんでしょと、できるだけ威勢よくいう。そっくりだ。一步踏みだせば深い谷で、その一步を踏みだしたくないから、その谷底を見たくないから、できるだけリラックスして楽天的に読んだほくた。一生かかってもその谷の一番底を見る勇氣は得られないのかもしれない。

人間の生活とは思えない生活。一皿の粥でも多く食べればそれで満足で、一本でもタバコを吸うとそれで満ち足りる生活。目をおおうばかりの悲惨さ。どんな形容詞でもその役目はたせないう。そんな中でブロック積み。主人公の性格にもよるのだからけど、これほどしいたげられた生活をしているのに、汗までかいて仕事に熱中できるだろうか。この作品中、主人公が最も人間らしい動作をするのがこのブロックを積むという作業の時だ。もうどうでもいい。今だけが大事だという中で、人間らしい、ねばりを持てた主人公だ。月が四週間に一度神様につくられてもいいじゃないか。落ちた星のかわりに月が星になってもいいじゃないか。月が欠けるのは地球の陰にはいるからだとか考えなくてもおまえはちゃんと生活できるじゃないか。と、ごく自然に、彼に同情してしまっただけで、人に同情できるほど健全な精神を持っているわけでもないのだが。人間の生活とは思えない生活をして、それでも熱い汗を流すには、最低限の必要な事を知っていればいいのだろうか。

こんな生活だから神様がでてくるのかはわからないけど、寝る前に同僚と議論した事は確かだ。

『もしあんたが信仰をお持ちになれば、山にむかって動け、彼ら、』でたらめな話はやめなよ。山が動くなんて、見たこ

ともねえな」と答えている。おまえの言うことは、世間では通用するだろうけど、このラ・ゲルでは通用しないとしてもいつて存在する神は無意味だ。でも、そんな無意味な神でも、自分だけに都合のいい神でいてほしいと彼は心の中で思う。これほどまでにすさんだ心は、酷寒（マロース）と、看守と、刑期のせいだけだろうか。

関係ない事だけど、これにはよくタバコを吸うところがあるので。

「ふーッ／＼けわりは飢えた体ぜんたいにひろがり、爪先にも、頭の中にまでじーんとしみたおった」とある。この表現をそのまま信じていいのなら、肺ガンなんてどうでもいいだろうと思えてくる。酷寒（マロース）の中でタバコはそれほどおいしいものなのか。

実感の全くない環境を舞台にした小説なのに、まるでその場にいたようにまわりがよくわかるのは作者のうまさだろう。それにしても、一言でこの感想をのべなさいと言われても、それは無理だ。いろいろ考えればきりがなし、ちよつと考えただけでは、何も気づかなかつたろう。でも、何も気づかないで読み捨ててしまった方がよかつたかもしれない。いやな事を考えてしまった。次におわりの方の最もなされない部分あげておく。

「シェーホフは黙って天井を見つめていた。もう自分でも自由の身を望んでいるのかどうか、分からなかった」



源義経を読んで

一年 重村 朱 美

源義経は、悲劇の武将である。と著者は語った。私もそう思う。義経の兄頼朝は、奥州一円を、わがものにと願う欲があり、藤原泰衡をだまし義経をなきものにしようとした。自分が天下をとると、こゝも変わるものだらうか。平家をたおすまでは、仲のよい兄弟だったの。

義経は、母思いで、母からのおくり物の太刀と笛をだいいじにしていた。義経の性格は、母がいわれたように強いばかりじゃあなく、つねにやさしい心を持っていて下さいといったことと、まったく同じ性格である。そんなようなことから義経が母を慕うようすがわかる。義経が、そんな性格だからこそ、家来もたくさんいるし、みんなから慕われるのだらう。義経は、何回か命を失うところだった。そのことは、家来にとつた一番の判断で助けられている。そのことは、家来にとつた一番のしあわせだという。今の世の中のように、見て見ぬふりをし、自分は自分で他人のことは、どうでもいいと思っている。昔と今の、大きな大きな違いである。だが、氣にくわれない人がいたら、かたづけしから、たとえ親でも、子ども、兄弟でも、切ってしまう、さんくなくことがあるが、此の頃はそういうことが新聞にのることが、多くなってきた。そういう人たちは、自分のために、さんくなくことを、かっけてに、平気でやったということは、やっぱり自分さえよければどうでもいいと思う気持ちは、あるからだと思つた。義経は、人との結びつきは、不思議であると言つた。五条

の橋で、あつた弁慶が生涯自分の味方になつて、平家と戦うことにならうと、想像もしていないことだらう。だから義経のいったとおり、人と人との結びつきは、ほんとに不思議だ。その不思議なことが、義経に対して有利だったと思つた。源氏にだつて、悪いところはある。でも私は、源氏の方が好きである。だが、義経がいなくなつてからの源氏は、きらいである。

家族のみんなは、義経は、「かわいそうだ。」という。私も、かわいそうだと思つた。義経はやるべきことをやり、幸福であらう。だが、死ぬまえに、もう一回、母の常盤にあつていれば、もつと、どんなに幸であつただらうか。義経は、母思いだから、そのことだけが気がかりだと思つた。

那須与一は、義経にたのまれ、何十もの先の扇の的に、矢をあてることになつた。もし、与一が、扇の的をいれることができなかったとしたら、切腹ぐらいは、しなくてはならなかつたと思つた。それだから与一のうでまえは、相当なものだと思つた。こんなことで、源氏の鼻は高々に上がっただらう。そして、与一も「ホッ」とできたにちがいない。与一のうではいいが、それにたえきれような精神的な面も、そうとう強いと思つた。

義経の最後は、あまりにもかわいそうで、さびしすぎる。大恩人である、藤原秀衡の子泰衡にやられてしまふ。義経にとつて、どれだけのショックを、受けたかしのれない。いや、一番悪い奴が頼朝である。義経は、最後まで藤原勢は、敵ではないと信じていたのに。かわいそうな義経だ。もし、好き絶対源義経をあげるだらう。



47年度修学旅行日程とスナップ

第1日 函館^{汽車}洞爺^{バス}展望台^{バス}洞爺湖^{遊覧船}森林博物館
車中、よく食べよく オーノ ワンタフル ロマンと きれいな前庭
さわいだものサ 神秘をひめた湖の美しさ、の 芝生が

遊覧船 旅 館

印象的 ・よく話し、よく遊び、よく眠らない。ハテ？

第2日 旅館^{バス}昭和山^{バス}湖畔一周^{ロープウェイ}有珠岳^{ロープウェイ・バス}

男性的な荒々しい山肌 ガイドさんの歌上手 一望千里、すばらしい眺
この山、生きている、ノ だった。子守歌のよ めスケッチに一段と熱が
うで、つい眠ったっけ 入る

スポーツセンター^{バス} 旅 館 —— 外出

学級対抗バレーボール、
洞爺に遠征した気分

おみやげに何を買うか？
迷っているうちに門限、
ソレ急げ…宿までかけ足。

第3日 旅館^{バス}登別^{バス}地獄谷^{ロープウェイ}クマ牧場^{ロープウェイ・バス}旅

イオウのにおいが クマってなぜウロウロ
鼻をさす。ここが 歩くのか？ 落ちつきが
地獄の一丁目 なくて誰かとソックリ。

館 —— キャンプファイヤー

もえあがる炎、その光に映えて、〇〇さんが美しく見えました。
歌いました。踊りました。フラボー、ノ 修学旅行、ノ

第4日 旅館（登別）^{バス}室蘭^{バス}製鉄所見学^{バス}青少年

バスの中居眠り続出、旅 鉄はこうにして出来る
館でさわいだ為。 私は判りませんでした。(眠ってたの)

科学館^{バス}水族館^{バス}東室蘭^{汽車}函 館

こんなの函館にも
あればいいのに。
プラネタリウムで誰
かさんのイビキが
聞えていた。

アッ、魚がいる、ノ
アッ、ここにも、ノ
バカ、あたりまえでよ。

早く帰りたい。あと
いくつ駅をすぎると
つくんだ。これ、ホ
ームシック？



洞爺湖にて、風が冷たいね



函館駅改札・サア出発



森林博物館へ



行って来ます、オカアサマ



有珠岳頂上を背に、スケッチ会



車中点呼も完全



ここは登別 地獄谷へ 地獄へ・・



眼下に昭和山・カメラの放列



室蘭水族館、見学前にマズ



洞爺スポーツセンターで



ただいまー、オトウサマ



旅の疲れもどこへやら

思 い 出

三年 富 樫 浩 之

時は五月三十日、午前△時〇分、雨
いっこうに晴れそうにない空

でもそんなことは気にとめまい、大きなバック、小さなバック、さまざまなバックが函館駅に集合した。先生の話もうわの空にしてさあ出発だ。

ガラドドゥオー、ドアが開き、バックに足のはえたような小さな紳士淑女は、列車にキズをつけないようにと心をつかいながら静かに？乗り込んだ。座席につく、すぐわきでD51がこのようすを黙って見ている。時どき、*Heidi, you?*とかなんとか、煙を出していたような気がした。

汽車は一路われわれの目的地洞爺に向かつてばく進する。いよいよこれから短いようで長い三泊四日の楽しい楽しい生活をするのだ。みんなが胸をふくらませていることだろう。

洞爺一、洞爺一、三時間あまりの汽車の旅を終え、目的地に到着。

われわれはそれぞれのバスに乗って、大観望一昼食一遊覧船一中の島博物館見学。予定のコースを予定どおり、バスの旅がつづけられていったのだ。

いま思ひ出す修学旅行の楽しみは何といつても、旅館の夜に尽きるだろう。

八階ぐらいのホテルをす通りして、二階建てであつたかー

あの乏しい宿へ着いたのはたしか五時前だった。ごはんがまずい。おかわりする気にもなれない。でも、だれかがささやく。「今晚が楽しみだ……」と。そして夜まだ早いのに深夜にそなえて眠っている人、室外に出て、かん声をあげている人、変な話をしている人、花札をやっている人、消燈の時間がきた。先生の声が出た。「早く寝ろ、みんなはいっせいに寝たふりをする。先生が行ったあとは、めんな、また始める。枕投げ、カセットテーブの小さな音声が響く。「先生が来たぞ、」という声で、また一斉に静かになつてしまふ。まるで死人のように。

「起床だぞ。」と友だちに起こされる。時刻はまだ五時か六時、半分眠い目をこすりながら洗面、そして朝食前の一騒ぎ。

洞爺湖・有珠岳・地獄谷・四方嶺。
新日鉄・青少年科学館・水族館。

いろいろなものを見、多くの知識が頭の中にいっぱい入る。りこんだはずなのに、今はからっぽである。記憶に浮かんでくるのは、やはりバスの中、そして、旅館のことだ。

◇朝六時、先生たちの目をぬすんで大浴場で洗面したつけ。
ジャボーン「いい湯だなことは洞爺の湯だヨ」

◇歌つておどつたキャンブファイヤー、その夜のあの部屋。男子と女子と、みんなが集つて歌いまくつたつけ。最後に歌

つた「虹と雪のバラード」は、いつまでもいつまでも、くり返しくり返し止まらなかつた。

◇クイズと歌で遊んだバスの中、やさしかつたガイドさん、その人の名は厚子、東室蘭駅で別れたときのあのガイドさんの顔も忘れられないつけ。

今思うと、何となく過ぎた、三泊四日という短い旅行であ

あつたが、その間に友情を深めたことだけは確かだ。

わが心逸（はや）る 疾（と）く馬へ。

はやくも道をひた駆（か）るわれ

夕べはすでに地と睦（む）び

山々には夜の惟（ま）く かかる

樗（し）ははや霧をまといて

そそりたつ臣人のすがた

闇は林の繁みより

百千（ももち）の黒き瞳を射放つ

外は雪が降っている

ぼくは今、ゲーテの詩集を手にながら思い出をかみしめている。

我々の本心とは……

三年 出町 妙子

人は時として旅に出て、すべてのことから逃れようとするものだ。なんて、カッコイイことをいつたけれど、我々の旅は、すべてから逃れるどころか、時間においまくられて、「あつた」というまでに、3泊4日の修学旅行の幕がおりた。8カ月たった今、思いでをいつたら、数はつきないけれど、私のちよつとした思い出と言おうか、だれもが思ったことかもしれないが、のべてみたいと思う。

まず、我々の泊ったホテルについて。

最初に、2泊したホテルは、私の口でなんといつたらいいか

わからないけど、ただ言えることは、ひどかつたなあと思う。でも、なかなか、スリルがあつたと思う。このホテルは坂のところにてきてゐるため、男子の室は、下へおりていく状態で上り下りしていると、どこが何階かわからなくなつて、自分の室もどこかわからなくなつたことを覚えてゐる。そして、あとの1泊を登別のホテルでむかへることで、私はあんまり期待をしてなかつたが、前に泊つたホテルとは、うつつかわつてとてもきれ

いだつた。でも、

下品（？）な我

我にとつては、

前に2泊したホ

テルでちようど

よかつたのでは

……？そう、

やつぱり我々が

あばれまわるに

は最適だつたん

じやないかな。

それからなん

といつても、私

の胸に強くやき

忘れられないの

は、キャンブフ

アイヤーである

ほんとうは、2

日目の夜に予定

されていたが、

風が強いとかで

中止になつてし



まった。この知らせを聞いて、約〇〇〇人の人は、氣をおとしたにちがいない？（そうきみでしよ……）だが、やつぱり神様は、この世にいたのです。三日目の夜、夢にまでみた（ちよつといひすぎ）キヤンツファイヤーを開催することができた。大輪がファイヤーを囲み、フォークダンスを楽しくそうに踊ってる人や、先生がやれというからしようがなくおどつた人も、内心はきつと……にちがいない。赤と燃えた火と炎のあいだを、あの人はどこへきえたか、くびを長くしてさがした人もあれば、夜に芽ばえて、2人の愛が発展した人もいるんじゃないかな？そして、好きと言えずにやんでた人も、ひよつとしていたかも？なににつけ、あのすばらしい夜のことは、3年生全員、なにかが思い出としてのことっていることでしょう。

印象

三年 守 克 教

むし暑い夜があけて、すがすがしい朝がやってきた。カーテンを引き、窓を全部開くと日の光がまぶしい。何とも言えない快い肌ざわりの冷気が差し込んでくる。窓の外の世界にもただ白波がよせるばかりで、あとは何も見えない。ぼくはブラウニングの詩の一節を思ひ出した。

Gods in his Heaven,
All right with the world、

何となく平和な気分になったのである。

部屋の中を見ると、ぼとんどの者はまだぐっすり眠っていた。三日間の疲れが出たらしい。ぼくも毎晩騒いだ方だった

が、それほど疲労感はなかった。それに昨晩も、見張りの先生（みんなが寝つくまで、少なくとも三十分は部屋の中に立っていたらしい。）のおかげで、早く眠っていた。

今度はこの三日間にした事を考えてみた。

登別や洞爺など、ぼとんどこ過去に来た所ばかりだったが、天気にはわりと恵まれ、景色は美しかった。写真もだいぶとつたが、フィルムが余つたので、十枚以上は熊にもデジをしてもらった。スケッチはといえどもなのは一枚も書いていない。バスの中では、ガイドが歌っている最中、じつと見つめて困らせた。「さつきから、こつちの方ばかり見ている人……。」と顔を赤らめたが、みんなの視線がこつちの方

ばかり見ている人……。」と顔を赤らめたが、みんなの視線がこつちの方集り、かえってはずかしい思いをしたのはぼくだった。

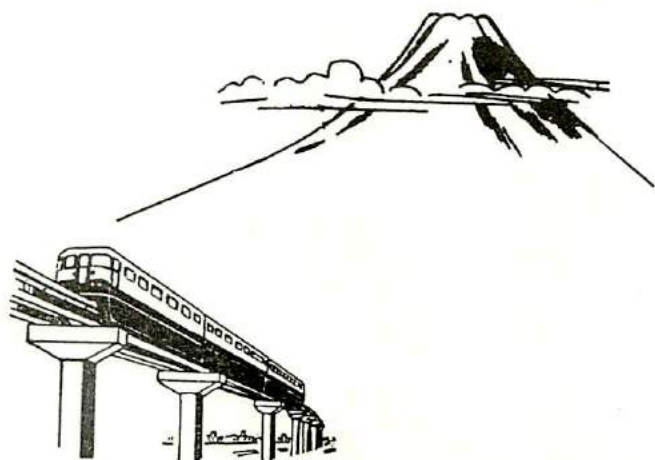
旅館の部屋の悪さにも驚かされたが、食事のまずさにはそれこそ閉口した。二日目には朝風呂にはいった。三時半に起きて、眠気さましに一風呂浴びて、たいへんいい気持ちだった。しかし、朝食の時に、先生から「けさ五時ごろ風呂には



いった者がいるが……。先生に見つかつて注意を受けた者も……。」「という話しがあり肝を冷やした。夜は夜で、せっかく部屋にテレビがあつたので、何か見ようと思つたが、故障していて音だけしか出なかつた。きのう、きたないプールで泳いだ時、あまり無理をして足をつつてしまつた。夜のフォークダンスの時にもまだ足が痛かつた。それに石ころがごろごろしていたので、何回もつまずいてころびそうになつたし、しましいには風が強くて火の粉まで飛んでくる仕末だつた。有意義に過ごした時間はあまりない。ほとんどろくなことはしてゐなかつた。だから印象に残つた事はあまりないが、昨晩のできごとを思い出しては苦笑させられるのである。

向がそんなにおかしいかという、実は見回りの先生なのである。彼へ彼なんて呼ぶ事をどうか許してほしい。十二時ごろに見まわりにきた。あわてて電燈を消して、みんなぐっすり寝ているふりをしたが、彼はなかなか帰ろうとしない。だれかがしびれを切らして見動きをすると、その方をじつとにらんで。目がキラッと光つたような気さへした。ほくもあわててしきぶとんの下にもぐつたまま身動き一つできなかつた。恐ろしい時間が過ぎた。五分。十分。二十分。持久戦だつた。輜郭ははつきりしなかつたが、月の光にぼんやり照らされて、彼がまだそこにいる事だけはわかつた。いつまでいるつもりなのだろうか。また十分たつた。ほくはとうとう抵抗及ばず眠ってしまったらしい。彼はだまつて立つていたが、ほく達は逆らう事ができなかった。彼のまごとな粘り勝ちである。ここまでやるとは思つてゐなかつた。昨夜に備えて、おとつい早く寝た我々にとっては大きなショックだ。最後の夜を楽しく過ごそうと思つてゐたのに……。でも、腹は立たなかつた。ただ「まいつた。やられた。」という苦笑だけだつた。なぜかわからないが、この事だけが特に印象に残つて

いる。



昭和四十七年度受賞一覽

体育部門

中体連陸上競技大会

二〇〇〇 M

J 四〇〇 M R

一〇〇 M H
一〇〇 M

J 一〇〇 M

砲丸投
三種競技
四〇〇 M R

総合 三位

女子 三位

南部 貴昭 優勝

高橋 信二 三位

神尾 隆志 四位

玉木 一成 四位

瀬戸 昭治 四位

上田 浩 四位

金沢 章一 四位

田畑 真理 二位

宮本裕美子 四位

田畑 瑞恵 二位

福田 敦子 六位

佐藤久美子 四位

末武久美子 六位

宮本裕美子 六位

表千恵子 優勝

原田恵理子 優勝

田畑 真理 優勝

J 四〇〇 M R

第十八回中学校放送陸上競技大会

男子

二〇〇〇 M
八〇〇 M R

南部 貴昭 優勝

上田 浩 優勝

沢木 雅人 優勝

守 克教 優勝

広川 政己 優勝

表千恵子 五位

宮本裕美子 五位

田畑 瑞恵 二位

原田恵理子 二位

田畑 真理 二位

滝沢比呂美 四位

福田 敦子 四位

工藤 裕子 四位

滝沢比呂美 二位

福田 敦子 二位

田畑 瑞恵 二位

西村 弘美 二位

中体連野球大会

三種競技

西村 弘美 五位

中体連卓球大会

男子

準優勝

中体連蹴球競技大会

三位

中体連庭球競技大会

男子個人

四十物谷・黒滝組

三位

女子個人

外崎・舛森組

三位

中体連体操競技大会

個人総合

堀 美抄穂 六位

種目別

男子鉄棒

桜庭 光悦 四位

女子鉄棒

小笠原貴代子 二位

堀 美抄穂 三位

全道中学校陸上競技大会

二〇〇〇 M

八〇〇 M R

南部 貴昭 五位

上田 浩 五位

沢木 雅人 五位

守 克教 五位

広川 政己 五位

中学校放送水泳競技大会

男子総合 三位
女子総合 二位

種目別 男子

二〇〇M自由形 三位
四〇〇M自由形 優勝

一〇〇M平泳 二位
二〇〇M平泳 優勝

一〇〇M背泳 三位
二〇〇M背泳 五位

二〇〇M背泳 五位
四〇〇Mメドレー 三位

四〇〇Mリレー 四位
一〇〇M平泳 二位

一〇〇M自由形 二位
二〇〇M自由形 六位

種目別 女子

一〇〇M自由形 優勝
二〇〇M自由形 二位

二〇〇M自由形 六位
四〇〇M自由形 二位

八〇〇M自由形 優勝
四〇〇Mメドレー 二位

一〇〇M平泳 優勝
二〇〇M平泳 優勝
一〇〇M背泳 三位

奥山 優美 優勝
奥山 優美 優勝
岡田美由紀 三位
小林 綾子 五位
久米田・奥山 三位
岡田・菊池 三位

中体連水泳競技大会

種目別 男子

一〇〇M自由形 三位
二〇〇M自由形 五位

二〇〇M自由形 五位
四〇〇Mメドレー 三位

一〇〇M平泳 二位
二〇〇M平泳 六位

一〇〇M背泳 三位
二〇〇M背泳 六位

二〇〇M背泳 六位
四〇〇Mリレー 二位

四〇〇Mリレー 二位
四〇〇Mメドレー 二位

四〇〇Mメドレー 二位
四〇〇Mメドレー 二位

四〇〇Mメドレー 二位
四〇〇Mメドレー 二位

男子総合 優勝

全道中学校野球大会地区予選 準優勝

中体連共催新人戦 優勝

蹴球競技大会 優勝

庭球競技大会 優勝

中山・今野組 優勝
埜尻・黒滝組 三位
長内・川口組 三位
沢川・本田組 三位

武田 幸智 六位
武田 守光 優勝
武田 朋哉 優勝
森 伸二 三位
森 伸二 二位
武田・蔵井 三位
菊池・亀谷 二位

奥山 優美 優勝
奥山 優美 優勝
岡田美由紀 三位
小林 綾子 五位
久米田・奥山 三位
岡田・菊池 三位

種目別 女子鉄棒 小笠原貴代子 二位

種目別 女子

五〇M自由形 三位
一〇〇M自由形 四位
一〇〇M背泳 二位

二〇〇Mリレー 三位
相田・奥山 三位
岩山・菊池 三位

二〇〇Mリレー 三位
相田・奥山 三位
岩山・菊池 三位

二〇〇Mリレー 三位
相田・奥山 三位
岩山・菊池 三位

二〇〇Mリレー 三位
相田・奥山 三位
岩山・菊池 三位

二〇〇Mリレー 三位
相田・奥山 三位
岩山・菊池 三位

二〇〇Mリレー 三位
相田・奥山 三位
岩山・菊池 三位

二〇〇Mリレー 三位
相田・奥山 三位
岩山・菊池 三位

二〇〇Mリレー 三位
相田・奥山 三位
岩山・菊池 三位

二〇〇Mリレー 三位
相田・奥山 三位
岩山・菊池 三位

二〇〇Mリレー 三位
相田・奥山 三位
岩山・菊池 三位

二〇〇Mリレー 三位
相田・奥山 三位
岩山・菊池 三位

優勝

◆文化部門◆

市立函館図書館第一分館主催

第一回 父の日・母の日記念作文・詩

。入賞

桜庭 光悦

全国読書感想文コンクール

函館地区審査通過者

守 克教
川口 裕之

全函館児童生徒席書大会

・銀賞

黒丸 葉子・上出 幸夫
富山美枝子・中野 哲宏
志平みゆき・田畑 瑞恵
高萩 清美
板倉 優子・稲生 祐子

・銅賞

古館 隆行・板倉 満
山本 一樹・加藤 珠貴
北島 一枝・佐々木真可
高橋いく子・伊藤 妙子
島津 房世・重村 朱実
本田 恵子・宮崎 昌子

第十九回全市小中学校美術展

入賞

入選

グリンクロス賞 岡本 康二

南部 貴昭・土橋早知子

斎藤 裕・吉田久美子

田辺 康一・花摘 亨

高田 緑・那須野あけみ

土屋 弘子・石川 伸朗

山内 高志・沢川 抄子

瀬川 直子・小林 綾子

森 綾子・対馬 大平

岩山 美緒・藤本 純子

木村 信子・木村ちはる

秋山 鷺・成田 朱美

打田 幸一・北川真樹子

柴田 肇・本谷 道幸

里村 弘子・金谷 俊朗

蔵井 朋哉・渡辺 雅子

加藤 智明・杉野奈津美

塚田 政利

○日本学生科学賞 北海道

優秀賞 「ろうそくの燃焼について」

原田 香織

優秀賞 「電球の放射熱について」

田辺 康一

優秀賞 「ミミズの再生について」

梨木 雅俊

○青少年科学技術振興作品展

函館市長賞 「よく出る食塩の容器」

玉野 善信

努力賞 「外出時の確認板」

山野井保子

「分度器（改良）」

山内 英明

「長さ角度測定コンパス」

島脇 絵理

「かけやすいアイロン台」

田畑 瑞恵

「便利なちり紙入れ」

島谷 直樹



職 員 住 所 録

梶原 四郎	氏 名		住		電 話
村上 健介					
泉 良子					
遠藤 一郎					
大平 元昭					
岡本 守					
笠島 寿泰					
門脇 初代					
金崎 絃一					
金田 豊秀					
亀松 光美					
川原 工子					
小西 孝男					
斎藤 正宏					
斎藤 美都子					
佐々木 雄幸					
進士 継昭					
滝村 浩平					
館洞 光宏					
玉木 忠	氏 名		住		電 話
大福 栄一					
長尾 敬子					
永谷 嘉一					
八反田 稔					
林 俊夫					
保坂 武道					
本堂 潤悦					
村田 倖子					
米田 忠夫					
山田 孝子					
高橋 市雄					
杉浦 ミヤ子					
柳沢 美代					
高田 広栄					
木村 照江					
沢村 佐次郎					
藤井 光雄					



三年 A 組

TWO HEADS ARE BETTER THAN ONE

人生は、山あり谷あり。おとこは山と谷を、こえなきやならぬ
伊藤 光弘

LET IT BE「なるがままに」

らくがきでもいい。青春の一ページを空白にするな
今井 雅彦

終りではなく。初めということばを別れのことばとしよう
江刺家大介

バイバイ
大高 智

男はだまって
小倉 昇

人間、自分あってこそ、これからの人生を、あじわえる
木村 幸智

一に勉強、二に勉強、三四がなくて、五に遊ぶ。
木村 幸智

中学校生活と別かれ、みな新しい生活に向って行く
新保 哲也

我友よ、青春に夢を、中学生活にその希望をもって前進せよ！
須藤 司

在校生諸君よ。おおいに遊ぶ、三年になってからでは遅い
鈴木 秀勝

在校生諸君よ。おおいに遊ぶ、三年になってからでは遅い
竹内 敏明

温室の花より、野の花になれ

過去・現在・未来だから振りかえることもたまには大切だ
津軽屋裕之

THINK ABOUT THE PEOPLE

ああ朝8時から夕方4時過ぎまで、ごやっかいになった五
野田 滋

人生、べしと勝負。おれは「勝つ」やってみなければわかん
堀 清人

うれしい/やっこの反モンロー主義中学校を卒業できる
水野 真一

馬鹿の真似する利口者、利口の真似する馬鹿者なのだ
宮本 隆平

やっとな卒業した。これからも ABNO MANE に生きるのだ
村上 雅章

HE IS NOT MY BUSINESS
守 克教

悲しみの底に在るとき友のことばほど、うれしいものはない
矢吹 真信

だめだ/と思ったことでもやってみることが必要ではない
相田 優子

秋の終りの雪ってうれしいけど冬の終わりの雪って淋しい
阿部 弘子

さよーなら学校、さよーなら皆さん、さよーならかれしん？
大川 典子

入学してからもう三年。今いろいろな思いでといっしよに
奥山 優美

卒業する
金谷 朋子

本当の友情は、後ろから見ても、前から見ても同じもの？

佐々木ひろみ

友情は瞬間で咲かせる花、そして時間が実らせる果実である。

佐藤久美子

卒業って、学校を追いだされることなのですか。クソッ！

庄司 淑子

春風と共に卒業。長いようで短かった三年間の思い出の一ページ

住吉 友子

きょうの日はさようなら。でも、またあしたがあるのです

高橋裕規子

今はさようならだけどモントのさよならはずっとあとのこととす

高山 貴美

楽しいときには、笑いましょ。つらいときにも笑いましょ

土橋早知子

思い出多い五校での一ページ胸にひめ新しい一ページにまた挑戦

中田 香織

ハーマニカと青春とでは、どっちがいい音色を出すのでしょうか？

能戸 典子

明日に行く道が見えない時も友と探そう心に勇気を、生きて行く勇気を

保科千恵美

大きな障害にぶつかってこそ、人間は大きく成長するのです

丸山 薫

この世につかれはて、生きるのぞみをなくしても、君は、はげましてくれ

市内五校郭町三九一三 溝尾 悦子

三年 B 組

七年目か、ああつかれた！

荒関 義之

人生は生きる事だ

ゆっくり走ろう

さらば友よ、明日はそう遠くない

男は世界の奴隷か！

ああ、これが青春

苦しみがあるから楽しみがある

バラは棘まで美しい若き日の思い出、オレは優子が好きだ

(竹内を見よ)

思えば短かった

KNOWLEDGE IS POWER、

おれは、美雪が好きだ(矢野を見よ！)

後悔先に立たず

支離滅裂

飛び出せ老人

YOU MUST CONQUER THE MANY TRIALS.

ゆっくり行くことを恐れるな

一日六時間のむだづかいネ

明という言葉を中心に大きくかきたい

何事も根柢なのだ

人間はただ現在に生きるだけ、そして未来に向う

岩城 利之
上野 登

植村 稔

長内 保

片岡 信一

金道 雅樹

金子が好きな

木野下雅之

小西 政己

佐藤 喬一

竹内 秀之

竹下 聡

竹島 智広

千島 孝司

成田 淳一

平田 修一

広川 政己

深海 正信

福田 俊行

三浦 恒男

今日は空が青くノル・ウエーの森は美登里（木野下を見よ）

矢野 慎

クタバレド コンジヨウガエル ソシテミンナダ

吉田 チヤオ 智

明日になればまた新しい陽がのぼる

相川 さとみ

また一步未来へ前進！

伊藤 玉江

もう一度、プールで水泳の練習がしたい

加藤 恵

二つの良心はけっして同じではない

木村

真実とバラには、とげがある

葛巻 明美

青春はなにごとにも経験である

黒川 順子

人生は苦、又、苦の連続である

酒井 麻千子

真実に生きよう

佐藤

心に太陽、そのまま前進

沢田 美津子

義務教育終了 バンザイ！

島脇 絵理

なにごとにもマイペースで進もう

高橋 薫

友情は喜びを二倍にし悲しみを半分にする

田原 良重

若者は確実な証券を買ってはならない

長倉 浩子

確実に一步一步を

畠山 由起子

高い壁をこえた後には安楽の地が！

努力

夢多き青春の日々に人間を愛する喜びを知ろう

原田 恵理子

明日より今日を大切に

増田 美保子

松村 朋子

山内 奈緒美

三年 C 組

金子光晴とピンク・フロイド。自己満足と自己嫌悪。最後

が詩作 人間は常に遠方と目の前を見ていなければならないのです。

阿部 擁一

人生は一度、二度とはこない

市川 紀美雄

最後まで根性でやりとせ！

今村 優

三年間、顔面蒼白

岩本 明弘

人生は、友情・愛情・努力・根性・闘志でつらぬこう

岡 高志

つかれました。おわりー

岡本 祐二

今日を大切に、そして明日のために、その一・その二・

その三

小野寺 均

さよならだけが人生ならば、人生なんて……？

加藤 泰彦

川村 稔

平和とは一時的な相手とのだまし合いである

自分の一步を確実に進もうね

この世に苦しみがあればこそ喜びもある

シカゴ

小泉 悟

後輩のみなさん、中学校生活を、明るく、楽しく、すごして
ください

一直線に進むだけが人生ではない

さくら

Art is long, life is short

沢田 修
富山 浩次

我が母校さようなら

長川 秀正

後輩よ大志をいだけ!

中野 勝弘

未来現在東西南北、中学時代義務教育、青春賛歌喜怒哀楽
……無

平松 隆行
古村 司

自分との戦いに勝ったものが勝利を得るのだ

三井 健一

一足一足歩いて人は遠くへ行く

太田 節子

決められた運命にさからってはいけない

柏山 幸子

夕日にあすの希望をつなごう、あすの朝日には希望が満ち
ている

加藤 昌子

我々は今出発する。未知の世界へと

金沢 智子

自分にうち勝つことは、勝利のうちの最大のものである

明日へ向かって前進!

菅野不二子

希望への道を進もうヨ

菊池 幸子

われらは何処へ行くか、われらは何であるか、
処へ行くか?

小島 好恵
小林裕美子

希望を持って常に前進!

今日ですべてが終る。今日ですべてが変る。今日ですべて
が始まる

佐藤 弘美
白井 啓子

涙って、人生にとって一生かせない物だと思ふ。でも時
には、笑ってね

高橋 幸子

友と本と音楽とが爆発寸前の気まぐれな私の救いでした

田沢 郁子

「よく遊び、よく遊べ」この名言(?)を私は三年間忠実に守っ
たのです?

足沢 英子

今日の努力は明日への成功

寺下美奈子

知らない世界に身も心も脱出したい

中村 まり

私は十五才!まだ旅は続くのです。新しい未知の国へ歩み
は続く

松尾 静

今日の希望は、明日へと変る。明日の希望は、
未来へと続く

三上 嗣美

明日という日は、果てしなく遠い。だが、また陽のはなる

百沢 洋子

山崎真紀子

忘れな草をひとつ私は貴方においていきます。いつまでも忘れないで。 大和 雅子

三年 D 組

がんばろう、がんばれ、がんばります、がんばったが、あーもうだめだ 四十物谷久志
三年間の教科書を、燃やすのは、とても楽しいだろうな！

おれは男だ！ 朝風 安男
……友よ、さようなら 池田 猛志

今年、二・三年になる君たち、よりよい五稜中学校にしてくれたまえ 小笠原 智
Boys be ambitious. 小川 敏美

Study Hard. 亀谷 人己

刈り上げ反対、どうせやるなら、五分刈り賛成 木村 正行

Look at Yourself. 坂野 穂

まつてるね、千葉ちゃん SANTANA 鈴木 健司

さらば友よ、五稜中学校 田原 強

モントリオールで、会いましょう 野上 哲

野田 康夫

もう物を、こわさないと用務員のお父サン、お母サンが、喜こんでいました 府柴野邦彦
顔のまづい人にも、やさしく、しんせつに

どうせこんな言葉は、歴史には残るまい 富士 稔

俺が五稜を卒業すると、五稜の生徒数が一人減る 牧野 裕司

空白の世界へ、行ってみたい 村山 藤樹

もう、ぼくの姿は見えないのです……よ 森 功

十年後。喫茶ホコホコのチャイムが鳴る。「チンボーン」 吉田 明弘

未来の店主より 吉田 康雄

一直線 佐々木和也

青春とは、悔いのないように、生きること！ 板倉 優子

あの素晴らしい愛を、もう一度 大友るみ子

ライバルさん、お元気でヨロ 久保田和子

さらば友よ！ 小泉 雅子

友情を大切に！ 酒井とよみ

友情の綱を、絶えることなく、いつまでも 佐々木久美子

いつでも夢を！ 佐藤 裕子

さよなら、〇〇君、又いつか 斯波 厚子

進め若者！ はばたけ青春！ 仕掛人！ 田中 典子

信じ合ふことの素晴らしさ！

何かが、始まる！

愛と死！

さらば涙だといおう！

打倒！ 我青春

五稜は一日にしてならず

ハロロ……ハイ！

青春をつっ走れ！

田畑 真理
野村 裕美子
巻口 敏恵

益田 郁子
宮崎 幾久

吉田 久美子

和田 梨枝
田中 邦枝

知識は力なり
うちやかて、北の空に輝いてみせるんや！

答案用紙はもはやトイレットペーパーにもならなかった？
(かたすぎて)
最低にして最高の道。これこそ我人生の進む道

目ざめよ若者たちよ！

もうすぐ春が来る？

明日に向って大空へはばたこう……(鳥より)

勉強は、一日にしてならず

ああ！これでやっと人並に卒業できる

みんな能力の限界はかくせないなあ……

打算的な人間になるなら、死んだほうがまだ！

ニートンよ。おまえはなぜそんなものを発見したのだ

「五稜はよかった」まあ……いいや／日記にはそう書いてお

樋野君の辞書には不可能という言葉は？「あーあ」やっぱ

若いて、すばらしい？

我一人行グ道ヲ

柏木 博

金沢 章一

川口 裕之

佐藤 尚之

渋谷 武

佐田 真吾

高橋 信二

田中 征一

富田 満

鎌川 克

長谷 耕一

浜田 実

早坂 和典

樋野 昌彦

荒川 たか子

池田 幸穂

三年 E 組

さらば、恋人~~~~~

努力あるものに人生の道の栄光あり。他人の見て自分を直せ！

勇気は成人の智にして向こう見ずは青年の愚行なり

じゃあね！ 一町田敦司

あ…… 市内田家町一七ー四一

人生、いたるところに断崖多し

一生一命！ 岩佐 正宏

希望に満ちた三年間。絶望のどん底におちた三年間 小田 誠二

垣坂 清

EASY COME, EASY GO、

胸をはって、青春のテープをきろう！

自分自身に勝て。自分自身に勝った時、勝負は決まる

「淡い初恋消えた日は……」なんていつの事やら？

何かがまっている／未来に向かって歩き始めよ！

マタセタナー ジャニー サイナラ サイナラ

やっとな卒業します／苦勞しました

卒業生はみな神様でした？

先生、三年間いろいろとすずれいしました

七歳ニシテ学ニ志シ、十五歳ニシテ男ヲ知ル？

「ハイノわかりません」これが私が毎日使用してきたことばなのだ

「卒業した方がいいべがぁー」「そりゃぁーしねえよりした方がいいべなあ」

彼も人なり、我も人なり

後輩よ、遊べ遊べ遊べ／けどそのあととはしらないよ

「せんせい、せんせい」それはせんせい！

井端 郷子

今井 昇子

大川原博美

大塚恵美子

岡田美由紀

久保 博子

久米田宏子

竹中 和代

常田登志子

出町 妙子

寺田 恵

野田美知恵

舛森真理子

宮野佐智子

村山 清美

時のこうから、二度と味わらなくなろ。覚えておけ！

TO DO IS HARDER THAN TO SAY

茂筑 文子

三年 F 組

女なんかーIt's not my business. ……はたしてそうかなあ。

神は信じるが、頼りにはしませう

腹が立ったらなぐろうじゃないか……空気を

自由になりたい

汗を、血を、涙を流し、鎖国日本の鎖を切ろう！クライマックス？

急げ、まだまにあう

Blood Sweat&Tears……これでやしま

泣いても笑っても……

三年F組解散の次はSTONESか？OR田中内閣か？

LET'S BEGIN. I LOVE ○○.

アーアーアー 島五郎まだ十五

茂筑 文子

吉野 瑞子

穴沢 泰裕

石岡 正樹

河本 信也

紀ノ国 仁

木村 茂治

黒柳 貢

斎藤 裕

坂本 晴彦

佐々木裕之

柴田 仁司

島谷 秀樹

I am going my way.

ミナサン、デハ、オヤスミナサイ

東峰得意の魔のバツク致め

I don't know its not my business.

時間ーそれは学ぶことでプラスになるもの

もしもあなたに会わなかったら、この私は?……

オー、人生は一つなのだ

男が先か?女が先か?たぶん……。でないとぼくらはどこに?
MY Elder Presleyー好きにならずにいられなかつたこの胸のときめき

終わった。終わった。パンザイ。でもちょっと悲しいな

自分に敵しく、他人にやさしく……そう、私は博愛主義者

なのです?
青春の一ページー思い出の中学時代

最後に頼むは自分ひとり

光にむかう、われは栄えあれ

清藤 昭彦

寺島 浩

東峰 一男

富樫 浩之

西谷 直記

松本 鏡介

柳谷 博

和田 昌晴

山本 孝志

相田千代子

五十嵐範子

伊藤久美子

稻生 祐子

宇野久美子

「友」ーそれは一番すばらしい宝

またあり日までリヨウナラー先生、おたっしやで

「さようなら」ということばはこんな時のためにあるの

しょう
青春の第一歩はあこがれで始まり、涙で終わろうとしてい

る
はやく人間になりたいノ

悲しみの中学生時代。逆……ノ

「さようなら」なんて言っちゃイヤノだって悲しいモンノ

チャンスは一度
夢と希望にむかって、ガンバラナクツチャ

先生ノ受験料三〇〇〇円出してエーノ

ウチはこれでも三年間五稜で過ごしたんや、木ナ、皆さん

サイナラ
時間チャン、ソコデストツパシテチヨーノ

このせつなさわかる?もう少しバカに生まれたかった

青い果実の思い出ー私の心の一ページ

美しき若葉……わたしのことです?

長内千恵子

加藤 昌子

菊池由美子

岸川真紀子

斎藤 祐子

新堀美栄子

末武久美子

田中 成実

茶野由美子

津田 早苗

木ナ、皆さん

外崎ひとみ

長嶋 作子

早川 悦子

林 直美

堀 美抄穂

編集後記



那須野 あら、もう終ったの、やはりなんとなくでき上った
という感じで…… 一番楽をしたのは私でしょうね。

宮野 みなさんに楽しみながら読んでいただけると幸いです。
舛森 なんとなくできあがつたような感じで自分達でつくつ
たという実感がわかないね。

垣坂 成功を求めるより、失敗にたゆまぬことが大切である
教訓(カッコイイ)

しかしエゴイストになつてはいけないうね。団結力が必
ずなんです。

野下 百ページ近い大物を、よくやったよ。団結力のおか
げかな。

南部 なんとつても終ったことだけは嬉しいね。来年は誰
がどんな気持ちで書くんだろうね。

やとわれ編集員 玉木先生

みなさんの協力で、五稜12号が出来上りました。ことしは
学級プロファイルを思い切つて一頁、学級独自で編集する
ようにしました。それが特色の一つでしょう。はじめの
せいかどの組も何うなく一つの型にはまっていたようです
が、来年は工夫してほしいですね。

印刷所の方にも無理をたのんで、少ない予算で、こんな頁
数の多いものをつくれ満足しています。この本たいせつに
してやって下さいよ。では来年まで皆さんお元気で。
卒業生の皆さん、活躍を祈ります。

【五 稜】 第12号

昭和四十八年三月 十日 印刷
昭和四十八年三月十五日 発行

編集 函館市立五稜中学校

電話五一―三四五八番

発行 生徒会

印刷 五十嵐印刷

電話五一―八七二四番
(非売品)